

九州地区大学図書館協議会誌

第 55 号

2012

九州地区大学図書館協議会

目 次

【巻 頭 言】

地域と共鳴できる大学図書館を目指す	高良 倉吉	1
-------------------	-------	---

【寄 稿 論 文】

大学生の文献検索行動に関する考察		
—初年次学生を対象とするアンケート調査から—	山口 真也	3
学生との協働による魅力ある図書館づくりを目指して		
—佐賀大学附属図書館における7年間の学生選書活動（さらりーず）の過程と成果—	永安 樹	8
琉球大学びぶりお文学賞における取り組み	稲永 晶子	14

【図 書 館 紹 介】

福岡大学図書館	19
国際医療福祉大学九州地区キャンパス図書館	22
沖縄科学技術大学院大学図書館	25

【加盟館ニュース】	29
-----------	----

【図書館活動報告】	50
-----------	----

【事務局報告】	61
---------	----

【協議会総会記録】	63
-----------	----

【資 料】

九州地区大学図書館協議会会則	76
九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則	77
九州地区大学図書館協議会入会に関する細則	78
九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規	82
九州地区大学図書館協議会表彰規程	82
研修会の補助に関する申合せ	87
副幹事館の役割	89
九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について	89
加盟館一覧	91
役員館一覧	95
総会当番館一覧	99

地域と共鳴できる大学図書館を目指す

高 良 倉 吉

■はじめに：大学図書館の将来像をどう描くべきか、という問いに対する答えはいくつもあるはずなのですが、「地域と共鳴できる大学図書館を目指す」、という目標は依然として重要だと考えます。大学における教育・研究活動に対する不可欠な支援機能としての役割を磨き続けるとともに、地域に対しても中核的な情報基盤であるとの自覚が持てる大学図書館でありたい、と思うのです。

この目標は、グローバルスタンダードに適応できる大学図書館を目指す、という普遍的な課題と矛盾するものではなく、大学に属すると同時に、地域にも属しているところの大学図書館のポリシーに係わる問題なのだと思います。

沖縄の場合を例に挙げて説明します。

■地域のための大学図書館：明治・大正・昭和戦前期を通じて、沖縄県には大学およびそれに準ずる高等教育機関は設置されず、師範学校や旧制中学しか存在していませんでした。皮肉にも、太平洋戦争で日本が敗北し、沖縄県のみが日本の施政権から分離され、長期におよぶアメリカ統治時代が始まった直後の1950年に、沖縄初の大学としての琉球大学が開学するのです。

琉球大学の開学が実現するためには、為政者であるアメリカの理解と協力が重要であったことは事実なのですが、それ以上に民間サイドの熱い思いがあったのです。

家計を支えるために、住み慣れた郷土を出て、ハワイや南米などの異国に多くの沖縄県民が移民しました。そして、様々な苦労を重

ねながら、現地に生活の基盤を形成したのです。日米最後の決戦と呼ばれた沖縄戦により郷里が甚大な被害を被り、しかも、日本から切り離されアメリカ統治が始まったことを知った海外の沖縄出身者たちは、故郷のために何ができるか、真剣に検討したのです。その結論の一つが、「沖縄に大学を創ろう！」ということだったのです。早速、ハワイを中心に沖縄系移民のあいだでカンパ活動が推進されました。琉球大学は、その浄財を原資にして開学の日を迎えることができたのです。

つまり、中央政府による高等教育機関整備方策に基づいて琉大が誕生したのではなく、「沖縄という地域のために大学を！」と願った沖縄出身者の思いを土台に開学することができたのです。したがって、開学当初の時点から、琉大は「沖縄という地域」の課題や夢を担う責務を帯びており、附属図書館もまたその点を自覚しながら運営されてきたのです。

■関係資料の収集：教育・研究に対する支援機能の充実を図る一方で、琉大図書館が不動の方針として掲げたのは、沖縄関係資料の収集と保存、そして活用という課題でした。沖縄戦の激しい戦火により焼失、散逸してしまった郷土資料を、乏しい予算と相談しながら、とにかくコツコツ集めようと努力したのです。

周知のように、沖縄戦（1945年春～夏）において県民の4名に1人は命を失いました。失ったのは人命ばかりではなく、かけがえない文化遺産もまた犠牲になりました。無形の文化遺産、例えば音楽や舞踊、食文化、空手などは、それを担う人びとが戦火をかいく

ぐって生き延びることができたならば、戦後において確実に再生することができます。

しかしながら、有形の文化遺産である建築物や文献資料、美術工芸品などは、人命と同様に戦争によって確実に失われます。失われたものを補完できる有形の文化遺産、特に文献資料や貴重書をターゲットにして、古書店や蔵書家、コレクターなどの世界に出回る沖縄関係資料をせっせと集めました。さらに、戦火をかいくぐって伝えられてきた民間の幾多の資料の寄贈を受け入れてきました。

加えて、沖縄の歴史や文化を研究した専門家の蔵書や研究資料を文庫として受け入れたばかりでなく（伊波普猷文庫など）、沖縄のために活用して欲しいという志により寄贈された資料（矢内原忠雄文庫など）も書庫に収まっています。

60年余にわたるこの活動の成果として、琉大附属図書館は沖縄関係資料の一大センターとしての存在感を発揮するまでに成長しました。沖縄という地域のための大学、その拠点としての附属図書館という責務をある程度達成できたのではないかと思います。

■**地域情報の発信**：附属図書館が集積した沖縄関係資料の一大ドキュメント、という成果に満足するだけではなく、むしろ、その成果や蓄積を外に向かって開いていく努力が不可欠となります。

琉大附属図書館が所蔵する貴重書をデジタル化し、館外からも容易に利用できるよう、琉球・沖縄貴重資料デジタルアーカイブ事業を始めました。オリジナル画像や翻刻・解説文のみではなく、重要資料に関しては英訳を付しています。沖縄関係文献情報データベース事業も開始しました。沖縄の歴史・文化を

中心とする既刊の著書や論文、報告などに関する文献情報を整備し、いわば沖縄関係文献総合目録を目指すものです。

沖縄地域学リポジトリ事業も始めました。沖縄に係わる多くの研究機関や団体において刊行されてきた紀要・機関誌に発表されてきた諸成果を、当事者の理解と協力を得て琉大附属図書館において一元的に蓄積・保存し、広く発信できる体制を構築したのです。

さらに、年1回、附属図書館が所蔵する沖縄の歴史・文化に関する貴重な資料を、県内の公共図書館と連携しながら、市民や県民に直に鑑賞していただくという趣旨の貴重書展も実施しています。キャンパスを出て、地域のために出前サービスを行うという趣旨ではありますが、それ以上に、皆さんの理解と協力のおかげで、このような資料を収集することができました、その恩返しです、という思いを込めて開催しています。

例えば、2011年度の貴重書展は八重山の石垣市立図書館と連携して開催することができましたが、その意図は、開学から間もない時期に石垣島の旧家から附属図書館に寄贈された重要資料の里帰り展を是非実施したい、ということでした。大切な地域資料をこのように保管し活用しています、というアピールを行うことが、地域に属する大学図書館に求められる責務だからです。

■**むすび**：大学図書館という施設・機能の役割や性格は、今後大きく変容していくのかもしれないかもしれません。しかしながら、どのようなプロセスが展開するにせよ、地域と連携できる大学図書館の存在感が揺らぐことはないと思います。そのために更に何ができるか、琉大附属図書館は模索を続けています。

たから くらよし
(琉球大学附属図書館前館長)

大学生の文献検索行動に関する考察 —初年次学生を対象とするアンケート調査から—

山口真也

1. はじめに

筆者は、勤務する沖縄国際大学総合文化学部日本文化学科にて、1年生向けの必修科目「人文情報基礎」を担当している。キータッチの練習、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト、学内ネットワークの使い方等、基本的な情報技術の修得を目指す科目として位置づけられているが、筆者の専攻が図書館情報学であることから、レポート作成や研究発表で必要となるアカデミックスキルの1つとして、図書館機能を活用した文献検索テクニックのレクチャーも一部取り入れている。

日本文化学科では「卒業論文」の執筆を卒業要件としている。専門研究を始める3年生になっても、基本的な文献検索方法を習得していないという問題が以前から教員内で指摘されていたこともあり、各ゼミナールで個別に行われていた指導を筆者が引き受けて、本授業に取り入れたという経緯がある。本ガイダンスは2011年度から実施しているのだが、初年次学生の文献検索の様子を見ると、パターン化された問題点がいくつかあるように感じられた。今年度はそのパターンを明らかにし、今後のガイダンスに活かすべく、アンケート調査を実施することとした。本稿ではその結果を紹介しつつ、初年次向け文献検索ガイダンスの課題を考察してみたい。

2. 調査の実施方法

「人文情報基礎」は前期開講科目であり、4月～8月上旬の期間に開講されている。文

献検索ガイダンスも本来であればこの期間に開講すべきだが、別の必修科目である「基礎演習 II」（後期開講）でグループ発表が取り入れられる時期に合わせた方が学習効果がより高まると考えて、10月上旬に実施している。今年度は、2012年10月14日（日）に、1年生全体を学籍番号順に2つのクラスに分けて、前半グループは1・2時間目の時間帯（9時～12時10分）、後半グループは3・4時間目（13時～16時10分）の時間帯を使って開催した。

本ガイダンスで実施したアンケート調査は2種類ある。まず、説明を始める前に、資料1の用紙を配布して、どのようなキーワードを使ってOPACを検索しているか、ということを確認している。資料2の用紙はガイダンス終了後に配布して、当日の説明内容を事前に知っていたか、さらに、普段のレポート作成等でどのような情報源を使っているか等を確認している。当日の出席者は132名（男性45名、女性87名）であり、休学者を除くアンケートの回答率は97.8%であった。

3. 調査の結果

3.1. 使用するキーワード

第一のアンケートでは、レポート等の課題が出た際、テーマに関する情報を収集するために、どのようなキーワードを使って、OPACを使用しているかを確認している。学生にはあらかじめ「複数回答可」であることを伝え、思いつくキーワードを羅列するように指示し

ている。取り上げたテーマは「魔女裁判」と「吹抜屋台^{ふきぬきやたい}」の2つである。「吹抜屋台」については、前期に開講された別の必修科目の中で、「源氏物語絵巻」を紹介する際に触れているのだが、未記入が多かったため、詳細な分析が難しかった。ここでは、特徴的な回答が見られた「魔女裁判」について、以下の集計表をもとに考察してみたい。

■表1 初年次学生が指定したキーワード
[9人以上が回答したもの]

キーワード	男	%	女	%	計	%
魔女裁判	27	60.0	53	60.9	80	60.6
魔女	12	26.7	25	28.7	37	28.0
裁判	8	17.8	15	17.2	23	17.4
魔女_裁判	2	4.4	18	20.7	20	15.2
魔女狩り	4	8.9	5	5.7	9	6.8

[キーワードを過剰に追加したもの]

魔女裁判_原因	1	2.2		0.0	1	0.8
宗教裁判_キリスト教		0.0	1	1.1	1	0.8
フランス_魔女裁判		0.0	1	1.1	1	0.8
文献_魔女裁判の	1	2.2		0.0	1	0.8
魔女_裁判_中世_ヨーロッパ		0.0	1	1.1	1	0.8
魔女裁判_起源	1	2.2		0.0	1	0.8
魔女裁判_刑		0.0	1	1.1	1	0.8
魔女裁判_資料		0.0	1	1.1	1	0.8
魔女裁判_著者の名前		0.0	1	1.1	1	0.8
魔女裁判_歴史	1	2.2		0.0	1	0.8
ヨーロッパ_文化_裁判		0.0	1	1.1	1	0.8
歴史_中世ヨーロッパ_魔女		0.0	1	1.1	1	0.8

本学図書館の OPAC は NTT NALIS Version 1.0.0.0 である。再来年度にシステムのリニューアルを予定しているが、現在のシステムでは、「魔女裁判」について書かれた図書を探すためには、そのまま「魔女裁判」と入力しても、「魔女の裁判」「魔女と裁判」などのタイトルはヒットしない。有効な検索方法は、「魔女_裁判」と単語を短く切ってスペースを入れて AND 検索を実行するという方法であるが、表1に示した通り、6割を超える学生が指定したのは、「魔女裁判」というキーワードであり、「魔女_裁判」を指定できたのはわずか15.2% (20名) という結果となった。特に男子学生は4.4% (2名) しかこのキーワードを使っていない。キーワードは「できるだけ短く・スペースで区切る」という方法は基

本的な情報検索方法と思われるが、初年次学生にはそれほど定着していないようである。

もう1つ、筆者が想定していた回答は、「魔女」のみをキーワードとして指定する方法である。本学図書館の蔵書は40万冊規模であるが、西洋史を専攻する学部学科がないため、「魔女」というキーワードだけでも、ヒットする図書はそれほど多くない(60件程度)。「審判」「狩り」といった同義語を含むタイトルの図書を探し出すには、固定性の高いキーワードである「魔女」だけを指定して検索し、一覧から必要な図書を探し出すという方法も考えられるだろう。このキーワードを書いた学生は28.0% (37名) となっており、複合キーワードを指定する方法よりも高い値を示しているが、それほど高い値ではない。

調査結果についてもう1点筆者が気になるのは、キーワードを短く切るということは知っているが、キーワードが多ければ多いほどよい結果が得られると誤解している学生が一定数存在するという点である。例えば、「魔女_裁判_中世_ヨーロッパ」「歴史_中世ヨーロッパ_魔女」というように、キーワードがどんどん増えていくパターンや、「魔女裁判_刑」「魔女裁判_資料」「魔女裁判_原因」など、余計なキーワードを追加してしまうケースである。こうした誤解の背景には、Yahoo!やGoogle等の存在があるように思われる。検索エンジンではそのサイトの文字情報を全て検索対象とし、誤字脱字なども正して検索結果を返してくれる。反面、検索結果が膨大になるため、具体的なキーワードを追加して、ノイズを減らさなければならない。この検索方法に慣れているせいか、同じ方法が OPAC でも使えると考える学生が存在すると思われるのである。もちろん OPAC も今後は検索エ

ンジンに近づいていくと思われるが、現時点ではこうした機能は実装されていない。文献ガイダンスでは、インターネットと OPAC とでは検索方法が異なることを強く意識させる必要があるだろう。

3.2. 文献検索手段に関する認知度

第二のアンケートでは、Q1 としてガイダンスで取り上げた文献検索の各手段について、事前にどの程度認知していたかを確認している。気になった点をいくつか紹介しよう。

■表2 文献検索手段の認知度

選択肢	男	%	女	%	計	%
①OPAC	40	88.9	80	92.0	120	90.9
②百科事典	23	51.1	34	39.1	57	43.2
③索引	23	51.1	57	65.5	80	60.6
④ジャパンナレッジ	0	0.0	3	3.4	3	2.3
⑤目次	24	53.3	53	60.9	77	58.3
⑥県内横断検索	21	46.7	52	59.8	73	55.3
⑦WebcatPLUS	10	22.2	23	26.4	33	25.0
⑧WebcatPLUS (連想検索)	9	20.0	12	13.8	21	15.9
⑨Google ブックス	6	13.3	2	2.3	8	6.1
⑩Cinii	2	4.4	3	3.4	5	3.8
⑪聞蔵(朝日新聞DB)	0	0.0	3	3.4	3	2.3

まず、「①OPAC」の結果をみると、認知度は 90.9% (120 名) と非常に高いが、基本的なツールであるが故に、残り 1 割が〇をつけていない点が気になる。沖縄国際大学では初年次学生を対象とし、図書館主催の利用オリエンテーションが入学直後 (5 月頃) に行われているが、十分な効果が得られていないのだろうか。「②百科事典」と「④ジャパンナレッジ」は、文献検索を行う場合に、まず与えられたテーマについての基礎知識を持つことが重要であるという説明の中で紹介したものである。例えば、第一のアンケートでは、多くの学生が「吹抜屋台」について十分な知識を持っていない様子が伺えたのだが、そうした状態では同義語を考えたり、上位分類を考えることもできない。また、図書の説明には著者の見解が混ざるため、客観的に説明するこ

とが求められる課題では図書を探すよりもむしろ辞書事典をまとめた方が適切な場合もある。このように、レポート作成等では辞書事典は必須のツールであることを説明した上でその認知度を確認したのだが、まず「②百科事典」については 43.2% (57 名) という結果となっている。百科事典は小中高校でも使用してきたと思われ、認知度が 5 割に達していないのは不可解な結果ではあるが、その存在が文献検索には結び付いていないことが数字に現れているのかもしれない。「④ジャパンナレッジ」は Web 上でも利用できる各種用語辞典のサービスであるが、認知度はわずか 2.3% (3 名) にとどまっている。電子ジャーナルそのものがまだまだ認知されていないようである。

「③索引」と「⑤目次」については、OPAC で発見した図書を書架で手に取る際に、必要とする情報が確かに (またはどこに) 記載されているかを調べるための手段として紹介したものである。「⑤目次」(58.3%、77 名) よりも「③索引」(60.6%、80 名) の方が高い回答率を示しているのは意外な結果であったが、そもそも目次という、当たり前目にするツールが 6 割弱の認知度にとどまっていることも不自然な印象を受ける。今回の調査対象の中には、入学段階で図書館司書資格取得を目指す学生が 4 割ほど含まれており¹、図書に対する親しみは本学の他学科の学生よりも高いと思われるが、彼らが読む図書の多くは小説などの「読み物」である。低調な結果には、目次を文献検索の手段と結びつけられるような読書経験を高校時代までに重ねて来なかったことが現れているのかもしれない。

¹ AO 入試・推薦入試の志望動機を集計。

3.3. 文献検索経験の有無

Q3 では、ガイダンスで紹介した図書館機能を活用した文献検索を、これまでの大学生活の中で行ったことがあるかを確認している。下の表3はその結果をまとめたものである²。

■表3 文献検索経験の有無

選択肢	男	%	女	%	計	%
①図書館での調べものの経験がない	7	15.6	4	4.6	11	8.3
②辞書事典で基本知識をおさえる	15	39.5	24	28.9	39	32.2
③OPACで同義語検索	30	78.9	55	66.3	85	70.2
④隣の本も同じテーマ	27	71.1	61	73.5	88	72.7
⑤上位分類の本を探す	1	2.6	10	12.0	11	9.1
⑥下位分類の本を探す	1	2.6	4	4.8	5	4.1
⑦著者名検索	8	21.1	21	25.3	29	24.0
⑧参考文献リストの本を調べる	7	18.4	22	26.5	29	24.0
⑨リクエストサービスを利用	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑩レファレンスサービスを利用	2	5.3	2	2.4	4	3.3

まず、大学入学後に図書館機能を使った調べ物を経験したことがあるかを聞いたところ、「①ない」と回答したのは全体の8.3%（11名）という結果であり、男性の方が15.6%とかなりその比率が高くなっている。回答ミスが多かったため、本稿では分析対象としていないが、Q4にてレポート作成等でどのような情報源を調べているかを聞いたところQ3で①と回答した11名中10名が「インターネット上の情報」を、2名が「教科書」を選択していることから、レポート課題は出ているものの、手近にある情報源だけでレポートを書き上げている状況が見えてくるだろう。

図書館機能を使ってレポート等を作成したことがあると回答した学生について、項目別に結果をみると、「④OPACで見つけた図書を書架から取り出す時に、隣の図書も同じ内容だと気づいて手にとったことがある」が72.7%（88名）と最も高い比率を示している。④は②③の設問と共に、NDCの体系を生かした探索経験があるかを確認したのだが、図書が分類別に並べられており、隣り合う同士

が同じテーマであることまでは理解しつつも、分類番号が10進法で展開されていることまでは十分に理解していないようである。例えば、OPACで「魔女裁判」と検索して、最初に見つかった本の分類番号が234（ドイツの歴史）である場合に、その番号の本だけでなく、上位の分類番号である230（ヨーロッパの歴史）や、下位分類である234.05（ドイツの近代史）の図書も目を通してみるという方法があるが、その経験の有無を聞いた「⑤OPACで見つけた図書の、上位概念の分類番号の図書を調べたことがある」のは9.1%（11名）、「⑥下位概念の分類番号の図書を調べたことがある」はわずか4.1%（5名）という低調な結果となっている。

Q3では、他にもOPACの基本的な検索機能を活用しているかどうかを確認している。「③OPACを検索する際、同義語を考えて複数のキーワードで検索をしたことがある」は70.2%（85名）を超える学生が経験があると答えており、文献検索方法としてはかなり定着しているようである。ただし、「⑦OPACで見つけた図書が、レポート等に使えると思った時に、その作者名でOPACを再検索したことがある」は24.0%（29名）にとどまっており、OPACに搭載されている著者リンクという基本的な機能は十分に活用されていないことも見えてくる。

大きな問題として指摘しておきたいのが、「⑨⑩」の回答率の低さである。いずれもレポート作成等での文献検索の際にぜひ活用してほしい図書館サービスであるが、「⑩レファレンスサービスを利用して、レポート等に必要文献の調査を依頼したことがある」のは4名（3.3%）にとどまり、「⑨レポート等で必要な図書のリクエスト（購入依頼）をした

² ②以降の比率は母数から①の値を除いて集計。

ことがある」にいたっては、経験した学生が1名もないのである。初年次の学生にとって、図書館、または図書館員は、書架にない図書を要求したり、文献検索のアドバイスを受けるような、レポート作成における心強いパートナーであるという認識は乏しい。彼らにとって大学図書館とは、残念ながら、所蔵されている図書を探すところ、あるいは借りるところという認識にとどまっているようである。

4. おわりに

本稿では、初年次学生を対象とする文献検索ガイダンスの概要と文献検索行動に関するアンケート調査の結果を報告してきた。最後にもう1点考えてみたいのだが、上述のように、本学図書館では入学直後に新生を対象とするオリエンテーションを実施しており、調査対象の学生はほぼ全員が受講している。にも関わらず、OPACの認知度が低かったり、基本的な図書館サービスの利用経験がなかったりするのとはなぜなのだろうか。

第一に考えられることは、初年次の学生が、図書館機能を十分に活用して、多様な文献を検索しなければならない、切実な状況に置かれていない、ということである。自身の授業も省みなければならないが、レポートや研究発表を課す際には、幅広い文献を調べたいと思えるような、知的好奇心を刺激するテーマを設定すべきであるし、教科書やインターネットだけを調べても合格点が取れてしまうような評価がなされていれば、いくら文献検索の技術を教えても、その技能は定着せず、その場限りのものとなるだろう。

最近では、専門職員による学生向けの文献検索ガイダンスを実施する大学図書館も増えていると聞かすが、図書館側の努力だけでは十分な成果は得られないだろう。FD活動の推進という視点から、今後もこの問題を考えていきたい。(2012年11月30日)

やまぐち しんや
(沖縄国際大学准教授)

■資料1 アンケート用紙①

■資料2 アンケート用紙②

学生との協働による魅力ある図書館づくりを目指して
—佐賀大学附属図書館における7年間の学生選書活動（さらりーず）の過程と成果—

永安 樹

1. はじめに

平成18年度より、佐賀大学附属図書館では、読書奨励企画の一環として学生選書ツアーを行ってきた。学生選書ツアーとは、学生が直接書店へ出向き自由に本を手にとって図書館の蔵書を選ぶという企画で、現在、全国の大学図書館・高等専門学校等で広く行われている。学生選書ツアーが中心だった本学図書館の読書奨励企画は、年々内容が多岐に渡ってきており、今では、一年を通して学生が本に関わる企画から携わり、積極的に様々な図書館活動に参加する大きなイベントとなった。そこで、本学の7年間の学生選書活動を振り返り、その実施経緯や成果、問題点などを紹介する。

2. 実施のきっかけ

読書奨励企画は「若者の活字離れが進む中、様々な機会を捉え学生が図書に親しむ動機付けを行い、学習・教育と人格の形成を支援する」という趣旨で平成16年度から継続して行ってきた企画である。学生選書ツアーについては、平成10年に大阪の大学図書館が発祥となり¹⁾、それから関西地区では活発に実施されていたので、学生の視点を取り入れた本を書架に並べ図書館に足を運んでもらうためにも、ぜひ取り入れたいと思っていた企画であった。時期を同じくして佐賀市に大型商業施設がオープンし大規模書店が出店したため、「グッドタイミング！そこへ行こう！」と、平成18年度に実施の運びとなった。山口より西の国立大

学法人としては初めての試みということで新聞で紹介され²⁾、全国的にも注目された。

3. 実施内容

3.1 学生選書ツアー

3.1.1 学生選書委員

平成18年度は学生選書ツアーと模擬選書委員会を単発で行った。選書する学生については、図書館運営委員の教員に依頼し、各学部1～2名推薦してもらった。おおむね好評だったので、平成19年度からは、一年間の学生選書委員として任命し、年間を通して企画段階から参加してもらうこととした。募集方法も、図書館ホームページでの紹介、ポスター掲示、チラシ配布などで広く公募した。ただ、学部などの偏りがないように、応募がなかった学部の学生や留学生を、教員から推薦してもらうこともあった。

また、学生選書の活動を、柔らかく親しみやすいイメージとするため、平成22年度から名称を「さらりーず」³⁾と変更した。

また、平成22年度からは、最初の委員会で委員長・副委員長を決め、学生選書委員会（後述）の司会進行などを務めてもらうようにした。

今までの学生選書委員の人数構成については表1のとおりである。

表1 学生選書委員の人数構成

	文化教育 学部	経済 学部	理工 学部	農学部	医学部	計	(内留 学生)
H18	3	1	1	4	2	11	(0)
H19	5	2	4	1	4	16	(2)
H20	4	1	2	2	4	13	(1)
H21	4	1	2	2	3	12	(2)
H22	9	1	5	2	3	20	(2)
H23	2	2	4	4	4	16	(1)
H24	3	2	6	4	4	19	(2)

※ 大学院生も分類に沿って学部を含めた

3.1.2書店・施設

学生選書ツアーを行う書店は、佐賀市内だけでなく福岡市内にも広げた。福岡市内には佐賀にはない大型書店があり、学生から行ってみたいとの声も多く、また地理的にも近いため実現した。さらに、展示の仕方を参考にしたり、図書館に関する視野を広げてもらうために、図書館等の施設見学も取り入れた。これらは、ツアーに行く前に行う学生との委員会で、図書館側でいくつか書店・施設の候補を提案し、学生の意見を取り入れ、学生が行きたい場所を検討した結果である。

ツアーの行程のモデルは次のようなものである。

佐賀から福岡へ(1時間30分・大学のバス利用)---福岡で公共図書館見学(1時間30分)---書店へ移動、選書(3時間30分・昼食は各自適宜とる)---福岡から佐賀へ(1時間30分)

今まで訪れた書店・施設等については表2にまとめた。

表2 学生選書ツアーの行程表

日	視察を実施した施設	見学した施設
H18 第1回	佐賀県立図書館	
H18 第2回	佐賀県立図書館	
H19 第1回	九州大学(福岡)、ソニー企業文化情報館	福岡市立図書館
H19 第2回	佐賀県立図書館	
H20 第1回	佐賀県立図書館、ソニー企業文化情報館	
H20 第2回	佐賀県立図書館	佐賀市立図書館
H21 第1回	ソニー企業文化情報館	福岡市立図書館
H21 第2回	佐賀県立図書館	佐賀市立図書館
H22 第1回	ソニー企業文化情報館	九州国立博物館
H22 第2回	佐賀県立図書館	
H23 第1回	ソニー企業文化情報館	福岡大学中央図書館
H23 第2回	九州国立博物館	

※ 10月の福岡市立図書館

3.1.3予算

予算は図書館資料費の中から学生選書用に80万とし、それを学生選書委員の頭数で割った金額を使用してもらうこととしている(一人当たり約4~5万円)。これは、年間を通して使う予算で、学生選書ツアーだけでなくオンライン選書や店頭選書(後述)での使用も含めたものとしている。

3.1.4選書基準

すでに図書館にある図書は購入しないことにし、雑誌・アプリケーション類も原則的に購入対象外とした。ただ、明確な選書基準については特に設定せず、学生の目線で自由に選書してもらうことを重視した。

以下写真1は書店での選書の様子である。



写真1 選書の様子

3.2学生選書委員会

学生選書ツアーの後に、その当日もしくは後日、選書した本について審議する学生選書委員会を実施している。各学生選書委員から「なぜこの本を選んだのか」「この本のおすすめポイント」など、選書した理由を述べてもらい、全員で本学図書館の蔵書として適切かを審議している。平成22年度より「さらりーずミーティング」と名称変更した。

3.3 その他の関連活動

3.3.1 オンライン選書・店頭選書

平成19年度からオンライン選書を行っている。これは、年2回行っている学生選書ツアーにどうしても参加できなかった学生にも選書の機会を設けるためである。インターネットで本の情報を検索し、指定の Excel 用紙に記入の上、メールに添付して送ってもらっている。あわせて、平成23年度まで、各自都合のいい時間にキャンパス内の書店で選書する店頭選書を行っていたが、利用者が1名もしくは全くないことが多く、24年度から中止とした。

3.3.2 展示活動

選書された本は、本館はカウンター前、医学分館はエントランスからすぐにある学生選書コーナーに別置している。平成22年度は展示委員を2名決め、学生がコメントを書いたポップや本についている帯、100円ショップで購入したリボンやモールなどで楽しく目立つように飾ってもらった(写真2)。それ以後は特に展示委員は決めず、学生選書委員全員に展示作業をする日を知らせ、参加したい学生が自由に参加できるようにした。学生の感覚でカラフルに飾られたこのコーナーは、図書館内でも特に利用者の目を引くものとなっている。



写真2 展示

3.3.3 仕事体験

図書館の仕事を身近に感じてもらおうと、平成22年度から、本のバーコード・背ラベル貼り、糊貼りなどの仕事体験を実施している(写真3)。学生から「カウンターの仕事をやってみたい」との声があったため、23年度からカウンター体験も始めている。



写真3 仕事体験

3.4 学生による自主的な活動

平成23年度に、学生選書 PR のための広報誌作成担当として、編集委員を3名選出した。どういったものを作成するかは委員に全てまかせたところ、予想以上に創意工夫されたパンフレット(図1)が出来上がった。学生選書コーナーをはじめ図書館内の様々な場所に設置・掲示した。また、新入生向けの図書館情報誌『さり』にも掲載し⁴⁾、学生選書紹介に利用した。この年にはこれを見て応募してきた学生がおり、参加学生増加に一役買ったことになった。

平成24年度には、学生選書委員を4つのグループに分け、グループごとの本の展示コーナーを作ってもらったようにした。図書館側では、グループでテーマを決め、それに沿った図書を展示するよう伝えただけで、あとは委員に自由に行ってもらったようにした。そうしたところ、「どのグループ展示が良かったか投票してもらおう」「貸出ランキングを出そう」など、いろいろなアイデアが出てきた。

他にも、図書館職員の働きかけなしに「学生同士で意見交換の場を作りたい」との提案があり、委員長の学生が中心となって、月1回「さらりーず学生ミーティング」が行われている。また、「小説類はみんな読みたいはずなのに、文学の棚がどこかわかりづらい」ということで、わざわざ画用紙に案内地図を作ってきた学生もいた。こういったことは、個々の学生選書委員の意欲によるところが大きいですが、図書館職員が気づかないような視点からのアイデアがでることが多く、図書館にとっては嬉しい提案であり大変勉強にもなる。



図1 パンフレット「○○[まるまる]さらりーず」

4. 広報

平成22年度より、ブログを使って学生選書活動の紹介をスタートした⁵⁾。学内・学外への情報発信、学生選書委員への過去の活動の紹介、職員にとっても今までの活動の履歴が残るなど、便利なツールとなっている。

5. 連絡方法

学生選書委員への連絡ツールとして、平成20年度に佐賀新聞のSNS「ひびの」を取り入れ

た。本学学生選書のコミュニティを作成して利用していたところ、特色あるコミュニティとして新聞で紹介された⁶⁾。SNSの特徴を生かし、学生間での気軽なコミュニケーションの場を想定して準備したが、あまり学生間でのやり取りは行われなかった。アンケートでの学生の声として「ちょっと面倒くさいと思った。毎日チェックは大変だと思った」「あまり使っていない」「いまいち使い方が分からず使わなかった」とあった。図書館側からの一方的なお知らせのみが目立ってきたため、24年度から利用を中止し電子メールのみの連絡とした。

6. 効果

6.1 学生選書委員への効果

学生選書委員への効果として、アンケートの声をいくつか紹介したい。「人にどんな本を読んでほしいかを考えながら選ぶのは大変だった」「とても有意義な時間をおくれた」「他の学科や学年の方とお話できたりしてよかった」「1日で好きな本を選んだし、みんなと楽しい時間を過ごした」など、他にも同様の感想があり、選書の楽しさを実感できていることがわかる。普段交流できない他学部学生と話ができるのもいい経験になるようである。

またアンケートに書かれた図書館への要望についてきちんと対応することで、自分の考えが受け入れてもらえたという満足感を得ることができる。それが図書館への信頼にもつながるだろう。もちろんそのためには、図書館側が真摯に学生の考えに向き合うことが大切である。

他にも、学生選書委員への志望動機に、「司書に興味がある」という記述が数名見られた。選書や仕事体験を通じて「働く」ことの疑似体験をしたり、企画段階から関わることで自分

で考える力を養ったりできる点で、今後の進路を考えるのに役立つのではないかと考える。

6.2 図書館への効果

学生選書委員会やアンケート、また普段の会話などから、学生の率直な声をじかに聞くことができる。図書館側では気づかない自由な発想に驚かされ、学ぶ点も大変多い。図書館のサービスがより良いものになるために、学生選書委員は貴重な存在であるといえる。

また、他の学生にも図書館に親しみをもつ機会になっていると考える。学生選書コーナーはエントランス近くの目立つ場所にあり、棚の前で立ち止まったり本を手にとる学生は多い。普段あまり図書館を利用しない学生にも図書館に興味をもってもらえ、それが利用者数・貸出数の増加へ結びつくだろう。

7. 問題点と今後の課題

懸念事項として挙げられるのは、選書基準を策定するかどうかという問題である。学生選書委員会で「大学図書館にふさわしい本かどうか」を審議しているが、ライトノベルのような本でも、今の学生が読みたい本ということで購入しているのが現状である。基準を策定することで、蔵書の質の低下を防いだり、また選書という司書の仕事の専門性を伝えたりということができる。しかし、本当に学生が求めているものが把握できなくなったり、選書に学生らしさがなくなるのでは、また学生選書活動自体に学生が興味を抱かなくなるのではとの思いがある。

もう一点、職員と学生、及び学生同士の連絡方法にもっと便利なものがないかと考えている。大学生の多くはWebツールの積極的なユーザーと考え初期にSNSを取り入れたが、アカウントをとったり、ページをチェックしたりなどの煩

わしさを感じる学生もいるようだ。しかし、学生全員はなかなか同時には集まれないので、双方でコミュニケーションがとれるツールがあればと思っている。

これら2点については、他大学の事例を参考にしたり、学生の意見を聞いたりなどしながら、今後の検討が必要と考えている。

8. おわりに

学生選書活動は、学生の読書離れを食い止め、図書館の重要な利用者である学生の声を収集する手段としても活用し、より良い図書館作りに役立てようと始まった。この7年間でかなり図書館運営の向上に貢献できていると実感する。しかし、まだ改善できる点が多い。学生の視点には図書館職員の意識を変えてくれるほどの可能性を感じるので、それを生かして図書館がさらに活性化するよう、学生と図書館の協働を大切にしていきたい。今後も、学生選書活動をさらに面白いものにし、魅力ある図書館を作っていきたいと思う。

注

1) 2)「蔵書バイヤーは学生 佐賀大の図書館「選書ツアー」」朝日新聞 2007年02月02日夕刊(西部)平成10年に大阪産業大学総合図書館が実施した選書ツアーが発祥との記載あり

3) 名称は「サガユニバーシティライブラリ」の一部から考えたもの

4) 図書館情報誌『さらり』No.4 p.7-10 に「〇〇[まるまる]さらりーず」を掲載

http://www.lib.saga-u.ac.jp/public/sarari/sarari_2012/sarari_2012.html

5) さらりーずブログ

<http://sagaul.blog133.fc2.com/>

6)「特集記事 佐賀新聞プラネット」佐賀新聞
2010年08月02日

(参考文献)

1) 福岡 南海子,学生選書を通じてより良い図書館を作るために : 大阪産業大学総合図書館「学生選書モニター」の事例報告と実施大学への調査結果 (〈小特集〉選書),大学図書館研究 88, 1-11, 2010

2) 廣田 未来 茂出木 理子,学生と図書館の協働の可能性 : お茶の水女子大学 LiSA プログラムについて (〈小特集〉 図書館と学生の協働),大学図書館研究 87, 1-8, 2009

3) 日高 友江 岡田 隆,学生協働(Library Assistant)によって変わる図書館サービス : 山口大学図書館の実践 (〈小特集〉 図書館と学生の協働),大学図書館研究 87, 9-14, 2009

ながやす いつき
(佐賀大学附属図書館)

琉球大学びぶりお文学賞における取り組み

稲永晶子

1. はじめに

琉球大学びぶりお文学賞（以下びぶりお文学賞とする）とは、琉球大学に在学する学生を対象に平成 19 年度に設けられた文学賞である。琉球大学が基本目標として掲げる「地域及び広く社会に貢献する人材」「意欲と自己実現力を有する人材」育成の一環として、言語力（読む力、書く力）を向上させ、想像力、表現力、創造力豊かな学生を育成するとともに、文学の啓蒙活動を高め、地域社会における文学・文化活動のリーダーを輩出することを目的としている。附属図書館に主幹事務局を置き、平成 22 年度には国立大学図書館協会賞を受賞している。

本論文では、琉球大学における文芸活動についての簡単なまとめと、びぶりお文学賞の概要、そして応募促進のための取り組み、今後の展望について述べるものとする。

2. 文学賞創設以前の琉球大学における文芸活動について

琉球大学における学生の文芸活動の嚆矢は『琉大文学』という名の雑誌である。

琉球大学は米国占領下の 1950 年に開学した。『琉大風土記』¹によると、開学して 3 年目の 1953 年、文学を志す学生たちによって文芸クラブが結成され、『琉大文学』が発行された。これより以前に『龍潭』という文芸同人誌も作られているが、創刊号で終わっている。『琉大文学』は学生が作ったものにもかかわらず、かなり本格的なものであり、当時の沖縄文学の第一人者である大城立裕氏が寄稿している。当時の沖縄

が置かれた状況の影響を強く受け、『琉大文学』は徐々に政治的な色合いを強く反映したものになっていった。1956 年に琉大事件が起き、六人の学生が反米的な活動を行ったとの理由で三人の学生が除籍処分になったが、このうちの三人は『琉大文学』の主要メンバーであり、1957 年には反米的な記事を書いたという理由で休刊となるも半年後に復活。やがて 1976 年にその歴史に幕を閉じたのだが、沖縄文学の土壌を作った雑誌といわれており、当時の学生たちの文学と政治に対する思想を表した重要な資料とされている。この『琉大文学』が刊行されていた時代は、琉球大学においてもっとも文芸活動が盛んに行われた時代である。

やがて、史学部卒業生である又吉栄喜氏が 1996 年に『豚の報い』で第 114 回芥川賞を受賞。続いて 1997 年に法文学部卒業生である目取真俊氏が『水滴』で第 117 回芥川賞を受賞した。両氏とも『琉大文学』刊行時代に琉球大学に在籍しており、芥川賞を受賞した両氏がこの時代に琉球大学に在籍したということは、琉球大学の文芸活動の歴史の中で重要な意味を持つと言える。

『琉大文学』以来、『琉大文学』を超える著しい文芸活動を琉球大学にて見つけることはできない。学生課によると、2011 年の段階でライトノベルを嗜好するサークルは見受けられるものの琉球大学内には文芸サークル等、文芸を活動主体とするサークルは存在しておらず、琉球大学における文芸活動は勢いを失っていると言わざるを得ない。

びぶりお文学賞は平成 19 年度に誕生したが、そもそもの発端は平成 18 年に実施された学生対象の「読書論文コンクール」である。附属図書館内に平成 13 年度に設置された教養図書コーナーの活用のため、附属図書館に所蔵されている図書に関する評論を募集したのである。これが大変好評だったため、学生の「書く力」を向上させるための一歩進んだ取り組みとして当時の教員、図書館職員がびぶりお文学賞を企画した。そして、その創設の意図には、当時の停滞した琉球大学の文芸活動において、前述した『琉大文学』に匹敵する受け皿を作り、当時に負けない文学に対する勢いを呼び起こしたいという関係者の考えがあった。

応募対象については、小説以外にも、詩・評論・俳句等さまざまな文芸ジャンルを想定しつつも、当時学生の文芸活動がまったく見えてこなかったため、小説というポピュラーなジャンルが選択された。名前については事務局である附属図書館報である『びぶりお』から、びぶりお文学賞となった。

その内容や経緯については松原敏夫氏による『琉球大学図書館における教養教育支援の取り組み』²に詳しいのでそちらを参考とされたい。

3. 琉球大学びぶりお文学賞の概要

前章のような経緯でびぶりお文学賞は平成 19 年度に始まった。応募期間は例年 5 月に開始し、10 月末日を締切としている。応募ジャンルは小説であるが、第 5 回（平成 23 年度）からは詩部門も創設し、その応募対象分野を増やした。広報手段には、ポスター、チラシ、図書館ホームページ上での特設ページ、他にも学内の電子掲示板や、生協や図書館内に置かれた宣伝 POP、

前回の受賞作品集の無償配布等で学生間への浸透を図っている。また、一年に一度、図書館玄関正面の「図書館おすすめ本コーナー」に、過去のびぶりお文学賞受賞作品集や卒業生の詩集、小説集、県内文学賞の受賞作品集等を展示している。琉球大学に在籍中の教員の文芸作品もあり、学生にとって文学を身近に感じられる企画として大変好評である。

選考委員は何度か交代があったが、第六回目を迎えた現在、小説部門は法文学部の山里勝己³教授、喜納育江教授、大城貞俊教授⁴の 3 名に、詩部門は大城貞俊教授、松原敏夫氏⁵の 2 名にお任せしている。このうち山里勝己教授、大城貞俊教授、松原敏夫氏は県内の文学賞の選考委員もつとめている。小説部門の選考については、応募数が多い場合は図書館で一次選考を行い、



図 1 第 6 回募集ポスター

通過したものについて二次選考に回される。詩部門に関しては小説よりも一編が短いため、特に一次選考せずに選考委員が目を通すこととなる。両部門とも、送付の際は応募した学生の名前を消し、選考の公平性をはかっている。

小説部門の賞品は 20 万円相当のノートパソコン、または相当の海外旅行、詩部門は 5 万円の図書カードとなっている。ちなみに小説部門の受賞賞金は県内で実施されている文学賞の中では最高額である。惜しくも受賞を逃した佳作にも図書カードの商品を用意している。海外旅行を選択した学生はその後、海外旅行記を執筆する義務が課せられる。その旅行記は附属図書館報『びぶりお』にて公開する。第 1 回の受賞者である山原みどりさんはマレーシアに旅行し、びぶりお 149 号に「ボルネオの牛」を執筆した。4 頁ほどの短編であるが、附属図書館ホームページの館報「びぶりお」の電子版から読むことができる。⁶

受賞作品は、佳作も含めて図書館館報『びぶりお』特別号として冊子体で発行し、学生、教職員、沖縄県内の図書館や、県内の文芸活動家、全国の国立大学図書館等に配布している。紙媒体だけでなく、ホームページ上にも館報『びぶりお』同様、電子

ブックとして公開しており、⁷多くの方に読んでもらえるよう配慮している。

冊子のデザインに関しては、第 1 回から一貫して教育学部の美術を担当している教員に依頼している。第 4 回までは受賞作からのイメージでデザインをいただいていたが、第 5 回では表紙カバーデザインに県内で活躍する若手アーティストの作品をモチーフに使用しており、県内の芸術創作活動にも貢献している。

4. 応募作停滞期と新しい試み

第 1 回目は 31 編の応募があった。第 2 回の応募作も 27 編と好調であり、応募した学生の学部も様々であった。そのまま軌道に乗るかと思われたが、第 3 回では応募作数は 14 編と落ち込んだ。加えて第 3 回目は受賞作なしという残念な結果に終わることとなった。第 4 回目では応募作は 14 編と落ち込んだままであったが、選考委員から全体としてのレベルは上がったという総評があり、特に受賞作の『爪探し』は審査員である大城貞俊教授より「欠点を探すのが困難なほど完成度の高い作品」⁸とされた。

第 5 回目を迎えるに当たり、第 4 回目までの応募作数の低下を問題視し、新しい試みを取り入れることになった。

まず一つ目が詩部門の創設である。今まで扱ったことのない分野であったため、応募要項の作成には、文芸誌の詩応募要項を参考にしつつ、選考委員のアドバイ

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回 (小説)	第 5 回 (詩)
法文学部	14	11	7	6	21	28
観光産業科学部	0	0	0	1	0	0
教育学部	1	4	2	4	0	0
理学部	4	4	3	1	3	8
医学部	4	3	1	1	1	3
農学部	0	0	0	1	1	3
工学部	3	4	0	0	1	2
大学院人文社会科学研究科	3	0	0	0	0	0
大学院理工学研究科	2	1	1	0	1	4
合計	31	27	14	14	28	48

表 1 びぶりお文学賞応募学生所属学部内訳

スを受けながら作成した。選考委員、図書館職員一同不安があったが、実際にふたを開けてみると、48編が集まり、大変盛況であった。



図2 講演する又吉栄喜氏

二つ目の新しい試みは、小説と詩の創作に関するワークショップや朗読会の実施である。ワークショップの目的は、文学賞の知名度を更に定着させ、学生の応募数を伸ばし、そして何より学生に文芸創作活動に親しんでもらうことである。第5回の際は募集期間内に「小説の書き方講座」と「詩の寺子屋塾」というワークショップをそれぞれ一回ずつ開催した。「小説の書き方講座」では小説の書き方に関する講演会の後、詩の朗読会や学生の文学離れに関して討論会を行うなど、プログラムも多様なものとした。「詩の寺子屋塾」は詩の講義の後、実際に講師の指導で詩を書いたり、朗読する2部構成としており、「小説の書き方講座」より実践的な内容になった。結果として、第5回の応募総数は小説部門28編、詩部門は48編の応募となり、応募数を大いに伸ばし、試みは成功したと言える。

授賞式後には県内で活躍する詩人と詩部門の受賞者による朗読会も開催した。会場

には参加した詩人の方々の著作を展示し、朗読に合わせた音楽を用意した。現在活躍中の若手詩人のファンの方々なども学内外から来場し、会場は大盛況であった。さらに2月には選考委員の山里勝己教授の紹介で、カナダ在住のオキナワ系三世作家のDarcy Tamayose氏をお呼びし、講演会も行った。

詩部門は第5回のみ限定企画の予定であったが、予想以上の応募があったため、第6回も継続して行われることとなった。文芸ワークショップに関しても継続して行っている。今年7月に開催した「小説の書き方講座—又吉栄喜氏を迎えて—」では芥川賞作家の又吉栄喜氏を招聘した。1978年に第8回九州芸術祭文学賞を受賞した短編『ジョージが射殺した猪』を中心に、創作についての姿勢を語っていただいた。この際会場には、当館所蔵の又吉栄喜氏の『ギンネム屋敷』『ジョージが射殺した猪』や大城立裕氏の『琉球処分』『さらば福州会館』の生原稿等を展示した。

5. びぶりの文学賞の影響と今後の展望

びぶりの文学賞への応募資格があるのは琉球大学に在籍している学生のみである。一度受賞した学生は次回以降応募することはできない。応募資格があるのは大学時代の短い間だけであるが、一年生から応募している学生の中には「びぶりの文学賞があることを知って琉球大学への入学を決めた」という学生もいる。また、受賞をきっかけに文芸同人誌で研鑽する学生から、商業出版の応募に次々チャレンジする学生まで出てきている。また、在学中に琉球大学で文芸サークルを立ち上げようと奮闘する学生もおり、琉球大学内の新しい文芸活動の波が期待できる。受賞作品集を目にした出版社からのオファーで、ライターとして活躍

している受賞者もあり、びぶりお文学賞が一つのきっかけとなって、学生の将来に前向きな影響を与えている。はじめにあげた、びぶりお文学賞の目標としている学生の育成にも大いに一役買っていると言っていだろう。

今後のびぶりお文学賞持続のために新しい課題もいくつかある。まず、教員と講義科目との連携である。文学賞応募を推奨する授業科目を実施できれば、更にびぶりお文学賞の周知が進み、応募数の増加が見込まれる。⁹また、琉球大学には文芸部が存

在しないことは前述したとおりだが、近隣には文芸部を持ち、積極的な文芸活動を行っている大学もある。今までびぶりお文学賞の対象は琉球大学に在籍する学生のみとしているが、琉球大学という枠組みを超えて、他大学の学生の文学賞への参加についても考慮に入れていきたい。

びぶりお文学賞は、かつての『琉大文学』時代の文学活動の勢いと、先達の功績のもとで企画されたものである。今後ますますの盛況を願いつつ、この企画を続けていきたい。

¹ 沖縄タイムス社編．『琉大風土記』．沖縄タイムス社．1990

² 松原敏夫「琉球大学図書館における教養教育支援の取り組み—読書論文コンクール実施、琉球大学びぶりお文学賞の創設—」『九州地区大学図書館協議会誌』pp3-9 (51) 2008

³ 琉球大学法文学部教授。現在、九州芸術祭文学賞沖縄地区選考、新沖縄文学賞選考委員をつとめる。

⁴ 琉球大学教育学部教授。作家、詩人。1992年小説『椎の川』で具志川市文学賞。2005年詩集「或いは取るに足りない小さな物語」で第28回山之口獏賞受賞。

現在、九州芸術祭文学賞沖縄地区選考、琉球新報短編小説賞2次選考をつとめる。

⁵ 元琉球大学附属図書館職員。1987年『アンナ幻想』で第10回山之口獏賞受賞。

現在おきなわ文学賞詩部門選考委員、神のバトン賞選考委員をつとめる。

⁶ <http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/library/biblio/biblio149/index.html#page=5>

⁷ <http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/?p=3152>

⁸ 大城貞俊「第4回びぶりお文学賞 選評—新鮮な発想に大きな可能性—」『第4回びぶりお文学賞受賞作品集』

⁹ 附属図書館主催の東光原賞を実施している熊本大学では、平成23年度前期に「めざせ！文学賞」という講義名の講義を実施し、応募数の増加を図っている例もある。

いねなが あきこ
(琉球大学附属図書館)

図書館紹介

【福岡大学中央図書館】

はじめに

福岡大学図書館は、中央館、理・工・薬・スポーツ科学部各分室、医学部分館で構成されています。このたび、大学創立75周年記念事業の一環として中央図書館が建設され、2012年7月に開館しました。地上7階、地下1階建て（うち6・7階は大学院、1階に学生食堂併設）の中央図書館は、正にキャンパスの中心的存在としての役割を担っています。

施設概要

広場に面した正面玄関を入ったロビー左手には図書館のイベント等の紹介を行う展示スペースを設け、その奥には情報交換や研究成果の発表などに利用できる多目的ホールを設けています。正面のICカードを利用した入館ゲートを入ると、重厚で文化の香りのするライブラリーラウンジの空間が広がり、新聞閲覧コーナー、インフォメーションコーナー、ブラウジングコーナー、絵画展示ケースを配置しています。



1階 ライブラリーラウンジ

2階から4階までの開架閲覧室には、木製の書架、テーブル、椅子を配置し、天井照明のないタスク&アンビエント照明方式、自然換気システム、天井扇を採用して落ち着きと安らぎのある空間を提供しています。

バリアフリー対応や多目的トイレの設置はもちろんのこと、閲覧室、検索コーナー、カウンター

も一部に障がい者対応家具を設置するとともに、主に視覚障がい者のために読書支援室を設けて、点字資料や必要な機器を配置しています。

そのほか、利用者の多様なニーズに対応するため、情報サービス室、グループ学習室、ラーニング・コモンズ等の諸室を設けています。



開架閲覧室

建築面積	3,892 m ²
延床面積	24,792 m ² （うち図書館 17,219 m ² ）
収容能力	開架 500,000 冊
	自動書庫 1,380,000 冊
閲覧席数	1,934 席
（内訳）	一般閲覧席 1,527 席
	AV・マイクロブース 61 席
	グループ学習室 126 席
	情報サービス室 102 席
	情報検索エリア 56 席
	研究用個室 28 席
	貴重書その他 34 席

開館時間（通常期）

平日・土曜 8：50～22：00

日祝日 8：50～17：00

休館日

夏季休業中一定の期間

年末年始

入学試験期間中

館内案内

情報サービス室



2～4階に各1室、利用者用のパソコンを設置しています。プリンタはオンデマンドプリンタで、ポイントを使って印刷できます。

研究用個室



3・4階に28室、教育職員、大学院生が研究するために使用できる個室です。予約が必要です。

グループ学習室



2～4階に各3室、グループで研究・学習・プレゼンテーションおよびパソコンや電卓を持ち込んでの学習を行う場合に利用できます。予約により貸し切ることが可能です。

AVコーナー



2階にあり、視聴覚資料を自由に取り出し、AVブースで視聴することができます。学生証をブースの読み取り機に差し込むことで電源の入り切りを行います。

ラーニング・コモンズ



2～4階に各1か所、学術資料を活用したディスカッションや論文・レポート作成など、学生がコミュニケーションを取り合い、共同で学ぶためのオープンスペースです。

リフレッシュコーナー



2～4階に各1か所、利用者の休憩のための場です。飲料の摂取、携帯電話の通話が可能です。

読書支援室



2階に2室、主に視覚障がい者に対して資料の閲覧、およびパソコン利用を支援する部屋です。大活字本や点字本、必要な機器を配置しています。

貴重書閲覧室



5階にあり、貴重書庫（和・洋）に保管する貴重書および準貴重書の閲覧室です。利用対象者は、「貴重書閲覧許可願」を提出し、館長が許可した方に限ります。

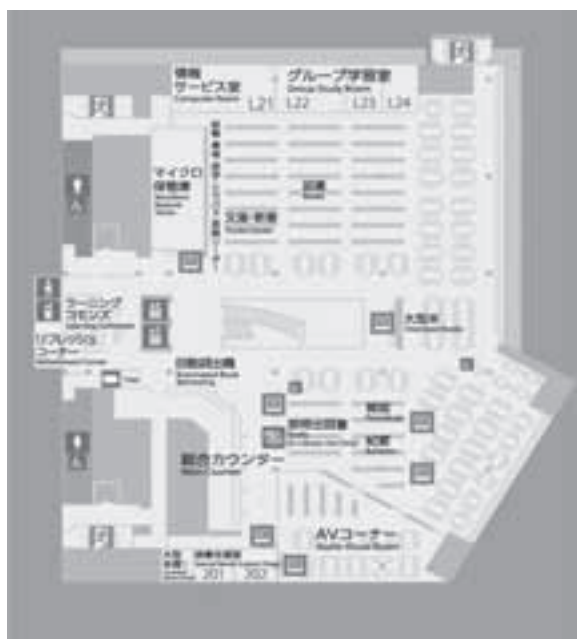
自動書庫



出納作業がシステム化された書庫で、地下1階にあります。収容可能冊数は138万冊と日本有数の規模です。出納ステーションは、地下1階、2階、5階にあります。



1階平面図



2階平面図



建物外観

図 書 館 紹 介

【国際医療福祉大学九州地区キャンパス図書館】

はじめに：「共に生きる社会」の実現を目指して
国際医療福祉大学は 1995 年に栃木県大田原市に開学した、医師以外のコメディカルスタッフの養成に特化した日本初の 4 年制大学です。

3 つの基本理念と 7 つの教育理念(表 1)の下、病気や障がいを持つ人も健全な人も、お互いが認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指し、医療福祉分野の科学技術の高度化に対応できる、知識と技術を併せ持った専門職の育成を行っています。

表 1

3 つの基本理念	7 つの教育理念
人間中心の大学	人格形成
社会に開かれた大学	専門性
国際性を目指した大学	学際性
	情報科学技術
	国際性
	自由な発想
	新しい大学運営

2005 年に学部キャンパスとしては初の地方展開となる大川キャンパスを設置、その後神奈川県小田原市(2006 年)、福岡市天神(2009 年)と次々にキャンパスを設置、現在 4 キャンパス 6 学部 15 学科を擁する学生数約 5,900 人の大学となっております。

大学院は 1999 年に修士課程、2001 年に博士課程を設置、現在 600 名の学生が上記 4 キャンパスの他、東京青山、静岡県熱海市を加えた全国 6 つの通信衛星による双方向授業が可能なサテライトキャンパスで研究を行っています。

看護師を除けばそれまでほとんどが 3 年制の専門学校か医療技術短期大学に委ねられてきた人材育成を大学で行うことで、医療技術・介護・福祉スタッフの地位向上につながったと考えております。

今日のように全国に医療技術系の大学がたくさんできたことは、本学の成功によるところが大き

く、マスコミをはじめ関係各方面から「大田原の奇跡」と賞賛されました。

大川キャンパス

福岡県大川市は理事長高木邦格の出身地であり、医療法人社団高邦会高木病院などグループの中核を成す医療福祉施設のあるところです。

2005 年にリハビリテーション学部(2007 年に福岡リハビリテーション学部と改称)として理学療法学科、作業療法学科各 40 人の定員でスタートした大川キャンパスは、2007 年には言語聴覚学科(40 人)を設置、理学療法学科の定員を 80 人に増員して、現在は約 750 名の学生が将来の医療福祉の一翼を担うべく、勉強に励んでいます。

2013 年春には医学検査学科(80 人)を設置、学部名も福岡保健医療学部とし、完成年度には 1,000 人規模のキャンパスとなる予定です。

大川キャンパス図書館の概要

(表 2・3、平面図参照)

大川キャンパス図書館は、国道 208 号線沿いに建つ 3 階建ての図書館・講堂棟の 1・2 階部分で、3 階は講堂です。図書館は、中央に階段を配した吹き抜けの開放的な造りになっています。

延床面積は 1,423 m²で蔵書数約 15,000 冊の小規模な図書館ですが、大田原キャンパスには約 97,000 冊、大学全体で約 148,500 冊を所蔵しており、すべての学生は、他キャンパス所蔵の図書を自由に借りることができます。

大川キャンパス図書館のコレクションは、医学系専門書を中心に、国試対策支援、就職活動支援のほか、海外研修に向けた事前学習用の図書も多数そろえています。

医学系専門書の分類には米国国立医学図書館(NLM)分類を採用し、資料へのアクセスの便宜を図っています。

入口ゲートを通ると右手に受付カウンター、左側にロビー、雑誌架、製本雑誌架と 2 階への階段

があります。階段を上がって左手が専門書、右側が福祉関係を中心とした社会科学系の書架になります。それ以外の図書と国家試験対策本は奥の書架にあります。

1階の閉架書庫には、グループ施設が持っていた古い製本雑誌を約1,200冊（表2の製本雑誌とは別）移設しております。

約400タイトルのDVD、VHSはAV室で閲覧します。

1階視聴覚室はプロジェクターを備えており、プレゼンテーションの練習に使用できるほか、通常は2階の自習室と共に、自主学習や国試対策のグループ学習用としても活用されています。

表2：施設概要（2012年11月現在）

延床面積	1,423 m ²
うち閲覧スペース面積	842 m ²
座席数	78席
蔵書数	15,369冊
製本雑誌	1,291冊
雑誌	116誌
電子ジャーナル契約	約3,700タイトル
視聴覚資料	402タイトル
学生用パソコン	6台
BDS設置	

表3：開館案内

開館時間	通常期 8:45～21:30 国試対策期 8:45～23:00 土曜日および長期休業中 8:45～17:00
休館日	日曜・祝日 大学創立記念日（5月1日） 年末年始 夏季・春季休暇のうちそれぞれ 1週間程度 （蔵書点検および館内清掃）
学外者の利用	カウンターで身分証提示して 手続、自由に閲覧できます。複 写はカウンターに申し出てく ださい。



1階 カウンターからロビー、雑誌・製本雑誌架方向



1階 カウンターから階段、ロビー方向

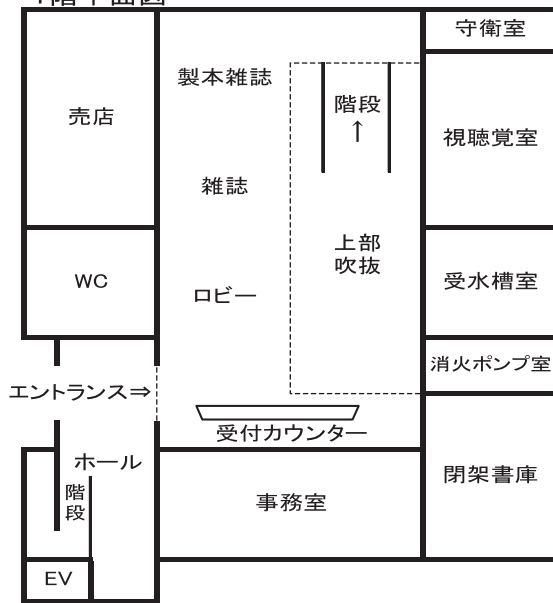


2階 個人学習机

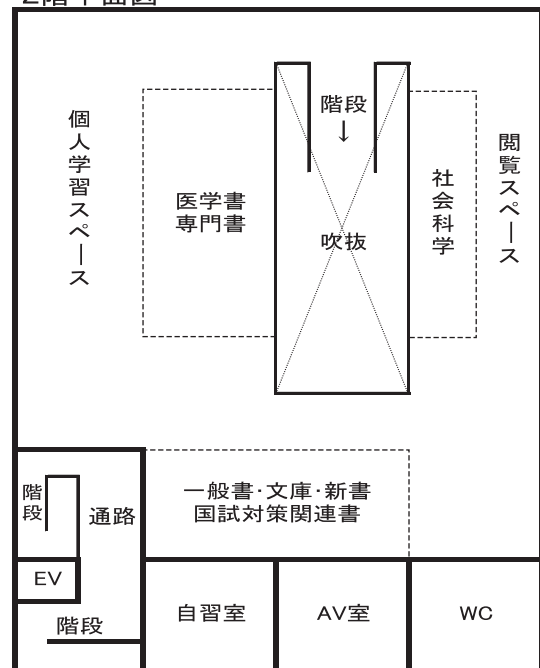


2階 医学系専門書架

1階平面図



2階平面図



おわりに

本学の九州内の2キャンパス(大川、福岡天神)は、国際医療福祉大学九州地区キャンパス図書館として平成24年度より加盟させていただきました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

今回紹介できなかった福岡天神キャンパス図書館は、平成25年4月より、福岡山王病院などのグループ施設がある福岡市百道地区へ移転することになっており、作業を進めているところです。移転が完了しましたら改めて紹介させていただきたいと考えております。

図書館紹介

【沖縄科学技術大学院大学図書館】

大学院設立目的

沖縄科学技術大学院大学は、国際的に卓越した科学技術に関する教育及び研究を実施することにより、沖縄の自立的発展と、世界の科学技術の向上に寄与することを目的としています。

沖縄科学技術大学院大学（OIST）は5年一貫制の博士課程を置く大学院大学です。教員と学生の半数以上を外国人とし、教育と研究は全て英語で行います。OISTの教育研究活動は学際的で先端的なものです。これまでに、神経科学、分子・細胞・発生生物学、数学・計算科学、環境・生態学、物理学・化学の5分野に大別される研究を行ってきました。OISTでは2012年9月の開学（学生受入れ）に向けて、国際的なワークショップやコースを開催してきました。これらは国内外の研究機関や大学などとの連携を強化するとともに、大学院大学構想を国内外の科学者に広く伝え、将来大学院大学に参画する可能性のある若手研究者の育成を図ることを目的としています。

大学院大学には毎年約20名の学生が入学し、一人の教員が少人数の学生を指導する体制となります。学生には生活費や医療、住居、育児などの研究生活に必要な支援が提供され、研究に集中できる環境を整えています。また、OISTの博士課程プログラムは、授業とラボワークのバランスがとられており、学生は、最先端機器を備えたラボで、世界トップレベルの研究者による懇切な指導のもと研究を行います。国内外からここOISTを訪れる著名な科学者は、こうした博士課程プログラムをより充実させ、彼らを通して共同研究や交流の機会を生まれることが期待されます。OISTの学生が博士課程を修了する頃には、基本的な知識や実践的なスキルだけでなく、その後のキャリア形成に

必要な世界レベルの研究者とのネットワークを構築していることでしょう。

基本コンセプト

- **世界最高水準 (Best in the World)** : 世界トップクラスの英知を結集し、世界最高水準の科学技術に関する研究及び教育を行う。
- **柔軟性 (Flexible)** : 政府の規制に沿った柔軟な組織運営を行うほか、政府の資金提供のもと、自主性と運営の柔軟性を保持し、世界トップクラスの大学院大学を目指す。
- **国際性 (International)** : 教員と学生の半数以上を外国人とし、公用語は英語とする。
- **世界的連携 (Global Networking)** : 世界の、とりわけアジア・太平洋地域における科学者のネットワークの中心地として発展しながら、世界のトップクラスの大学や研究機関と連携して研究協力や共同研究を行う。
- **産学連携 (Collaboration with Industry)** : 企業との共同研究や研究成果の産業化に取り組むことにより、企業の集積を促し、知的・産業クラスターを形成する。



図1 全景 (左: Lab 1, 中: センター棟, 右: Lab 2)

沖縄科学技術大学院大学の特徴

- 英語：科学雑誌や国際的会議で使われる英語が、大学院大学の公用語です。
- 国際性：学生と教員の半数以上は外国人となります。
- 学際性：分野の壁を越えた共同研究や交流が推奨されており、単一の研究科・専攻のみを設けた博士課程プログラムや、キャンパスの設計にもこれが表れています。
- 教育：1名の教員に対して2名の学生という比率のもと、学生はトップクラスの教員による懇切な指導のもと博士号取得を目指します。
- 研究助成金：OIST は日本でも類い希な学校法人で、国からの財政支援を受けながら、革新的なイニシアチブをとるべく自主性と運営の柔軟性が確保されています。
- 立地：沖縄は日本最南端の県で、めざましい経済発展をとげているアジアの中心地に位置する美しい亜熱帯の島です。アジアへの近さと、日本の成熟した経済発展を謳歌しています。
- 環境：OIST は職員・学生一人一人が大切にされ、秘められた可能性を最大限発揮できるような職場環境と教育の場を提供していきます。



図2 Lab 2 からセンター棟を見る

図書館

昨年度より、今年度9月の開学に向けて図書館開館の準備を進めてきました。図書館はセンター棟のBフロアーに位置しており、Lab 1 と Lab 2 へは建物内からアクセスが可能です。この建物から建物への移動は環境に配慮したため人間活動の周囲の生態系への影響を最小限に抑える狙いがあります。



図3 Lab 2 への通路（スカイウォーク）

図書館入口を入るとすぐに見える窓からは Lab 2 へつながるスカイウォークが見えます。窓辺にはゆったりとした快適なソファを設置しているので晴れた日には谷茶の素晴らしい海を眺めながら読書を楽しむことができます。



図4 図書館奥のソファからの眺め

施設概要



図5 閲覧スペース平面図

閲覧スペースの中央に低書架を配置し、狭いながらも広がりを感じられるようにしてあります。向かって右にキャレルスペース、左に雑誌架を壁に沿って配置しています。

面積：366 m² (管理スペース含む)

閲覧席：26 席

蔵書冊数：1147 冊 (24年3月31日現在)

電子ジャーナル：4367 タイトル

電子ブック：243 タイトル

雑誌：65 種類

サービス対象者数：約 300 名

本学図書館は物理的なスペースや建物の中にあることからすると図書室と呼んだほうが適切かと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが。図書館と呼称する理由としては、すでに学内では図書館という呼称が一般的だったことと本学ではサイエンスを中心とした多くの電子ジャーナルを所蔵

していることから電子図書館の特徴が強いためであえて図書館という呼称を使用しております。



図6 閲覧スペース

館内においてはインターネット・パソコンの利用、静かな環境での学習又は読書の場所を提供しています。本学では学生向けに別途学習スペースが用意されており、学内 LAN を利用して常に必要な情報にアクセスできるため、図書館は全学生を同時に収容する、またはその学習スペースとなることを想定しておりません。ラボや研究ユニット以外での思索、気分転換するための環境、学生又は教職員のコミュニケーションの場として快適な環境を提供することに重点を置いています。ゆったりとしたスペースのキャレルも8席用意しています。



図7 キャレルスペース

また閲覧室の他に館内にはグループ学習用にミーティングラウンジを用意しています。それ以外にもメディアルームを隣接しており、利用者はそこで複写機を利用することができます。



図8 ミーティングラウンジ

図書館の主なコレクションは電子ジャーナルですが、授業で使用する教科書を中心とした図書・参考書も所蔵しております。授業が英語で行われるため、所蔵している資料もほとんどが英語の資料です。現在、雑誌も冊子体（洋雑誌：56種類 和雑誌：9種類）を所蔵しておりますが、来年からは冊子体の雑誌を三分の一程度に減らす予定です。



図9 雑誌架

利用案内

利用案内

【開館時間】

平日：9：00～17：30

【休館日】

土日祝日、年末年始

現在、図書館にはまだ図書システムが導入されておきませんが、図書システムと自動貸出機が導入されれば、無人ではありますが学内の利用者は24時間図書館を利用できるようになります。学外の利用者は平日の9時から午後5時30分までの利用となります。

今後の図書館の課題としてはコレクションの充実と大学図書館としての機能を充実していくことが挙げられます。グローバルな研究者や学生のニーズに合った図書館サービスをオンライン上で提供することが求められています。

加盟館ニュース（五十音順）

【大分大学学術情報拠点（図書館／医学図書館）】

1. 大分大学学術情報拠点（図書館）新図書館開館記念式典を挙

大分大学は、10月1日、増改築工事が終了した図書館で文部科学省から長澤公洋研究振興局情報課学術基盤整備室長、小矢文則大分県立図書館長、姫野順一長崎大学附属図書館長、羽野忠前学長を始め多数の列席者をお迎えし、開館記念式典を挙

行しました。北野正剛学長から、「学内外の利用者の方々には開館延期等で大変ご不便をおかけしたが、皆様の声にお応えできるよう、大きく進化を遂げた図書館として総合的な教育・研究及び地域連携ができる快適な環境が整った。」との式辞があり、佐藤誠治学術情報拠点長の挨拶、長澤公洋室長の祝辞の後、学生・院生代表を交えてテープカットが行われました。

新図書館は、1階にはアクティブラーニングをサポートする科目別学習支援ブース、ハイブリッ

ドなグループ学習が可能なラーニング・コモンズ、一般市民と協力した活動空間の多目的エリアも新設、2階には多様な学習環境を提供するグループ演習室を増設し、延べ床面積は5,914㎡で旧図書館の約1.4倍、最大収納冊数74.5万冊、座席数は680席と約1.5倍に増えました。

今後も、本学における教育と研究全般を支える「知の拠点」として、また、地域に開かれた図書館としての役割を果たすことが期待されます。



【沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館】

崎山キャンパス「利用者端末操作研修会」を実施

平成23年10月に開設された崎山キャンパスにおける図書館利用サービスの向上を図るため、平成24年6月18日～平成24年6月28日にかけて崎山キャンパスに設置している図書館利用者端末を用い教員及び学生を対象に研修を実施した。

研修においては、資料の検索方法や本館からの取り寄せ方法等を中心に実施し、キャンパスが離れていても図書資料の活用等が行える旨の説明を行った。



【鹿児島大学附属図書館】

1. 鹿児島大学リポジトリの7,000件突破と国内 本文ありコンテンツ100万件突破

4月25日に鹿児島大学リポジトリの登録コンテンツ件数が7,000件を突破した。平成19年4月の部分公開開始より、5年後の成果となった。7,000件目として登録したコンテンツは農学部の寺岡行雄准教授の共著論文であった。

6月1日には、国内の学術機関リポジトリポータル「JAIRO」の本文ありコンテンツ数が100万件を突破したが、その記念すべきコンテンツが、鹿児島大学リポジトリの肥後伸夫名誉教授（故人）の論文であった。

寺岡准教授と、肥後名誉教授（平成23年ご逝去）の親交のあった野呂図書館長に記念インタビューを行い、その内容は鹿児島大学リポジトリのページ（<http://ir.kagoshima-u.ac.jp/>）で公開している。



農学部 寺岡准教授



水産学部 肥後名誉教授（右）

2. 防災訓練を実施

鹿児島大学附属図書館では、9月10日の中央図書館の閉館にあわせて附属図書館単独の防災訓練を実施した。開館時間帯を想定した避難誘導や、実際に非常ベルを鳴らし、防火シャッターを作動させ消火栓を使用した模擬消火活動など、実際の火災にかなり近い訓練となった。

また消火器を使用した消火訓練も行い、突然の火災に対する対応力強化も図った。訓練の最後に消防署職員による講話があり、図書館職員の防災意識向上を図ることができた。



消火器訓練の様相



消防署員による講話風景

3. 図書館ホームページをリニューアル

図書館の情報をわかりやすく整理し利用者に提供するため、平成 24 年 4 月からホームページをリニューアルした。新ホームページでは、画像・カラーリングを工夫し、デザイン性・視覚性に富んだコンテンツメニューに変更することを重視した。また My Library やユーザー投稿欄を充実させ、利用者からのリクエスト・意見が促進されるようなページ作りを行った。また、システム面ではコンテンツマネジメントシステムを XOOPS から Movable Type に変更し、コンテンツ管理機能の向上を図っている。



新HPトップページ

4. 「進取の精神コーナー」を新設

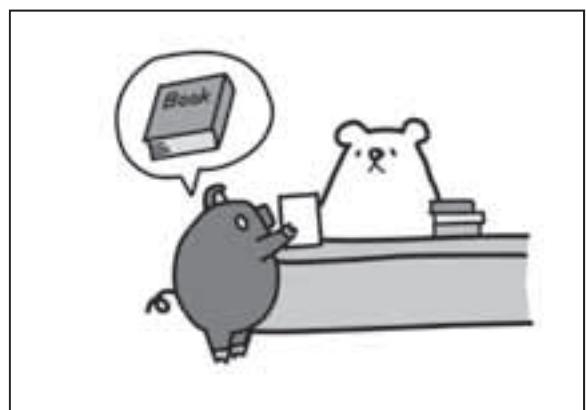
鹿児島大学では平成 22 年度に学生が中心となって学生憲章を制定したが、その一節に「我が国の変革と近代化を推進した先人達の進取の精神を継承」という文言があり、以来学内では「進取の精神」という言葉が大学の理念を表すキーワードとして広く使用されている。附属図書館では、平成 24 年度計画としてこの理念に沿った図書コレクションを整備しているところであり、現在のところ、これまでに収集した図書を中央図書館 1 階の展示コーナーに配置して利用者に提供している。



5. 図書館公式キャラクターの名前決定

これまで「しろくま」と「クロボタ」をモチーフにしたマスコットキャラクターを図書館広報に使用してきたが、公式キャラクターとするため、ネーミングの学内募集（6 月 14 日～7 月 13 日）を行った。応募状況は、名称投稿 76 点、支持投票 1,042 点にのぼり、これをもとに館内選考を行い、名称を「ブックマ」と「まなぶた」に決定した。こうした活動を通じて、学生に図書館に親しみをもってもらい利用促進につなげてゆきたいと考えている。

学生用図書のリクエスト（デジタルサイネージ）



開館カレンダー（配布用）

10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3							1	
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
28	29	30	31	25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29				
														30	31					
8:30~21:30							8:30~17:00							10:00~18:00						
							8:30~18:00							休暇						

【鹿屋体育大学附属図書館】

本館の平成24年の主な活動を紹介する。

1. 図書館利用者アンケート実施

平成24年10月に利用者アンケートを実施した。調査項目の主なものは、

- 図書館利用傾向（頻度、利用目的）
- 読書傾向（頻度、あまり読書しない場合の理由）
- 図書館サービスへの要望（開館時間、購入希望資料）

○図書館WEBサイトの利用傾向

である。今後、分析結果を利用者サービス面での改善に反映させる予定である。

2. Library Lovers' キャンペーン

Library Lovers' キャンペーンに参加した。九州地区全体のベスト貸出図書リストの図書を展示し、多くの学生へ貸出を行った。

また、本学のベスト貸出図書リストの図書も併せて展示した。「コンディショニングのスポーツ栄養学」

（樋口満編著 新版 市村出版 2007）、「ストレンジストレートニング&コンディショニング」（T.R.Baechleほか著 第3版 ブックハウス・エイチディ 2010）、「運動学習とパフォーマンス」（R.A.Schmidt 著 大修館書店 1994）などが上位を占め、国立大学唯一の体育大学である本学の特色が、貸出順位にも表れた結果となった。

3. 図書館情報システムリプレイス

平成25年2月システム更新として、今後5年間運用する図書館情報システムをNALISシステムに決定した。今回の更新にあたっては、処理速度等の向上、より充実した利用者サービスの提供を可能とするシステムの導入を図っている。特に、蔵書検索結果における本の表紙画像提示、学内教員による推薦図書コメントを画面で参照する機能が追加されるなど、図書関連情報を利用者に提供することが可能となっている。

【九州工業大学附属図書館】

ラーニングコモンズサポーターの活動

附属図書館本館では、昨年 1 階フロアにラーニングコモンズが設置された。それに伴い、学生への学習支援等を目的とするラーニングコモンズサポーターを学生から募集。学部生・院生からなるサポーターが様々な活動を行っている。

10 月には、サポーター企画による日本語能力試験対策セミナーを開催した。12 月に行われる日本語能力試験のために、合格者 3 名による体験談が発表され、参加者は、合格者に対して学習方法や参考書、試験の内容などについて活発な質疑を行った。参加者からは「とても役に立った」との好評を得た。

また、サポーターによるブログも開設。図書館に関する記事やイベントの案内を掲載している。学生より質問を受けた場合は、その内容と回答を掲載し、質問内容についてブログを読んだ人も共有できるようにしている。

そして現在は、バッグデザインコンテストを開催中である。図書館が制作するオリジナルバッグのデザインを教職員・学生より募集しており、素敵なデザインが応募されてくることを期待している。

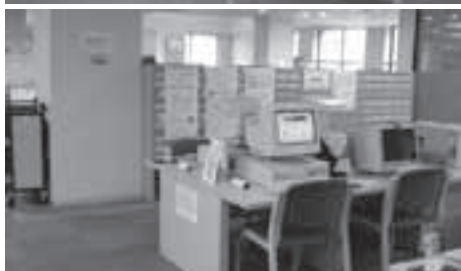
今後もサポーター活動を幅広く行うことによって、学生のニーズに応えていきたいと考えている。



【九州国際大学図書館】

展示コーナーリニューアル

2 階検索コーナーのパソコンと目録カード用BOXを移動させ、保護者後援会からの援助で展示用ラックとブックトラックを設置し、学生が広々と使えるスペースを作りました。



(上) リニューアル前、(下) リニューアル後

選書ツアー

今年で 5 回目を迎える選書ツアーをブックセンタークエスト黒崎店で実施。4 名の学生と引率の職員 2 名が参加して、約 150 冊の本を選んでもらいました。

選ばれた図書は前述の展示コーナーに展示され、多くの学生たちに読まれていました。



わたしの好きな本～Favorite Book コンテスト

本学の教員組織である教養学会との共催で始めた感想文コンテストは、今年で3年目になります。

昨年は19名の学生が応募してくれましたが、今年度はさらなる募集者増加を目指そうと、道路に面した窓や入り口前に大きめの告知を貼り出し、通りすがりの学生にも伝わるようにしました。

年明けには入賞者選考と表彰式を行い、入賞者に表彰状と賞品（クオカード）を贈る予定です。

わたしの好きな本
Favorite Book コンテスト

募集期間
2012年11月1日(木) ▶ 12月14日(金)

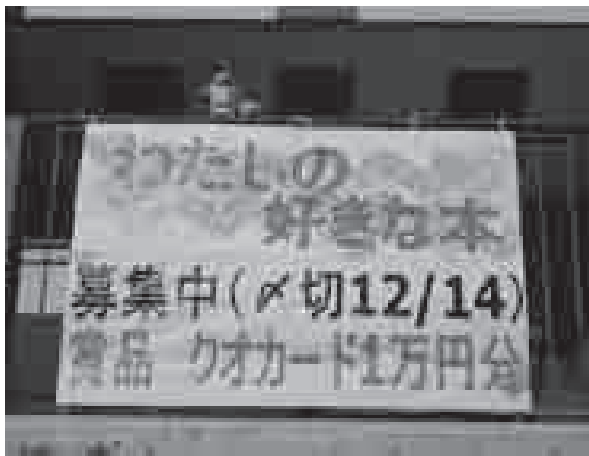
教養学会賞1名
文芸部門賞1名 学術部門賞1名
賞品 クオカード1万円分
応募者全員に参加賞あり

募集要項
1月中旬に図書部主催の表彰式を行います。
★受賞者には1月下旬に発表式を行います。

募集方法
心に思い入れのある本を選び、その感想文(200文字以上)を、(1)文芸部門、(2)学術部門に提出してください。
※文芸部門は小説・エッセイ等、学術部門は学術的な本、専門書、学術書等の書目。大学指定のレポート用紙(原簿利用)に記入し、表裏の両面に記入してください。
※応募は図書部ホームページにて受け付けます。

募集先・問い合わせ先
九州国際大学図書部
092-871-2510

主催：九州国際大学図書部
共催：九州国際大学教養学会



ピックアップニュース

職員が関心を持った新聞記事を、図書館資料と一緒に新聞コーナーで展示する企画です。

ウエイトリフティングでロンドン五輪に出場した本学職員・太田和臣(男子105kg超級)と、過去のロンドン五輪に関する新聞記事・資料を展示しました。

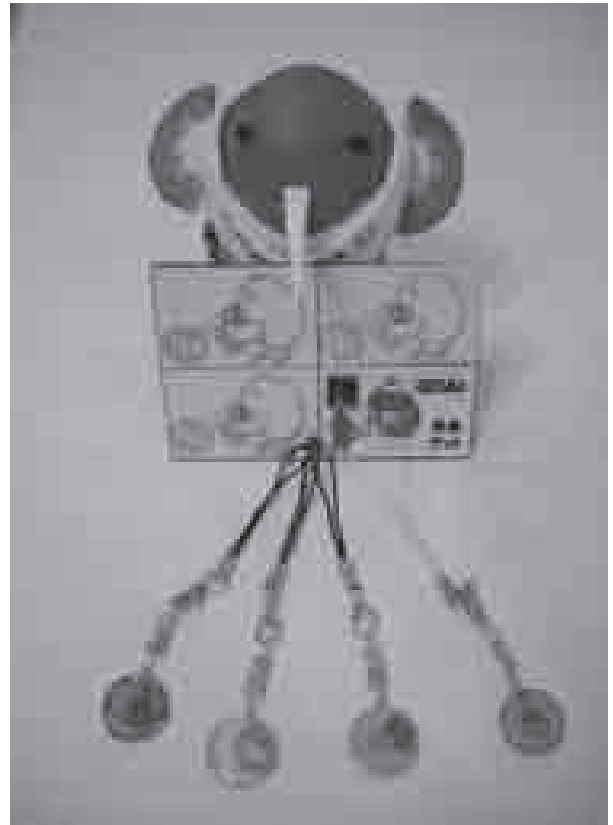


Library Lovers'

Library Lovers' キャンペーンでは、九州文学地図のコメントと貸出ランキング資料を展示。同時に北九州にゆかりのある人物の著作を所蔵資料から選んで紹介しました。

また独自企画として、コメントを書き添えるごとにスタンプを押し、スタンプを集めた学生に職員手作りの「KIULi (キウリ) くん」ストラップを配布しました。





【九州大学附属図書館】

貴重文物展示

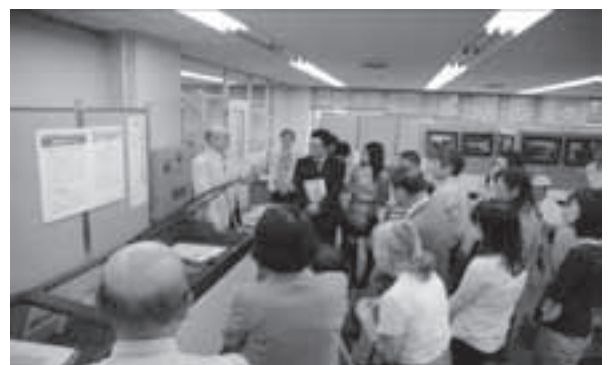
5月16日から22日の1週間、第53回附属図書館貴重文物展示「九州大学百年の宝物：附属図書館貴重資料コレクション」展を開催し、国指定重要文化財「大和物語」の写本をはじめ、附属図書館が誇るコレクションの中から選りすぐりの約30点を展示した。

同時開催の「写真で見る「九大百年」展」特別ミニ展示も、「開校当初の九大の写真や、現在でも残っている建築物（工学部本館）の当初の姿を見ることができ、楽しめた」と、大変好評であった。

今回、初の試みであったギャラリートークでは、日替わりで6名の教員に各コレクションについてお話いただいた。例年の講演会と比べてより近い距離で解説を聞くことができたことから、参加者からは積極的に多くの質問が出され、ギャラリートークのために毎日来場される方もいらした。

なお、本展示会のパンフレットおよびギャラリー

トークの動画は「九州大学 iTunes U」（URL：<http://itunes.icer.kyushu-u.ac.jp/>）で公開している。



ギャラリートーク

図書館の新しい授業連携のあり方を模索して：
「よむ・つたえる」授業の実施

学生の読む力・伝える力の向上や、興味・視点の拡大、読書推進等を目的として、附属図書館と初年次教育を担当する教員、及び活字文化推進会

議と連携した授業に取り組んだ。

24 年度前期は、21 世紀プログラム課程（以下「21cp」）、農学部、法学部の初年次コアセミナーの 3 クラスで「ビブリオバトル」を導入した授業を実施し、学生がおすすめの本を 5 分間の語りで紹介することにチャレンジした。さらに、21cp のクラスでは、ビブリオバトルで紹介した本の POP を紹介者本人が作成し図書館で展示した。

学生は、異分野への関心、読むこと伝えることの難しさや面白さを感じ、本の紹介を通して友人に対する理解を深めたようである。

後期は、読売新聞を半年間無料購読するプログラムに 80 名の学生が参加し、毎日、新聞のある生活を送っている。また、21cp ではその新聞を活用したゼミを行っている。

今後この取り組みの検証を行い、25 年度以降につなげていく予定である。



21cp ビブリオバトル



POP の展示

新入留学生向け図書館ツアーを実施

九州大学では近年、留学生の学習支援強化に重点的に取り組んでいる。24 年度は、4 月 19・20 日（前期）、10 月 1・4・5 日（後期）の日程で、中央図書館において新入留学生向け図書館ツアーを開催した。前期までは、英語と易しい日本語による 30 分程度の館内ツアーと新入留学生と先輩留学生が交流するランチイベントを開催した。後期はより多くの留学生に図書館に足を運んでもらうべく、内容も開催時期も大幅に見直した結果、以下のとおり実施することができた。

- ① 短期留学生 77 名全員への図書館ツアー
- ② 農学部・生物資源環境科学府の非正規・正規留学生全員への簡単なガイダンス
- ③ Library Tour for International Students
 - ・【案内編】交換留学生向けに、図書館の基本的な使い方、国際交流コーナーを紹介。
 - ・【検索編】院生・正規留学生向けに、電子ジャーナル・データベースの紹介や ILL を紹介。

これらのツアーの実施により参加者は計 166 名となり、23 年度 50 名、24 年度前期の 20 名から大幅増となった。国際部の担当部署や各部局の教員・学生係と連携し、留学プログラムに応じた適切なガイダンスを実施したことが有効であった。

EOP、図書館学生サポーターの取り組み

教育の質向上支援プログラム（EOP）の一環として、24 年 3 月より、学生と協働で図書館の学習支援機能をより強化する取り組みを開始した。文系・理系から学部生・院生 5 名を図書館学習サポーター（愛称：Cuter）として採用し、各自の専攻を活かした分野毎の学習ガイドの作成、講習会のサポート、学習相談などを行っている。特に、新入生図書館活用セミナーでは、学生目線からの利用指導や図書館ツアーが好評であった。

この他 10 月からの LibraryLovers' キャンペーンに合わせ、くずし字セミナーや図書館バックヤードツアーなど、Cuter による企画も数多く実施した。

講演会「変わりゆく大学図書館 ー描くべき新しい将来像ー」を開催

3月9日、学術資料の多様化やICT技術の発達によってグローバル化が進展し、図書館を取り巻く環境が大きく変化するなか、図書館員としてその状況にどのように対応すべきかについて、国内外より3名の講師を迎え、講演会を開催した。

交流協定館であるトロント大学図書館のウォレン・ホルダー氏の講演では、University Leadership Council（大学指導者会議）による報告書「Redefining the Academic Library」を基に、トロント大学図書館での取り組みと照らし合わせ、これから大学図書館が取り組むべき課題や進むべき方向性が示唆された。

慶應義塾大学理工学メディアセンターの島田貴史氏は、自身のトロント大学図書館での研修経験を元に、研修で得た問題意識がその後の電子学術書プロジェクトなどの取組みにどのように影響したのかを紹介した。

最後に、附属図書館の浜崎修一部長が、これまで附属図書館が挑戦してきた課題や事例に加え、一図書館員としてどのような心構えで業務と向き合ってきたかを語った。

参加者は全国各地から90名を超え、各講演後の質疑応答も活発に行われるなど、本講演会への関心の高さが伺えた。

セミナー「Power of Library ～大学図書館のパワー～」を開催

7月4日、エルゼビア・ジャパン株式会社と共催でセミナーを開催した。

ゲストスピーカーにはイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校の図書館長兼図書館部長ポーラ・コーフマン氏と、インディアナ大学ブルーミントン校図書館部長ブレンダ・L・ジョンソン氏を招き、両大学の事例を紹介いただいた。

セミナーは2部構成で、第一部の「今求められる図書館経営」と題する管理者向けディスカッションミーティングでは、図書館の管理職が今後どのような視点で大学図書館経営に取り組むべきかについて講演とディスカッションを通じて考え、九州山口地区の各大学図書館長や管理職の方々が活発な意見交換を行った。

続く第二部では「これから求められる図書館像」と題し、米国における教員との連携や図書館による研究サポートの具体的事例や、本学の大学院ライブラリーサイエンス専攻が目指す人材像の紹介、質疑応答を通じ、これからの図書館と図書館員が目指すべき図書館のあり方について考えた。

第一部、第二部を通じ、講演者と参加者が意見交換を行いながら、大学図書館のパワーを最大限に発揮するための方法を考える有益な機会となった。

イリノイ大学図書館との図書館間学術交流協定を締結

附属図書館は9月、アメリカのイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校図書館と学術交流協定を締結した。これは22年に、九州大学の「カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所（I²CNER）」が、九州大学とイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校との長年にわたる密接な協力関係によって創設されたことに端を発する。

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校は、図書館情報学分野における高いレベルの研究で知られている。今後、I²CNER所属研究者に対するサービス提供や、附属図書館研究開発室の活動に関連する情報交換、あるいは九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻との共同研究など、多様なトピックにおいて交流を深めてゆく予定である。

【熊本大学附属図書館】

○第5回「東光原文学賞」作品を募集

平成20年度にスタートした「東光原文学賞」は、熊大生の読書への関心を大いに喚起し、また、言語力向上と創造性豊かな学生の育成を目的に創設された。第5回目となる今年度も短編小説を対象に募集を行い、10月31日までに14編の応募があった。学内外の審査員により大賞1編、優秀賞3編を選考し、1月に発表及び表彰式を実施予定。

○公開講演会・第7回永青文庫セミナーを開催

熊本大学文学部附属永青文庫研究センターの協力により、公開講演会・第7回永青文庫セミナーを去る11月3日に開催し、70名が参加した。講演では、高濱州賀子同研究センター客員准教授が「竹原家故実と細川藩」と題し、永青文庫に残る多数の故実芸能関係の写本類から、大名家に欠く

ことのできない行事や儀式、武芸の修得など「大名としての体面」を支えた故実書の実際について、細川家の故実相伝に大きな役割を果たし竹原家歴代の仕事を考察した。



【熊本保健科学大学附属図書館】

1. 今年で10周年

本学開学当初の学生規模は、衛生技術学科（現在の医学検査学科）、看護学科の2学科総定員800名でした。現在は、リハビリテーション学科を加え3学科、大学院、助産別科、さらには、認定看護師課程もできまして、約1500名となりました。

これに伴い、図書館資料の専門領域も看護、医学検査に加え、リハビリテーション、言語聴覚関連と幅広い資料体系となっています。図書館システムも3年前に更新し、入館システムも昨年度入れ替えました。扉の無いシンプルな入館ゲートです。



2. 電子ブック導入

本学の学生は、学外実習が多く、帰校後の来館とならざるを得ず、不便を強いていました。閉館後や実習先からも利用できるよう電子ブックの導入を始めました。まだ購入分は、50冊ですが、徐々に増やしていく予定です。

3. オープンキャンパス

オープンキャンパス時には、各学科貸出ベスト10や各学科で使っている教科書を展示しています。実際に学生が利用している図書や教科書を手にとって見ることができ、生徒さんや保護者の方に好評です。

4. ユニバーサルタイプの複写機導入

今年6月、複写機1台増設しました。通常の複写機より高さが低く、車いすの方でもご利用いただけるユニバーサルタイプです。製本雑誌など重い本の複写の際も使いやすく便利です。

5. 蔵書点検外部委託

学生の貸出利用は、年間一人あたり平均12冊、看護学科は、36冊を超えています。卒業生の利用も多く、院内研究のために文献を利用する卒業生や学外者（看護職）も年々増加しています。このように利用度が高いため、今年度初めて、蔵書点検を外部業者に委託しました。蔵書は5.5万冊と少ないのですが、学生の利用が途絶えることが無く、蔵書点検日の休館日にも利用の要望が非常に高いため、一夜で行う蔵書点検を10月に実施しました。通常3日間かかるところを一夜で終了しました。結果は、例年同様の精度でした。次年度も実施予定です。

6. 閲覧席不足対策

学生数が増加したことにより、閲覧席不足が慢性的な課題となっております。定期試験国家試験

前には、グループ学習室を開放し、折りたたみの机椅子を並べ、対応しております。12月には事務室の一部を改築し、閲覧席20席増の予定です。(原稿執筆時11月)。

7. 就活コーナー（キャリアアップ資格試験関連含む）設置

本学は、就職率が高いため、今まで館内に特別に設けていませんでしたが、10月から国家試験対策コーナー横に設置してみたところ、日頃利用の少ない学科の貸出が急増しました。これまでは、一般書架に配架していたものを移動しただけですが、置く場所によって、大きく違うことを再認識しました。このコーナーが呼び水となって他の本にも目がいくようになったようです。また、このコーナーに追加して卒業後のキャリアアップに役立つ各科卒業後の資格試験関連を置いています。こちらも好評です。

8. 認定看護師課程4月開講課程生の利用

今年度より現役看護師対象の認定看護師課程4月開講課程が増え、館内の雰囲気が大きく変わりました。(昨年度までは、10月開講のみ)やはり、実際に医療現場で実践を体験している方が日常的に図書館を利用していると、在学生にも刺激になり、大変緊張感のある館内となりました。

9. OCLCに加盟

海外への文献複写や貸借依頼が増加し、OCLCにも参加することになりました。

【佐賀大学附属図書館】

1. 集密書架設置

附属図書館では、懸案であった収蔵力不足を解決するため、平成24年3月、本館2階書庫に集密書架を設置した。新しく設置された集密書架は、

約7万冊の収蔵が可能であり、収蔵力はこれまでの2倍になった。



2. 学生選書委員会活動

学生選書委員会の活動は、平成18年開始より7年目を迎えた。今年度の活動として、選書ツアー

(8月：福岡市天神の書店及び福岡大学図書館(中央図書館)(見学)、9月：福岡市博多区の書店)、職場体験及び館内展示等を行った。



選書ツアー後は学生選書委員と職員とでミーティングを開催し、選書した本の審議を行っている。



後日、学生委員は、自分たちが選んだ本に、バーコードラベルを貼る作業を行った。



また、図書館1階貸出カウンター前のスペースは、図書館職員が定期的に季節の行事や、テーマに合わせたディスプレイや、新着図書の展示などを、行っている。



(医学分館)

3. イベント

(1) 図書館月間講演会

当館では、11月を「図書館月間」として、市民・学生・教職員を対象とした講演会などを開催している。

今年は「徐福—不老不死の薬を求めて、そして今—」をテーマに講演会を2回開催した。

【第1回】

日時：11月12日(月) 14:00~15:30

演題：「徐福2200年—徐福の見た夢—」

講師：澤野 隆氏

(NPO 法人佐賀県徐福会理事長)



【第2回】

日時：11月13日（火）16：00～17：30

演題：「徐福ラボにおける食品機能性に関する研究—佐賀県産品の可能性—」

講師：永尾晃治氏（佐賀大学農学部准教授）



（2）図書館月間資料展示

11月8日（木）から19日（月）まで、講演会のテーマ「徐福—不老不死の薬を求めて、そして今—」に沿った資料の展示を行った。

【長崎大学附属図書館】

1. 中央図書館改修期間中のサービス

中央図書館では、平成24年3月下旬より耐震改修工事を行っていることから、図書館・放送大学長崎学習センター棟2階にて、サービス規模を縮小して図書館サービスを提供している。

図書館資料については、学生がよく利用するシ



4. 除籍図書の無償譲渡

附属図書館本館では、重複や保存の無いとの理由により除籍した図書の再利用を目的として無償譲渡を行っている。平成23年度は、約2万3千冊、平成24年度上半期は約6千冊の除籍図書を数回に分けて、エントランスホールに並べ、本学の学生・教職員、一般利用者の方に先着順で譲渡を行った。



ラバス図書や学術雑誌及び軽雑誌を2階に配架し、従来、開架書架に配架していた図書等は1階の電動式集密書庫に配架して、利用に供している。

3月下旬から座席数がかなり減少したが、少しでも改善するため、教育学部より折りたたみテーブル及び椅子を借りて、わずかではあるが座席数

の増加を図った。

パソコンについては、留学生用パソコン6台を含む84台を設置し、常に学生に利用されている。

開館時間については、サービス規模の縮小に伴い、通常より短縮し、平日は午後6時30分閉館、及び土日は休館としていた。しかし、6月実施のアンケート調査の結果、学生からの要望を受け、7月より平日は午後8時閉館、土日は午前10時から午後5時までの開館とし、改善を行った。

2. 中央図書館写真集の発行

中央図書館が改修工事により、外観及び内装が一変することから、利用者に改修前の図書館のお気に入りの場所や思い出の場所を写真撮影していただき、電子写真集としてホームページにて公開している。

(<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/about/photo/index.html>)

応募期間は平成23年12月中旬から2ヵ月ほどであったが、170枚以上の写真が利用者から提供され、かつての図書館の姿がしのばれるものとなっている。

3. 古写真展の実施

長崎市立図書館と共催で、10月3日(水)から14日(日)にかけて、「マンスフェルトが見た長崎・熊本」古写真展を長崎市立図書館にて開催した。

附属図書館は昨年、幕末・明治初期に長崎・熊本で医学教育の近代化に貢献したオランダ人医学教師マンスフェルト(1832-1912)の古写真データを購入している。

今回の写真展では、マンスフェルトの収集した写真のほか、同時期の長崎や熊本各地の風景、風俗などを収めた写真が紹介されている。これらの写真は、11月以降、九州産業大学美術館をはじめ東京都、北海道及び兵庫県美術館等で公開されることとなっている。

4. 「五島市の教会写真展」の開催

中央図書館では1月、「五島市の教会写真展」を開催した。ご存じのとおり、長崎県内には、数多くの教会及びキリスト教関連遺産がある。五島市(五島列島南西部)にも教会が22あり、その中で代表的な教会を写真で紹介した。



5. 書作展「彩」の開催

中央図書館では、2月6日(月)から2月15日(水)にかけて、教育学部の書道授業選択者による書作展「彩」を開催した。来場者は、学生の熱い思いがこめられた作品に見入っていた。



6. 選書ツアー及びブックハンティングの実施

本年も学生による選書ツアー及びブックハンティングを実施した。

選書ツアーについては、経済学部分館が10月25日(木)、中央図書館が10月26日(金)に市内の書店にて実施した。

ブックハンティングは、学生が期間中の空いた

時間に選書するという企画で、10月25日（木）から10月31日（水）にかけて、医学分館が医学部及び歯学部のある坂本キャンパス内の3生協にて実施した。

なお、これらの企画は、Library Lovers' キャンペーンの関連企画として実施した。



7. 「図ってって」の発行開始

図書館では、図書館報『和華蘭の窓』を年2、3発行しているが、もっと学生が気軽に読んで、図書館の活動を知ってもらえるような内容の図書館ニュースレターを、6月より毎月発行することにした。

そのタイトルは「図（と）ってって」という、学生に気軽に取って行ってほしいとの思いを込めたものである。記事内容は中央図書館、医学分館及び経済学部分館からのタイムリーなお知らせや身近に感じてもらえる情報となっている。

【福岡教育大学学術情報センター図書館】

1. 館長懇談会の実施

平成23年11月、図書館を利用している学生から参加者を募り、図書館長との懇談会を実施した。

8. 医学共同図書室のサービス再開

病院改築のため、一時的に閉室していた医学共同図書室が、本年4月より病院外来棟10階でサービスを再開した。この図書室には、医学臨床系及び歯学系の学術雑誌を500タイトル以上所蔵している。閲覧机18席分のほか、OPAC検索用端末、複写機を備え、入退室はICカード管理で24時間利用できる。主に病院内の教職員の文献調査等に利用されるほか、平日の午後には、医学分館職員が2時間ほど在室し、臨床系研究室の新着雑誌や文献複写物等の受け渡しのサービスも行っている。

さらに、7月に学生用パソコン4台を設置し、10月から有料プリンターへの出力を可能にした。その結果、臨床実習中の学生のレポート作成などでの利用が増え、10月には1ヶ月の入室者がのべ1600人にのぼった。

9. 「図書館でつぶやこう！」の実施

経済学部分館では、2月より、館内4カ所に「つぶやき」掲示板を始めた。用意された付箋紙に書いて掲示板に貼るという仕組みで、つぶやきはクスッと笑えるひとことや、勉強や生活についての悩みなど様々で、図書館職員や学生がフォローしている。

勉強についての悩みが書かれたつぶやきをもとに、7月、グループ学習室で勉強会を行った。

10. 国際展開

長崎大学附属図書館の古写真事業は、国内だけでなく海外展開を図っている。詳しくは、図書館のホームページより、図書館報『和華蘭の窓』最新号を見ていただきたい。

<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/about/kanpo/>

授業時間と重なったため参加者は少なかったが、図書館の施設や資料についての意見や要望などを自由に発言してもらい、今後図書館を運営・改善

していくうえで、とても有意義な会であった。



参加者には後日、他の学生にも薦めたい図書を選書してもらい、購入された図書は『学生選書コーナー』に配架され、学生によく利用されている。

2. 学術情報センターとしてスタート

今年7月、学術資料の収集・管理・提供を行う「図書館」と、情報システム・ネットワークのサービスを提供する「情報処理センター」を統合し、新しく「学術情報センター」が発足した。これまで別部署で行われていた、学術資料の提供と情報機器・ネットワークのサービスを同じセンターで行うことにより、教育・研究・学習への機能向上を目指したものである。

施設の利用については、「図書館」として、これまで通りのサービスを行うが、今後は新たなサービスも提供していきたいと考えている。

3. 大学オープンキャンパス協賛

7月28日開催のオープンキャンパス行事に合わせ、図書館では、図書館ツアーと小学校教科書のミニ展示を実施した。ツアーでは、明治期の教科書や復刻版墨ぬり教科書などを保存している戦前戦後教科書室、子ども図書室や書庫などの見学を行った。また、ミニ展示では、オープンキャンパスで来館する高校生の小学校1年時使用教科書および50年ほど遡った昭和30年頃の各教科の教科書の比較展示を行った。高校生や保護者の多くが、使っていた出版社の教科書を探したり、古い教科書の内容を見たりと足を止めていた。



4. Jr.サイエンス協賛

10月26日大学主催イベントの“Jr.サイエンス&ものづくり in 教育大”に参加し、「豆本をつくってみよう！」という企画を実施した。

これは、普段読んでいる本がどういう造りになっているのか、ボール紙や色紙で豆本を作って確かめ、製作後は色紙やスタンプなどで自由に飾り、自分だけの本を作る楽しさを味わおうというもので、今回初めて実施した企画である。

未就学児から保護者まで、幅広い年齢層の参加者が、紙と糊とで1時間ほどかけて作りあげた豆本に、各自思い思いの装丁を施して楽しみ、ほとんどの参加者から「とてもよかった」という感想が寄せられた。



【宮崎大学附属図書館】

1. ラーニングコモンズ設置

本館では、閲覧室の一部を改修し、10月1日にラーニングコモンズをオープンした。オープンに先立ち、9月25日に学長、副学長及び学生関係の教職員を対象に見学会を実施した。1階自由学習室、2階グループ学習室、セミナー室において自由に机やイス、ホワイトボードなどを組み合わせて話し合いながら学習することができる。自由学習室ではエリアごとの予約も可能で、各種セミナーやゼミなどに活用されている。



見学会



ラーニングコモンズ 自由学習室

医学分館では、4月からラーニングコモンズの運用を開始した。可動式の机やホワイトボード、大型ディスプレイを備えており、グループで相談しながら学習することができる。また、情報検索ガイダンスを開催するなど、利用者の情報活用を支援している。なお、試験期には、ラーニングコモンズの一部を試験勉強のためのスペースに切り替えて運用する。



2. Library Lovers' キャンペーン

オリジナル企画「しおり工房」

今年度も九州地区の国公立大学等図書館による合同企画に参加した。また、オリジナル企画として、毎年好評の「しおり工房」を実施した。大学開放日には近隣の子供も参加して和やかな雰囲気の中、たくさんのしおりが完成した。



しおり作成中



3. 廃棄図書の無償配布

平成 24 年 11 月 17 日～18 日に大学開放事業が実施され、図書館の開放とともに、廃棄図書の無償配布を実施した。学生・教職員・一般市民等の希望者へ図書を無償配布した。



【琉球大学附属図書館】

■沖縄情報統合検索システム (iXio) を公開

琉球大学附属図書館では、平成 24 年 3 月末に「沖縄情報統合検索システム (Integrated Cross-search for Information of Okinawa: 略称 iXio (イクシオ))」を公開しました。これは、沖縄関係の情報を掲載する県内外のデータベースを横断的に検索するシステムで、目録情報、画像、音声などのデータベースの横断検索が可能です。対象となっているデータベースは当館のデータベース (デジタルアーカイブや文献情報データベース等) の他、沖縄県立図書館、沖縄県公文書館、那覇市歴史博物館、アジア歴史資料センター等の 10 機関 22 件となっています (平成 24 年 8 月現在。なお、この他システム上の問題で横断検索ができないデータベースについてはリンクを表示しています)。

今後、効率的な検索ができるよう、随時参加データベースを増やしていく予定です。

URL=<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/ixio/>

■早朝開館を実施

附属図書館及び医学部分館の開館時間は授業の開始時間と同じ 8 時 30 分でしたが、授業開始前に図書館を利用したいという要望が多く寄せられていたため、平成 24 年 4 月より、30 分繰り上げた早朝開館 (8 時～8 時 30 分) を開始しました。サービスの内容に多少の制限はありますが、この 30 分間で 1 日平均 100 名余の入館者があり、授業前の準備等に活用されています。

■パネル展「琉球大学のあゆみ」を開催

今年が日本に復帰して 40 年目の節目にあたることから、5 月 15 日の復帰の日、また本学開学記念日である 5 月 22 日にあわせて、平成 24 年 5 月 14 日から 31 日の期間でパネル展「琉球大学のあゆみ—1950 年～1972 年」を開催しました。

本パネル展では、開学から日本復帰までの間の琉大生の生活の変化に着目し、法定通貨が変更される度に授業料・奨学金などの通貨単位が変更されていく様子を当時の『学生便覧』や『学生生活実態調査報告書』をもとに紹介しました。また当時の琉大生の証言の紹介や、B 円やドル等の通貨、渡航証明書 (沖縄と日本を往復する際に必要な証明書でパスポートに相当するもの) などの資料も併せて展示しました。



■企画展

平成 20 年 5 月より、本館ロビー正面に「企画展コーナー」を設置しています。このコーナーでは、約 2 か月毎にテーマを変えて、利用者のみなさまへオススメする本等を紹介しています。

【平成 24 年度実施企画展】

○4～5 月「ブックハンティングに行ってきました！」

○5～6 月「Back to the 1972」

○7～8 月「環境についてもっと考えてみよう」

○9～10 月「目指せ！びぶりお文学賞！」



■第 33 回 EUi セミナーを開催

10 月 11 日から 2 日間、琉球大学研究者交流施設・50 周年記念会館を会場に、第 33 回 EUi セミナーを開催しました。本セミナーは、国内に設置されている EU 情報センター 19 館および寄託図書館 1 館が連携を深め、EU に関する図書館活動の向上・発展を図ることを目的として毎年開催しているもので、16 機関から 17 名の参加がありました。

1 日目は、駐日欧州連合代表部リチャード・ケルナー氏による「EU 情報センターの役割・あり方」と題した講演の後、上智大学ヨーロッパ研究所の研究員による研究発表や各館の EU に関するレファレンス事例報告等が行われました。

2 日目は、「The EU at a Turning Point - Past, Present and Possible Futures」（「転換期の EU—過去、現在、そして今後の行く先」）と題する琉球大学法文学部の金城宏幸教授、宮里厚子准教授、WEBER TILL 准教授の 3 氏による講演があり、スペイン・フランス・ドイツを中心に、経済問題などの最新の情勢が英語と日本語で提供されました。

また、EU 情報センターの今後の活動に関して提案や問題点などもあげられ、大変有意義なセミナーとなりました。



■平成 24 年度貴重書展「文献資料に見る琉球・沖縄 in うるま市」を開催

琉球大学附属図書館では、開館以来収集してきた沖縄関係資料のなかでも、普段一般に公開していない貴重書を中心に、多くの市民に見てもらおうと県内各所において毎年貴重書展を開催しています。平成 24 年度は 10 月 16 日から 24 日までの間、沖縄本島中部にあるうるま市立中央図書館との共催により開催されました。本学所蔵資料の中から県指定文化財、新収蔵資料、開催地であるうるま市に係わる資料を中心に厳選した 36 点のほか、共催機関からの展示としてうるま市所蔵の県指定文化財 1 点を加えた 37 点の原資料、及び大正期から戦後の沖縄の風景を撮った写真パネル等 55 点が展示され、期間中約 1500 名が来場しました。また 20 日には、高良倉吉氏（法文学部教授・附属図書館長）による特別講演「うるま市と琉球

王国一勝連グスクを中心に」が開催され、220名の来場者で大いに賑わいました。後日、要望に応じて講演会を記録した映像の上映会を開催するほどの評判でした。



■文芸ワークショップ「小説の書き方講座」を開催

7月18日、文芸ワークショップ「小説の書き方講座—又吉栄喜氏を迎えて—」を開催しました。前半は、本学出身であり、『豚の報い』で第114回芥川賞を受賞した又吉栄喜氏を講師に迎え、「『ジョージが射殺した猪』とその周辺を語る」とする演題で、約40分間の講演が実施されました。後半は、法文学部の山里勝己教授の進行のもと、又吉栄喜氏への質疑が行われ、次々と質問が寄せられました。

本ワークショップは、今年で第6回となる琉球大学びぶりお文学賞への応募を促すと同時に、琉球大学の文学活動の更なる活性化を目指し企画されたもので、大学の内外から参加がありました。



■文芸ワークショップ「詩の寺子屋塾」を開催

「小説の書き方講座」に続いて10月23日、文芸ワークショップ「詩の寺子屋塾—詩を書いてみよう！—」を開催しました。第1部は、詩だけでなく、小説・戯曲などで県内外の文学賞を受賞している大城貞俊氏（教育学部教授）を講師に迎え、「詩の表現方法について」とする演題で、約1時間の講演が行われました。第2部は「想像力を使って詩を書いてみよう！」というタイトルで、実際に参加者に詩を書いてもらうワークショップを行いました。参加者たちは短い時間ながら熱心に取り組み、即興で書いた詩を朗読しました。

今回のワークショップ参加者の中にはアンケートで「びぶりお文学賞詩部門へ応募したい」と答える学生もおり、びぶりお文学賞への関心の高さがうかがえました。

■Library Lovers' キャンペーンに参加

九州地区の国公立大学図書館が合同で行う「Library Lovers' キャンペーン」（10月22日～11月19日）に参加しました。合同企画「本で、

旅する - 九州文学地図 - 」、「九州地区大学図書館貸出ランキング」の外、当館の独自企画として以下のイベントを実施しました。

◎図書館を使いこなそう！

図書館の利活用に関するクイズを配布。期間中、20名が挑戦しました。

◎40年前の今日は！？

今年は沖縄が本土へ復帰して40年ということで、マイクロフィルムで所蔵している40年前の県内の新聞を日替わりで展示。あわせて、マイクロフィルムの利用法に関する展示も行いました。

◎迷子の本を探せ！

使用后、元の場所に戻されなかった等の理由で図書館内で不明になってしまった本を探してもらうイベント。期間中、1冊の本が見つかりました。

◎ビブリオバトル in 琉大図書館

おすすめの本の紹介（5分）とディスカッション（2～3分）を行い、最後に最も読みたくなった本（チャンプ本）を決定するイベント。当館で初の実施となる今回は、本学の学生5人がおすすめの本を紹介しました。当日は、約30名が観覧に訪れました。



ビブリオバトル



本で、旅する - 九州文学地図 -



迷子の本を探せ！

図書館活動報告

福岡県・佐賀県図書館協議会

【平成 24 年度総会】

日 時：平成 24 年 5 月 25 日（金）13:30～16:00

会 場：石橋美術館本館 1 階講座室

出席者：37 館 52 名

当番館：聖マリア学院大学図書館

協議事項

(1) 協議会入会について

国際医療福祉大学九州地区キャンパス図書館

(2) 平成 23 年度決算報告および監査報告について

(3) 平成 24 年度事業計画および予算案について

(4) 次期理事館および監事館の選出について

理事館 九州共立大学附属図書館

監事館 九州国際大学図書館

(5) 福岡県図書館協会理事の選出について

九州大学および九州共立大学

地区研究会報告

(1) 北部地区

九州国際大学図書館

事務室長 松尾 史雄 氏

(2) 福岡地区

福岡工業大学・福岡工業短期大学部附属図書館

事務長 江口 典明 氏

(3) 南部地区

久留米工業大学図書館

室長 萩尾 文子 氏

報告事項

(1) 福岡県・佐賀県大学図書館協議会が平成 25 年度第 99 回全国図書館大会の共催団体になることについて

(2) 平成 25 年度第 99 回全国図書館大会について

承合事項

(1) 自動貸出返却装置とブックディテクションシステムについて

(2) 学外者の貸出等について

その他

(1) 平成 24 年度北部地区研究会目録講習会開催について

九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館
係長 矢崎 美香 氏

講演

演 題：「もうひとつの石橋コレクション」

講 師：石橋美術館学芸課長 森山 秀子 氏

見学

石橋美術館特別展「くらべる。つながる石橋コレクションーブリヂストン美術館開館 60 周年を祝う」

福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会

【第 1 回研究会】

日 時：平成 24 年 5 月 17 日（木）13:00～16:30

場 所：近畿大学産業理工学部 4 号館 1 階

視聴覚教室

出席者：13 館 20 名

当番館：近畿大学産業理工学部図書館

欠 席：1 館（北九州工業高等専門学校図書館）

議 事

(1) 平成 23 年度会計報告および監査報告

(2) 平成 24 年度予算（案）

(3) 平成 24 年度目録講習会の実施について

(4) 協議事項「福岡県・佐賀県大学図書館協議

会総会の理事、幹事館について」

(提出館：近畿大学産業理工学部)

- (5) 事例報告「人材育成に伴う目録講習会について」-福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会目録小委員会開催の目録講習会をとおして-

(発表：九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館 矢崎 美香氏)

- (6) 講演

演 題：「柳原白蓮について」

講 師：飯塚市歴史資料館館長

文化財保護課長 嶋田 光一氏

- (7) 次期当番館の確認

【第2回研究会】

日 時：平成24年12月14日(金) 13:30～16:00

場 所：福岡県立大学 管理棟2階会議室

出席者：14館22名

議 事

- (1) 報告事項

「平成24年度目録講習会」について報告

(目録講習会小委員会)

- (2) 協議事項

・平成25年度以降の目録講習会の開催・

運営方法について

(目録講習会小委員会)

・福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会の理事館、監事館について

(近畿大学産業理工学部)

- (3) 承合事項

1. 図書館案内と図書返却の遅滞に伴う罰則規定について

(九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学)

2. 教員の研究図書の取扱いについて

(九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学)

3. 学外利用者への対応について

(福岡県立大学)

4. 紛失図書の対策について

(福岡県立大学)

- (4) その他

1. 平成25年度当番館確認

2. 平成26年度当番館選出

- (5) 講演

演 題：「MOW 山本作兵衛さんと福岡県立大学」

講 師：森山沾一氏(福岡県立大学副学長兼附属研究所長)

平成24年度 福岡県・佐賀県大学図書館協議会 福岡地区研究会記録

日 時：平成24年11月30日(金) 13:30～16:40

(受付開始 13:00)

会 場：中村学園大学 西2号館 9階会議室

出席者：12館26名

研究会：筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館

担当館：中村学園大学図書館

福岡女子大学附属図書館

1. 研究会開会 (13:30～13:40)

・当番校館長挨拶

筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館

館長 大津 忠彦 氏

2. 講演 (13:40～14:45)

・演 題：「インパクトファクターは研究者を評価できるか？」

ーその成り立ち、考え方と仕組みー

・講演者：トムソン・ロイター社

甲斐 真佐美 氏

3. 休 憩 (14:45～15:00)

4. 事例報告 (15:00～16:00)

(1) 題 目：学生の図書館利用促進への模索

報告者：九州情報大学附属図書館

館長 南 俊朗 氏

司書 藤 理恵子 氏

- (2) 題 目：学生選書 5 年の歩み
報告者：筑紫女学園大学・短期大学部附
属図書館
係長 原野 綾子 氏

- (4) ①買い切り型電子書籍の費目について
②図書館の入館者数(今年度前期)について
提案大学：筑紫女学園大学
以上、7件について各館より提案理由および、
回答に対してお礼が述べられた。

5. 承合事項 (16:00~16:30)

- (1) ①電子リソースのOPAC表示について
②学生へのLA(ライブラリー・アシスタント)
周知について
提案大学：福岡大学
- (2) ①図書館の活性化のための取り組み
②電子図書の導入実績あるいは予定について、
導入予定のない大学においては、その理由
提案大学：九州産業大学
- (3) ①図書館建物内における飲食の許可について
提案大学：福岡女子大学

6. 平成 25 年度福岡地区研究会当番館の紹介
(16:30~16:35)

- ・次期当番館として、九州産業大学図書館、
西南学院大学図書館、東海大学福岡短期大
学図書館が紹介され、当番館を代表して西
南学院大学図書館から挨拶があった。

7. 閉 会 (16:40)

- ※閉会后、希望者を図書館へ案内した。

福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会

【平成 23 年度 第 2 回研究会・総会】

日 時：平成 24 年 3 月 2 日 (金) 13:30~16:00

会 場：久留米工業大学本館会議室 (本館 3 階)

出席者：11 館 14 名

当番館：久留米工業大学図書館

議 題

研究テーマ

- (1) 図書館における電子書籍の位置付けについて
協議事項

- (1) 平成 24 年度研究テーマについて

①利用者促進のための工夫について

②電子ジャーナルの講読における問題や有
効な利用、可能性について

承合事項

- (1) ブラウジング雑誌購入について
(2) 本館、分館があると書館で規程やサービス
で均一化されているものがあればお知らせ
ください。

講 演

演 題：「電子書籍の最新動向と電子図書館」～
慶応義塾大学様との実証実験から見えて
きた電子図書館～

講 師：京セラ丸善システムインテグレーション(株)
鈴木辰也氏

その他

- (1) 平成 23 年度南部地区研究会のまとめにつ
いて

総 会

- (1) 平成 23 年度決算について
(2) 平成 24 年度予算 (案) について
(3) 平成 24 年度幹事館及び当番館の選出につ
いて

【平成 24 年度 第 1 回研究会】

日 時：平成 24 年 11 月 1 日 (木) 13:30~16:00

会 場：有明工業高等専門学校図書館 1 階セミナー室

出席者：13 館 19 名

当番館：有明工業高等専門学校図書館

議 題

研究テーマ

- (1) 図書館の利用促進について

発 表：「よりよいと書館にするための対応マニ
ュアル～多様化した利用サービスについて」

発表者：西九州大学附属図書館 中原昭子氏

協議事項

(1) カビの生えた図書について

承合事項

(1) 図書館での携帯電話の充電について

(2) 図書館所蔵の VHS について

講演

演題：「日本語コミュニケーション能力向上
メゾンドの開発」について

講師：有明工業高等専門学校

館長 焼山廣志氏

佐賀県大学図書館協議会

1. 平成 24 年度総会

日時：平成 24 年 8 月 1 日（水） 11:00～13:30

当番館：佐賀女子短期大学図書館

会場：佐賀女子短期大学 411 教室

出席者：7 名

協議事項等

- ① 平成 23 年度決算報告について
- ② 平成 24 年度予算（案）について
- ③ 平成 24 年度図書館活動費の補助について
- ④ 平成 25 年度幹事館および監査館の選出
について

⑤ その他

報告事項

① 各大学図書館の活動状況について

② その他

承合事項

- ① 紀要の収集について（基準、方針等）
- ② 官報の保存期間について
- ③ 長期延滞者に対する指導の方法や、督促の仕方などについて
懇談会及び情報交換

長崎県大学図書館協議会

1. 平成 24 年度総会

日時：平成 24 年 6 月 7 日（木） 14:30-16:30

会場：長崎総合科学大学

出席者：11 館 19 名（外に長崎県公共図書館等
協議会より 1 名）

議題：

- (1) 会員館の退会について
- (2) 平成 23 年度事業報告について
- (3) 平成 23 年度決算・監査報告について
- (4) 役員館等選出方法の見直し（案）及び
会則等の改正（案）について
- (5) 平成 24 年度事業計画（案）について
- (6) 平成 24 年度予算計画（案）について
- (7) その他

報告等：

- (1) 各館の当面する諸問題について
- (2) その他

2. 研修事業（平成 24 年 1 月～12 月）

(1) 長崎国際大学との共催研修会

テーマ：海外メディアの最新情報

日時：平成 24 年 2 月 24 日（金） 13:00-18:00

会場：長崎国際大学

演題 1：イーブックスの世界利用動向と
Springer の戦略・展開

講師 1：山崎猛氏（シェパリンガー・ジャパン）

演題 2：一番大切なデータベースを作る
～情報の保管と管理～

講師 2：石田一郎氏（プロクエスト日本支社）

演題 3：学術情報（人社系）の電子化と利用
多様

講師 3：石橋正久氏（テイラー&フランシス）

演題 4：その時、世界新聞は何を伝えたか
～歴史新聞データベースの効用～

講師 4：溝口哲彦氏（センゲージ・ラーニング）

演題 5：電子書籍について

～最近のニュースから～

講師 5：磯崎仁氏（エフスコ・パブリッシング）

演題 6：データベース利用率向上のための
施策と分析～『ジャパンナレッジ』
から見える～

講師 6：田中政司氏（ネットアドバンス）

参加者：66名

(2) 公共図書館等協議会との合同研修講演会

テーマ：電子書籍

日時：平成24年9月10日（月）10:00-16:00

会場：長崎大学情報メディア基盤センター

内容：

「電子書籍に関する最近の傾向と図書館サー
ビスのあり方について」

講師：常世田良氏（立命館大学文学部）

「国立公文書館のデジタルアーカイブ」

講師：濱田幸夫氏

（国立公文書館アジア歴史資料センター）

「図書館における電子書籍の導入について」

講師：日本ユニシス、NTT データ九州、iNEO

参加者：86名（大学8名、公共等78名）

(3) 国立情報学研究所との共催研修会

テーマ：JAIRO Cloud

日時：平成24年12月11日（火）14:00-17:30

会場：長崎大学情報メディア基盤センター

内容：

1部 開催趣旨説明

JAIRO Cloud の概要説明

機関リポジトリソフトウェア WEKO の

概要説明及びデモンストレーション

事例報告 1

事例報告 2

質疑応答

2部 ハンズオン（概要説明）

ハンズオン（実習形式）

参加者：19名

熊本県大学図書館協議会

1. 平成24年度熊本県大学図書館協議会総会

日時：平成24年6月5日（火）15:50～16:00

会場：崇城大学図書館 会議室

出席者：12館 23名

議事：

- (1) 平成23年度総会議事録の確認
- (2) 平成23年度事業報告について
- (3) 平成23年度収支決算並びに監査報告に
ついて
- (4) 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)
について
- (5) 次年度世話館について
- (6) その他（照会事項）

2. 平成24年度熊本県大学図書館職員研修会

日時：平成24年10月4日（木）10:00～16:00

①午前の部（講演会）

会場：崇城大学図書館 会議室

講師：中西 真美子 氏（崇城大学図書課主事）

講演題：「資料調査（フィールドワーク）の流れ」

参加者：12館 20名

②午後の部（講習会）

会場：崇城大学図書館 閲覧室

講習名：「図書のやさしい補修・修理の基本講習」

参加者：12館 22名

大分県大学図書館協議会

1. 平成 24 年度総会

日 時：平成 24 年 8 月 20 日(月) 16:00～17:00

当番館：大分県立看護科学大学附属図書館

会 場：大分県立看護科学大学 中会議室

出席者：17 名

協議事項等

〔協議題〕

- (1) 平成 23 年度事業報告及び決算報告(案)、
監査報告(案)について
- (2) 平成 24 年度事業計画(案)及び予算(案)
について
- (3) 平成 25 年度役員館(案)及び当番館(案)
について
- (4) 「大分県大学図書館間相互利用実施要
項・別表」の改正について
- (5) 大分県地域共同リポジトリ(仮称)の
構築等について

〔承合事項〕

- (1) 教員の研究室に配架されている図書
(資産)について
- (2) 延滞者対策について

2. 講演会

日 時：平成 24 年 8 月 20 日(月) 15:10～15:50

会 場：大分県立看護科学大学 中会議室

講 師：宮内 信治氏(大分県立看護科学
大学准教授)

演 題：「易しい英語で Happy Reading」

参加者：17 名

3. 研修会

日 時：平成 24 年 3 月 2 日(金) 15:30～16:30

場 所：大分工業高等専門学校管理棟 2 階会議室

演 題：「図書館活動の種」

講 師：島田 晋氏(NPO 法人環境保全技術
研究所理事長)

参加者：16 名

宮崎県大学図書館協議会

1. 平成 24 年度宮崎県大学図書館協議会総会

日 時：平成 24 年 9 月 26 日(水) 14:30～16:00

会 場：宮崎大学附属図書館共同研究室

出席者：加盟 7 大学、1 高専及び宮崎県立図書
館(オブザーバー館)

計 16 名

議 事：

- (1) 平成 23 年度決算報告及び監査報告
- (2) 平成 24 年度事業計画及び収支予算
- (3) 協議事項
 - ① 利用増に向けての方策について
 - ② 書庫の狭隘化に伴う図書館資料の整理
(廃棄等)について
- (4) 承合事項
 - ① 「宮崎県大学図書館協議会と宮崎県公共
図書館連絡協議会における図書館資料の

現物貸借要領」にもとづく実績について

- ② 公共図書館との連携について
- ③ 計画停電時の対応について

2. 平成 24 年度宮崎県大学図書館職員等研修会

日 時：平成 24 年 11 月 21 日(水) 13:30～17:00

会 場：宮崎大学附属図書館共同研究室

テーマ：図書館職員のための資料保存と修理

参加者：25 名

講師等：平山 剛氏

西坂 健氏

(兵庫ナカバヤシ株式会社)

第一部：「図書館資料の修理・修復の基礎知
識」

第二部：「図書館資料の修理と補修実習」

鹿児島県大学図書館協議会

1. 第33回鹿児島県大学図書館協議会総会

日時：平成24年5月28日(月) 15:00～17:00

場所：霧島市立国分公民館 3階中会議室

出席者：加盟館 10 大学 1 高専 22 名

議事：

- (1) 平成23年度会務報告
- (2) 平成23年度決算報告及び監査報告
- (3) 平成24年度事業計画
- (4) 平成24年度予算審議
- (5) 協議題審議

鹿児島県大学図書館共同開催イベントについて

学習教育活動に対する図書館サービスと教員との連携について

鹿児島県大学図書館協議会会則の第4条(事業)の7.について

東日本大震災を受けての図書館の取り組みについて

博物館(M)・図書館(L)・文書館(A)連携について

2. 平成24年度第1回鹿児島県大学図書館協議会研修会

日時：平成24年11月1日(木) 13:30～14:30

場所：鹿児島県立短期大学本館2階 大会議室

内容：「利用しやすく、利用を促進する図書館の取組みを考える」

加盟館各館が行っている事例を踏まえた意見交換会

参加者：19名

3. 平成24年度第1回鹿児島県大学図書館協議会講演会

日時：平成24年11月1日(木) 14:45～16:30

場所：鹿児島県立短期大学本館2階大会議室

内容：テーマ：リニューアル、レイアウト、展示による図書館の魅力化

講師：岩下雅子氏(鹿児島県立短期大学)

演題：「リニューアルによる図書館の魅力化

—鹿児島県立短期大学附属図書館を中心に—

参加者：20名

沖縄県大学図書館協議会

1. 平成24年度(第40回)総会

日時：平成24年9月26日(水) 14:30～15:10

会場：沖縄大学 本館 101

出席者：33名

会場：平成23年度事業報告

平成23年度決算報告

平成23年度監査報告

平成24年度事業計画(案)

平成24年度予算(案)

沖縄科学技術大学院大学の加盟について

沖縄県大学図書館間相互貸借に関する

申合せの改定について

平成25年度の当番館及び平成24年度の監査館の選出

2. 講演会・研修会

(1) 平成24年度第1回沖縄県大学図書館協議会講演会

日時：平成24年9月26日(水) 15:25～16:35

会場：沖縄大学 本館 101

テーマ：「沖縄大学の環境教育と図書館サービス」

講師：桜井 国俊氏(沖縄大学図書館長)

出席者：36名

平成24年度 第42回九州地区国立大学図書館協会総会

日 時：平成24年4月19日（木）13:30～17:00

場 所：鹿児島東急イン 2階「アルテミス」

出席者：11大学31名

協議事項

- (1) JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）の安定的・持続的な活動について
- (2) 図書目録システム講習会の九州地区1本化について
- (3) 図書館による電子サービスの現状と今後について
- (4) 国立大学図書館職員の採用試験について
- (5) 九州地区国立大学図書館協会の代表館・副代表館選出について
 - ①代表館・副代表館選出について
 - ②その他
- (6) 国立大学図書館協会監事の選出について
- (7) 国立大学図書館協会の運営等について
 - ①第59回総会のワークショップで取り扱うテーマについて

②その他

(8) 九州地区大学図書館協会等の運営について

①平成24年度九州地区大学図書館協会の役員館の選出について

②平成25年度九州地区国立大学図書館協会総会の当番館について

③その他

(9) その他

承合事項

- ①図書館内における学生チューター、学生ボランティアの導入事例について
- ②貸出図書の延滞者への督促方法、また延滞図書の回収不能判断等について
- ③図書館内PCプリンターの設置・運用状況について

平成24年度九州地区国立大学附属図書館館長懇談会

日 時：平成24年11月26日（月）13:30～15:00

会 場：九州大学附属図書館会議室（新館4階）

出席者：11大学11名

懇談会

・テ ー マ

1. 図書館が直面している課題について
2. その他

平成24年度九州地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議

日 時：平成24年11月26日（月）13:30～15:00

会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール（新館4階）

出席者：11大学20名

議 事

・報 告

1. 国立大学図書館協会理事会報告
2. 平成24年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議報告

3. 九州地区国立大学図書館協会「情報共有サイト」の廃止について

4. その他

・協議題

1. 平成25年度九州地区国立大学法人等職員採用合同図書系二次専門試験について
2. 平成25年度以降の九州地区NII地域講習会のあり方について

3. SCOAP 3 について

プのあり方について

4. マネジメント・セミナー、ワークショップ

5. その他

平成24年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務（部・課長）長会議

日時：平成24年11月26日（月）15:30～17:00

・協議題

会場：九州大学附属図書館視聴覚ホール（新館
4階）

1. 九州地区国立大学図書館協会総会当番校及
び九州地区大学図書館協議会役員館の選出
について

出席者：11大学31名

2. 国立大学図書館協会地区助成事業について

議 事

3. 平成25年度以降の「Library Lovers'」
キャンペーンの継続について

・報 告

4. 図書館活動における学生サポーターの活用
について

1. 館長懇談会報告

5. その他

2. 事務（部・課）長会議報告

3. 国立大学図書館協会理事会報告

4. その他

平成24年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議

第1日目

2. 協議事項

日時：平成24年10月25日（木）13:30～17:00

(1) 「平成25年度以降の九州地区N I I 地域講
習会のあり方について」

場 所：鹿児島大学附属図書館5階ライブラ
リーホール

承合事項

出席者：11大学13名

(1) 電子ジャーナル・データベースの利用促進
のための方策について

1. 講 演

「国立情報学研究所の学術コンテンツ事
業：教育研修事業を中心に」

第2日目

（講師：国立情報学研究所 鈴木 秀樹
学術コンテンツ課長）

日時：平成24年10月26日（金）9:30～11:30

場 所：鹿児島大学附属図書館
尚古集成館（施設見学）

私立大学図書館協会 西地区部会 2012（平成24）年度 九州地区協議会

日時：2012（平成24）年4月19日（木）

(2) 九州地区大学図書館協議会関係

14:30～17:00

(3) 西地区部会関係

会場：鹿児島東急イン 2階オリオン

(4) 私立大学図書館協会関係

出席者：46館79名

II. 協議事項

I. 報告事項

(1) 九州地区協議会関係

(1) 九州地区協議会関係

①西地区研究会本会からの研究発表者の推

薦依頼について

②九州地区協議会研究会について

2012年9月7日(金)に崇城大学で開催
予定

(2)九州地区大学図書館協議会関係

①平成24年度九州地区大学図書館協議会の
役員校について

- ・表彰委員館 東海大学
- ・編集委員館 沖縄国際大学

III. 確認事項

- (1)九州地区協議会HP及びMLの運用について
- (2)外国新聞分担保存について
- (3)九州地区協議会役員校等ローテーション表(2012年度版)及び同表解説
- (4)九州地区協議会年度別幹事校
- (5)本会関係行事・会議等スケジュール

IV. その他

- (1)2012年度当番校・幹事校・役員校等の紹介

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会
2012(平成24)年度 第1回定例幹事会

1. 日時:2012(平成24)年6月1日(金)

14:00~16:00

2. 会場:崇城大学 図書館 4階会議室

3. 当番館:崇城大学

4. 参加者:7館13名

5. 内容:

I. 協議事項

- (1)2012年度九州地区研究会の企画(案)について

- (2)平成24年度九州地区協議会研究会予算(案)について

II. 確認事項

- (1)九州地区協議会年度別幹事校について

III. 報告事項

- (1)2012年度加盟申込校について
- (2)2012年度脱退届出校について
- (3)館名変更(2012年4月1日付)

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会
2012(平成24)年度 九州地区研究会

1. 日時:2012(平成24)年9月7日(金)

10:00~16:00

2. 会場:崇城大学図書館 6階会議室

3. 幹事校:崇城大学

4. テーマ:よりよい大学図書館を目指して

~A library is a growing organism~

5. 参加者:32館50名

6. 内容:

事例発表「手づくりラーニング・コモンズへの
取り組みについて」

福岡歯科大学情報図書館課長

福富 正彦

研究発表「文学等における菌のハナシ」

福岡歯科大学情報図書館課主任

白水哲雄

事例発表「よりよい図書館にするための対応マ

ニュアルー多様化してきた利用者への
サービスについてー」

西九州大学附属図書館 中原 昭子

事例発表「平成23~24年度 崇城大学図書館の

取り組みー発刊物活性化の試みと所
蔵資料を用いた学内外との連携活動ー」

崇城大学図書館図書課主事

中西真美子

講演「プラザ図書館 この一年」
くまもと森都心プラザ図書館館長

田中 榮博
※会場:くまもと森都心プラザ図書館

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会
2012（平成24）年度 研究会準備委員会

- | | |
|---|-----------------------|
| 1. 日時：2012（平成24）年11月16日（金）
13:45～15:15 | 5. 内容： |
| 2. 会場：中村学園大学 中央本館1階会議室 | I. 協議事項 |
| 3. 当番館：中村学園大学 | (1) 2012年度九州地区研究会について |
| 4. 参加者：6館10名 | (2) 2013年度九州地区研究会について |

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会
2012（平成24）年度 第2回定例幹事会

- | | |
|--|--|
| 1. 日時：2012（平成24）年12月7日（金）
14:00～15:30 | (3) 2013年度九州地区協議会総会実施計画
(案)について |
| 2. 会場：近畿大学産業理工学部 図書館内・地域資料室 | (4) 西地区部会2013年度研究会研究発表者の
推薦について |
| 3. 当番館：近畿大学産業理工学部 | (5) 2013年度九州地区大学図書館協議会の私
立大学部会の表彰委員館・編集委員館の
選出について |
| 4. 参加者：7館11名 | II. 確認事項 |
| 5. 内容 | (1) 本会関係の次年度以降の役員校・当番校
について |
| I. 協議事項 | |
| (1) 2012年度九州地区協議会総会の報告について | |
| (2) 2012年度九州地区協議会・研究会の会計報告について | |

事務局報告

平成24年度九州地区大学図書館協議会 幹事館・副幹事館会議

平成24年12月11日（火）に書面回議により開催の結果、「第63回九州地区大学図書館協議会総会議事要録（案）」について、字句等の間違いが2ヶ所あったので、修正ののち承認されました。

議 題

1. 平成25年度九州地区大学図書館協議会総会について

次期当番館 福岡教育大学附属図書館から「平成25年度九州地区大学図書館協議会等実施計画（案）」の提出がありました。（資料1）
日程等内容をご確認ください。

2. 第63回九州地区大学図書館協議会総会議事要録（案）について

今年度当番館 鹿児島大学附属図書館から第63回九州地区大学図書館協議会総会議事要録（案）の提出がありました。（資料2）
内容をご確認ください。

熊本学園大学付属図書館より、字句等の訂正の意見があり修正のうえ承認された。

3. 九州地区大学図書館協議会における協議事項の提案について

純真学園図書館から九州地区大学図書館協議会へ入会申込書の提出がありました。（資料3）

九州地区大学図書館協議会会則第2条により入会には総会の議決を経る必要があります。

なお、純真学園図書館は、大学と短期大学から構成されておりますので、資料3にはそれぞれの「図書館の概要」も併せて添付しております。

内容をご確認ください。

4. その他

① 九州地区大学図書館協議会総会における講演、協議事項等について

ご意見等がございましたらお知らせください。

なお、協議事項等は別途当番大学から照会予定です。

② 副議長について

総会における副議長は、平成11年度からの副幹事館制度の発足により、副幹事館の図書館長により次の順番で執り行われておりますので、平成25年度につきましても、副幹事館のうちのいずれかの図書館長にお願いいたします。

<参考>

平成11年度（公立大学部会副幹事館長）
福岡女子大学

平成12年度（私立大学部会副幹事館長）
鹿児島国際大学

平成13年度（私立短大部会副幹事館長）
沖縄キリスト教短期大学

平成14年度（国立大学部会副幹事館長）
福岡教育大学

平成15年度（公立大学部会副幹事館長）
宮崎公立大学

平成16年度（私立大学部会副幹事館長）
筑紫学園大学・短期大学

平成17年度（私立大学部会副幹事館長）
九州東海大学

平成18年度（国立大学部会副幹事館長）
長崎大学

平成19年度（国立大学部会副幹事館長）
熊本大学

平成20年度（公立大学部会副幹事館長）
宮崎県立看護大学

平成21年度（私立大学部会副幹事館長）
九州産業大学

平成22年度（国立大学部会副幹事館長）
大分大学

平成23年度（私立大学部会副幹事館長）
熊本学園大学

平成24年度（公立大学部会副幹事館長）
長崎県立大学

③ 副幹事館、表彰委員館、編集委員館の交代について

平成25年度は副幹事館を選出いただく年です。各部会で当番館の検討をお願いします。

また、表彰委員館、編集委員館の任期は1年間（再任は妨げない。）ですので、各部会で当番館の検討を併せてお願いします。

④ 平成26年度の総会は中部地区の当番で国立大学部会の当番館は大分大学に内諾を得ていますので、各部会でも当番館をお決めになるときは考慮していただくようお願いします。

第63回九州地区大学図書館協議会総会記録

日 程 表

1. 期 日 平成24年4月20日(金)
2. 会 場 鹿児島東急イン 2階「ペガサス」
〒890-0053 鹿児島市中央町5番地1
電 話 099-256-0109 F A X 099-253-3692
<http://www.kagoshima-i.tokyuhotels.co.jp>
3. 日 程 9:30 受付開始
10:00 1. 開 会
2. 当番館長挨拶
3. 幹事館長挨拶
4. 会議日程・配布資料の説明
5. 議長、副議長の選出
6. 議長、副議長の挨拶
7. 新任館長等紹介
8. 表彰式
9. 新規加入館の承認
10. 幹事館報告
11. 平成23年度決算及び監査報告
12. 平成24年度予算(案)
11:30 13. 国立、公立、私立、私立短大各部会報告
12:00 昼 食
13:00 14. 講 演
講師：小野寺 浩
演題：「鹿児島を自然を考える」
14:45 15. 協議事項
16. 承合事項
17. 次期役員館の選出
18. 次期当番館の挨拶
19. 議長、副議長の解任
16:00 20. 閉 会

出席者名簿（○は新任者）

【国立大学】

九州工業大学附属図書館

附属図書館長 鶴田隆治
 図書館・情報推進課長 ○酒見史博

大分大学学術情報拠点（図書館）

学術情報拠点長 ○佐藤誠治
 学術情報課長 ○河野泰久

福岡教育大学附属図書館

附属図書館長 ○大坪靖直
 学術情報課長 ○林田宏三

宮崎大学附属図書館

附属図書館長 ○岩本俊孝
 情報図書部長 上村茂樹
 図書課長 ○黒木俊弘

九州大学附属図書館

附属図書館長 川本芳昭
 事務部長 ○益森治巳
 図書館企画課長 ○渡邊俊彦
 利用支援課長 古賀幸成
 図書館企画課長補佐 ○印藤憲一

鹿児島大学附属図書館

附属図書館長 ○野呂忠秀
 学術情報部長 ○飯田昇平
 情報管理課長 松田孝三
 情報サービス課長 ○能勢明雄

佐賀大学附属図書館

附属図書館長 稲岡司
 学術研究協力部長 川上敏彦
 情報図書館課長 野村正人

鹿屋体育大学図書館

附属図書館長 西菌秀嗣
 学術図書情報課長 森規昭

長崎大学附属図書館

附属図書館長 姫野順一
 学術情報部長 ○菅原親雄
 学術情報サービス課長 ○小川稔

琉球大学附属図書館

附属図書館長 高良倉吉
 事務部長 ○狩俣昇男
 情報管理課長 ○石丸克巳

熊本大学附属図書館

附属図書館長 森正人
 図書館ユニット長 城川由美

出席館 11館 31名

欠席館 なし

【公立大学】

北九州市立大学図書館

図書館係長 鈴木吉美

学術情報担当主任 柳澤裕幸

九州歯科大学附属図書館

学生支援班長 内山和明

福岡女子大学附属図書館

附属図書館長 森邦昭
 職員 ○梅崎真由美

北九州学術研究都市 学術情報センター

学術情報担当課長 平野富士男

福岡県立大学附属図書館

附属図書館長 ○佐藤香代

学務部長	○平 井 孝	宮崎県立看護大学附属図書館	
		主査	尾 曲 美智男
長崎県立大学附属図書館		鹿児島県立短期大学附属図書館	
附属図書館長	大 塚 一 徳	附属図書館長	岡 村 俊 彦
佐世保校附属図書館長	阿 部 律 子	専門員	岩 下 雅 子
佐世保校附属図書館図書課長(兼務)	○柴 田 昌 造		
シーボルト校図書グループリーダー	坊 野 隆 義		
熊本県立大学学術情報メディアセンター		沖縄県立看護大学附属図書館	
事務長	田 中 彰	附属図書館長	大 湾 明 美
		主査	幸 地 哲
		図書業務嘱託員	我那覇 祥 子
大分県立芸術文化短期大学附属図書館		沖縄県立芸術大学附属図書館	
附属図書館長	根之木 英 二	附属図書館長	ルバース・吟子
企画情報課長	伊 達 和 男	主任	○小 川 浩 幸
大分県立看護科学大学附属図書館		嘱託員	平 良 元 輝
職員	白 川 裕 子		
宮崎公立大学附属図書館		名桜大学附属図書館	
企画総務課長	○永 井 淳 生	附属図書館長	○住 江 淳 司
主任主事	赤 澤 央 臣	図書課長	○比 嘉 辰 己

出席館 15館 29名
欠席館 なし

【私立大学】

西日本工業大学図書館		九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館	
図書館長	○池 森 寛	図書館長	○屋 代 彰 子
図書課長	黒 岩 壽	業務課長	松 尾 伸 二
西南女学院大学図書館		福岡工業大学附属図書館	
課長	渡 橋 英 子	館長	赤 木 文 男
		事務長	江 口 典 明
九州国際大学図書館		福岡女学院大学図書館	
事務職員	下 川 博 之	図書館課長	鶴 典 子
九州共立大学附属図書館		九州産業大学図書館	
図書館長	森 川 壽 人	事務部長	川 上 祐 二
課員	下 田 知 二	事務室長	宮 丸 由美子

福岡大学図書館		図書課長	○中 島 哲 男
図書館長	○則 松 彰 文		
事務部長	○浦 昌 平	活水女子大学図書館	
学術情報課長	奥 菌 邦 広	図書館長	徳 永 幸 子
		図書課長	森 茂 樹
中村学園大学図書館			
図書課長	○辻 原 陽 一	長崎総合科学大学附属図書館	
図書係長	今 藤 覚	図書課長	吉 田 政 則
西南学院大学図書館			
部長	○岩 佐 俊 司	長崎純心大学早坂記念図書館	
課長	古 庄 敬 文	図書館事務室長	岩 崎 由希子
第一薬科大学図書館		長崎ウエスレヤン大学附属図書館	
館長	原 口 浩 一	司書	植 松 久 子
司書	野 中 麻 有	長崎国際大学図書館	
		図書課長	飯 島 芳 典
九州情報大学附属図書館			
附属図書館長	南 俊 朗	崇城大学図書館	
		課長	原 みゆき
筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館			
図書館課 課長	福 田 千代子	九州ルーテル学院大学図書館	
		図書館課長	水 谷 江美子
福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館			
主査	大 橋 祐 子	熊本学園大学附属図書館	
		館長	○掘 正 広
久留米工業大学図書館		部長	宮 原 由美子
室長	萩 尾 文 子	課長	津 村 秀 夫
		課長補佐	上 野 照 美
聖マリア学院大学図書館			
図書館長	井 手 信	東海大学附属図書館熊本・阿蘇図書館	
司書	山 口 真由美	課長補佐	板 東 弘
		特任職員	小佐井 裕 子
久留米大学附属図書館			
館長	石 川 捷 治	熊本保健科学大学附属図書館	
課長	熊 谷 まゆみ	図書館長	岡 部 由紀子
課長補佐	二 又 紅美子		
西九州大学附属図書館		九州看護福祉大学附属図書館	
図書館長	酒 井 出	図書館長	佐 藤 林 正

日本文理大学図書館

係長 小平 正 典

立命館アジア太平洋大学ライブラリー

副センター長 吉 松 秀 孝

職員 大 勢 美 穂

別府大学附属図書館

館長 ○佐 藤 瑠 威

事務長 吉 岡 義 信

九州保健福祉大学附属図書館

事務室主任 内 田 ゆかり

宮崎産業経営大学附属図書館

課員 山 口 清 美

南九州大学・南九州短期大学図書館

図書館長 中 根 忠 洋

学務部長 中 村 稔

主任 岩 重 麻 未

課員 図 師 明 子

鹿児島国際大学附属図書館

図書館課長 仮 屋 淳 子

図書館係長 丸 目 裕 美

鹿児島純心女子大学附属図書館

図書館長 ○坂 井 恵 子

事務職員 釜 堀 千 恵

志学館大学図書館

図書館長 河 原 晶 子

図書館係長 木 佐 木 和 代

沖縄国際大学図書館

課長 垣 花 聡

沖縄キリスト教学院大学図書館

課長 多 根 宏 治

出席館 41館 68名

欠席館 4館

【私立短期大学】

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館

図書課長 小 林 由 憲

九州大谷短期大学図書館

助教・司書 梅 野 智 美

中九州短期大学附属図書館

司書 段 原 佳 子

東九州短期大学図書館

司書 釘 丸 知 子

鹿児島純心女子短期大学図書館

館長 三 浦 嘉 久

図書課長 西 眞 知 子

事務職員 山之内 理 恵

鹿児島女子短期大学附属図書館

館長 古 川 恵 子

課長 南 谷 久

出席館 6館 9名

欠席館 1館

【オブザーバー】

国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部

図書館長 藤 城 直 二

図書館顧問 江 崎 尚 武

沖縄科学技術大学院大学

ライブラリーリーダーアシスタントマネージャー 上 原 藤 子

出席館 2館 3名

第 6 3 回九州地区大学図書館協議総会議事要録

1. 開 会
当番館の鹿児島大学学術情報部松田課長より、開会宣言があった。
2. 当番館長挨拶
当番館である鹿児島大学附属図書館野呂館長より、挨拶があった。
3. 幹事館長挨拶
幹事館である九州大学附属図書館川本館長より、挨拶があった。
4. 会議日程・配布資料の説明
松田課長より、日程及び配布資料について説明があった。
5. 議長選出、挨拶
「九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則」第 2 項に基づき、当番館の館長である鹿児島大学附属図書館の野呂館長が選出され、続いて挨拶があった。
6. 副議長選出、挨拶
議長より、副幹事館である長崎県立大学附属図書館の大塚館長が副議長として指名され、続いて挨拶があった。
7. 新任館長等紹介
今年度は新任者が多数のため、資料 1 の出席者名簿に基づき、確認された。また、オプザーバー館として、沖縄科学技術大学院大学図書館及び国際医療福祉大学九州地区キャンパス図書館が出席しているとの説明があった。
8. 表彰式
「九州地区大学図書館協議会表彰規程」に基づき、13 名が表彰された。被表彰者を代表して、鹿児島大学の堀敏郎氏、東九州短期大学の釘丸知子氏へ、表彰状が授与された。

(1) 勤務期間 20 年以上の者で退職または転職した者（表彰規程第 2 条第 2 項）

（所属機関、氏名の 50 音順）

	表彰の区分	所 属 大 学 名	氏 名
1	第 2 条第 2 号	九州大学附属図書館	<small>なか の ゆ き お</small> 中 野 由紀夫
2	〃	〃	<small>ふじ わら あい こ</small> 藤 原 愛 子
3	〃	〃	<small>ほりのくち ひろ のり</small> 堀之口 廣 教
4	〃	〃	<small>やす なが しんいちろう</small> 安 永 振一郎

(2) 勤務期間 20 年に達した者（表彰規程第 2 条第 1 項）

（所属機関、氏名の 50 音順）

	表彰の区分	所 属 大 学 名	氏 名
1	第 2 条第 1 号	鹿児島女子短期大学附属図書館	<small>はま だ</small> 濱 田 みゆき
2	〃	鹿児島大学附属図書館	<small>た なか</small> 田 中 こずえ

3	第2条第1号	鹿児島大学附属図書館	ほり 敏 郎 堀 敏 郎
4	〃	九州大学附属図書館	た なか ゆ き こ 田 中 由紀子
5	〃	〃	ほり ゆう こ 堀 優 子
6	〃	〃	やま ぐち りょう こ 山 口 良 子
7	〃	佐賀大学附属図書館	ふく しま まさ のり 福 島 正 徳
8	〃	西南学院大学図書館	まき よう いち 槇 養 一
9	〃	東九州短期大学図書館	くぎ まる とも こ 釘 丸 知 子

9. 新規加入館の承認

「九州地区大学図書館協議会入会に関する細則」に基づき、紹介を依頼された琉球大学及び久留米大学から入会申込館の概要等の説明がなされ、入会資格基準に満たしていることから新規加入館として承認された。その後、沖縄科学技術大学院大学図書館及び国際医療福祉大学九州地区キャンパス図書館より、挨拶があった。

10. 幹事館報告

幹事館の九州大学附属図書館より以下の5点について、報告があった。

- (1) 加盟館数について新規加盟館はなかったので、平成24年4月1日現在の加盟館は国立11館、公立15館、私立45館、私立短大7館の合計78館である。
- (2) 平成24年2月に「協議会誌第54号」を刊行し、加盟館へ発送済みである。九州国際大学図書館長の巻頭言に加え、九州国際大学、佐賀大学、福岡県立大学から3点の論文が寄せられ充実した協議会誌になった。編集の方々にも感謝する。
- (3) 協議会の昨年度の後援事業として、福岡アメリカン・センター及び九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻主催で平成23年5月27日に開催された九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻開講記念講演「大統領図書館の歴史と役割」(参加者約70名)、九州大

学附属図書館及び株式会社サンメディア主催で平成23年6月28日に開催された学術情報セミナー2011 in 福岡「学術情報サービスの今とその先に見えるもの」(参加者100名以上)、長崎国際大学主催で平成24年2月24日に開催された「海外メディアの最新情報」(参加者66名)、九州大学附属図書館主催で平成24年3月9日に開催された「変わりゆく大学図書館ー描くべき新しい将来像ー」(参加者90名以上)の4件を後援した。

- (4) フレッシュ・パーソンセミナーの開催について、国立大学図書館協会の九州地区と中国四国地区が合同で図書館の新規採用者を対象に隔年で開催されている。昨年度は国公立大学35名が参加し、充実した研修となった。
- (5) 「Library Lovers' キャンペーン」について、平成22年度に引き続き実施し、国公立大学27館及び鹿児島県大学図書館協議会が参加した。また、キャンペーンの目的である本や知識・感動との出会いの場である図書館をアピールすることができた。

11. 平成23年度決算及び監査報告

幹事館より、資料4の決算案に基づき報告があり、広告掲載料20社中7社が未収となっており24年度の収入となることが説明された。続いて監査館である福岡工業大学附属図書館より、監査の結果、通帳・出納簿とも適

切な会計処理が行われているとの報告があり、審議の結果、承認された。

協議事項

協議題 1「九州地区大学図書館協議会研修会補助費の改訂及びそれに伴う「研修会の補助に関する申し合わせ」の一部改正について」

議長より、平成 24 年度予算（案）に関係するため、先に協議事項 1 について審議を行うとの説明があった。

続いて、九州大学の渡邊課長より、九州地区大学図書館協議会の年度収支について、数年赤字が続いているため、財務基盤を維持しながら収支の均衡を保つために支出の削減を図りたいと考えており、平成 24 年度から研修会補助費の補助限度額を 2 万円とし、併せて、研修会の補助に関する申し合わせを改正し、財務状況の改善を図りたいとの説明があり、審議の結果、承認された。

12. 平成 24 年度予算（案）

幹事館より、資料 5 の予算案に基づき報告があり、審議の結果、承認された。

13. 国立、公立、私立、私立短期大学部会報告

(1) 国立大学部会報告

鹿児島大学附属図書館の野呂館長より、九州地区国立大学図書館協会総会の報告があった。

協議事項

1) JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）の安定的・持続的な活動について

大学図書館コンソーシアム連合の会費及び要項案について、理事館を通じ検討し、回答案を作成することとなった。

2) 図書目録システム講習会の九州地区 1 本化について

輪番制（長崎大学、熊本大学、鹿児島大学）で開催していたが、人員削減等で年々開催負担が厳しくなっているため、1 本化に向けて

秋の事務（部・課）長会議で結論を出すこととなった。

3) 図書館による電子サービスの現状と今後について

各大学から、電子サービスの現状と今後の導入予定について照会があった。

4) 国立大学図書館職員の採用試験について

今年度は 7 月 1 日に実施され、専門試験委員会委員、実施方法及び経費負担等が承認された。

5) 九州地区国立大学図書館協会の代表館・副代表館選出について

代表館には九州大学が、副代表館には宮崎大学が選出された。

6) 国立大学図書館協会監事の選出について

監事館に福岡教育大学が選出された。

7) 国立大学図書館協会の運営等について

第 59 回総会のワークショップで取り扱うテーマについて、各大学から提案のあったテーマについて説明があり、九州大学で取りまとめることとなった。

8) 九州地区大学図書館協議会等の運営について

平成 24 年度九州地区大学図書館協議会の役員館について、副幹事館には宮崎大学、表彰委員館には大分大学、編集委員館には琉球大学が選出された。

平成 25 年度九州地区大学図書館協議会総会の当番館には、福岡教育大学が選出された。

承合事項

① 図書館内における学生チューター、学生ボランティアの導入事例について、② 貸出図書の延滞者への督促方法、また延滞図書の回収不能判断等について、③ 図書館内 PC プリンターの設置・運用状況について、各大学からの回答を参考にすることとなった。

(2) 公立大学部会報告

沖縄県立看護大学附属図書館の大湾館長より、九州地区大学図書館協議会公立大学部会の報告があった。

協議事項

- 1) 学生の自主的学習を支援する取り組み（環境整備、人的支援）について

ラーニング・コモンズの設置に向け、学生の自主的学習を支援する取り組みの現状と課題について協議した。

承合事項

- 1) 貸出パソコンの利用について

貸出パソコン台数の多い館から、ノート型パソコンのメリット、常設パソコンとの違い等の照会を行った。

- 2) 図書・雑誌の貸出冊数制限・期間について

各館の一覧表で比較し、雑誌の貸出ルールの確認を行った。

- 3) 学内の図書サークルの活動内容及び図書館と連携した事業の実施状況について

学生選書ツアーは多くの館で定着しつつあり、選書された本の採用の仕方についての体験の照会、また、図書館サークルについては、学生のために学生と共に学生目線の活動が始まっている館の照会を行った。

- 4) 災害時の安全確保対策について

4月にリニューアルした館の壁面書架の落下防止措置の照会を行った。

次期当番館の選出

次期当番館は、北九州市立大学に決定した。

- (3) 私立大学部会報告

南九州大学・南九州短期大学図書館の中根館長より、私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会の報告があった。

報告事項

九州地区協議会関係、九州地区大学図書館協議会関係、西地区部会関係、私立大学図書館協会関係について、了承いただいたとの報告があった。

協議事項

- 1) 九州地区協議会関係

理事校の熊本学園大学より、西地区研究会本会からの研究発表者の推薦について説明があった。また、2012年9月7日に開催され

る九州地区研究会について、当番校の崇城大学から説明があった。

- 2) 九州地区大学図書館協議会関係

2012年度九州地区大学図書館協議会の役員館について、表彰委員館には東海大学、編集委員館は沖縄国際大学を選出し、承認された。

確認事項

- 1) 九州地区協議会のホームページ及びメーリングリストの運用について

- 2) 西南学院大学から外国新聞分担保存について

- 3) 九州地区協議会役員校のローテーションについて

- 4) 九州地区協議会年度別幹事校

- 5) 行事、会議のスケジュール等について

その他

- 1) 私立大学図書館協議会の九州地区協議会の在り方について提案があり、幹事会で検討していくこととなった。

- 2) 来年度の当番館である近畿大学産業理工学部図書館より挨拶があった。

- (4) 私立短期大学部会報告

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の小林図書課長より、九州地区私立短期大学図書館協議会総会等の報告があった。

- 1) 総会では、平成23年度事業報告、決算報告及び監査報告、平成24年度の事業計画及び予算について審議され、承認された。

- 2) 研修会では、鹿児島純心女子短期大学三浦嘉久副学長・図書館長による「鹿児島にきたクラーク博士の弟子—岩崎行親—」と題する講演があった。

承合事項では、①蔵書点検の実施の有無・実施時期について、②不明図書の追跡調査の有無・除染を定期的実施しているかについて、③読書感想文コンクールの実施の有無について、④学生からのリクエストに対する図書の購入決定について、数多くの質問があり、各大学から回答がよせられた。

フリーディスカッションでは、図書館職員が他の組織に配置転換されているとの事例報告があり、職員の身分の位置づけについて質問があった。また、研究紀要の電子化について質問があった。

3)連絡・報告事項について、全国理事会（短大部会）でも赤字についての報告があり、加盟館の減少により今後関東の部会で全て役員館を担当するとの報告があった。また、九州地区の財政内容について、毎年繰越金が減少しているため、夏の研修会を開催する際に参加費を徴収する方向で検討していくこととなり、短期大学図書館協議会が発行している研究誌に新たな会社を募って掲載していくとの報告があった。

(昼食)

14. 講演

「鹿児島の自然を考える」東京大学特任教授（元鹿児島大学学長補佐）小野寺浩氏
鹿児島大学松田課長より、講師の紹介があり、小野寺氏による講演が行われた。

その後、鹿児島大学附属図書館の野呂館長、九州情報大学附属図書館の南館長と小野寺氏の間で質疑応答があった。

(休憩)

15. 協議事項

協議題 2「本協議会の新規事業について：Library Lovers' キャンペーンの実施」
（副議長の長崎県立大学附属図書館の大塚館長が進行を務める）

九州大学の古賀課長より Library Lovers' キャンペーンを実施するに至った経緯について説明があり、平成 22 年度・平成 23 年度について実施報告があった。続いて、来年度以降の取組について提案後、本協議会の平成 24 年度事業として位置づけ、今後も継続・発

展させていただきたいとの説明があった。

熊本学園大学附属図書館の津村課長より、Library Lovers' キャンペーンについての実施報告があり、大学図書館だけでなく、公共図書館や学校図書館も一斉に実施できれば市民や学生にとってもいいのではないかと、また、今後も合同イベントを中心に実施していただきたいとの要望があった。九州大学の古賀課長より、今後の参考にしたいとの謝辞があり、公共図書館等についても積極的に働きかけていきたいとの説明があった。

鹿児島大学の能勢課長から、鹿児島県大学図書館協議会として Library Lovers' キャンペーンに参加し、取組として鹿児島県大学図書館協議会独自のポスターを作成し、各館への配付やホームページに掲載し、PR に努めたとの報告があった。結果として、各図書館の活性化、若手のスキルアップ、各県の図書館間の人的ネットワークにもつながったので、本事業として実施していただければ活性化につながるのではないかと説明があった。

副議長より承認について諮られ、審議の結果、承認された。

九州大学の古賀課長より、今後のスケジュールについて説明があり、協議会の事業としては 1 年目となるため、来年の本総会において今年度の実施報告を行い、結果を踏まえた上で、平成 25 年度以降の継続実施について協議させていただきたいとの要望があった。

16. 承合事項

九州情報大学附属図書館の南館長より、多数の回答に対し感謝の意が表され、学生の図書館利用促進のために、図書館職員以外の人達と連携することが重要であり、特に教員と協力し、授業中に図書館を利用するよう進めてほしい等の趣旨説明があった。

この件について、持ち帰り今後の参考としていただくこととなった。

17. 次期役員館の選出

副議長より、幹事館と副幹事館は昨年度の総会で選出されており、任期は平成 23 年度から平成 24 年度までの 2 年間であるため、平成 24 年度も幹事館は九州大学、副幹事館は宮崎大学、長崎県立大学、熊本学園大学、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学であるとの確認を行った。

幹事館の九州大学の渡邊課長より、監査館は幹事館に近い福岡市内の大学にお願いしているため、筑紫女学園大学にお願いして内諾を得ているとの説明があり、承認された。

幹事館の九州大学渡邊課長より、昨日の各部会での検討の結果、表彰委員館は大分大学、沖縄県立看護大学、東海大学、九州大谷短期大学が推薦され、編集委員会は琉球大学、福岡女子大学、沖縄国際大学、鹿児島女子短期

大学が推薦され承認された。

幹事館の九州大学渡邊課長より、次期当番館の選出について福岡地区から選出することとなっており、福岡教育大学へ打診し内諾を得ているとの説明があり、承認された。

18. 次期当番館の挨拶

次期当番館の福岡教育大学附属図書館の大坪館長より挨拶があった。

19. 議長、副議長の解任

予定していた議事が全て終了したため、議長・副議長が解任された。

20. 閉 会

当番館の鹿児島大学松田課長より、閉会宣言があった。

平成23年度決算

一般会計

(単位：円)

科 目	収 入 の 部			支 出 の 部			
	予 算	決 算	備 考	科 目	予 算	決 算	備 考
会 費	468,000	468,000	6,000×78館	総会運営費	300,000	300,000	当番館：佐賀大学
協議会誌代	124,800	124,800	53号:156部	協議会誌発行費	250,000	210,000	54号(2011) 200部
広告掲載料	250,000	200,000	13社	事務費	30,000	34,780	会誌送料、通信費、会議費等
広告掲載料	80,000	80,000	6社	積立金会計へ繰入	342,800	328,020	総会関係研修事業補助
小 計	922,800	872,800		小 計	922,800	872,800	

積立金会計

(単位：円)

科 目	収 入 の 部			支 出 の 部			
	予 算	決 算	備 考	科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	165,272	165,272		表彰経費	96,000	95,760	18名(1号該当6名、2号該当12名)
預金利息	100	55	8月27円、2月28円	研修会経費	50,000	50,000	総会講演謝金等
一般会計から繰入	342,800	328,020		研修会補助費	270,000	240,000	各県協議会(8地区) 研修経費補助
小 計	508,172	493,347		次年度繰越金	92,172	107,587	
				小 計	508,172	493,347	

平成24年3月27日

監査館 福岡工業大学附属図書館

課長補佐 江口典明

監査済

平成24年度予算(案)

一般会計

(単位:円)

科目	収入の部		支出の部	
	予算	備考	予算	備考
会費	468,000	@6,000×78館	300,000	当番館:鹿児島大学
協議会誌代	124,800	54号(2011)@800円×156部	250,000	55号(2012)200部
広告掲載料	250,000	16社	30,000	会誌送料、通信費、会議費等
広告掲載料	110,000	7社 23年度分	372,800	総会関係研修事業補助
小計	952,800		952,800	

積立金会計

(単位:円)

科目	収入の部		支出の部	
	予算	備考	予算	備考
前年度繰越金	107,587		69,000	13名(1号該当9名、2号該当4名)
預金利息	100		50,000	総会講演謝金等
一般会計から繰入	372,800		180,000	各県協議会研修経費補助(9地区×20,000円)
小計	480,487		480,487	

九州地区大学図書館協議会会則

昭和25年11月27日施行
昭和32年9月12日改正
昭和41年6月2日改正
昭和51年4月23日改正
昭和55年5月9日改正
平成9年4月25日改正
平成10年4月24日改正
平成20年4月18日改正

(名 称)

第 1 条 本会は九州地区大学図書館協議会と称する。

(会 員)

第 2 条 本会は別に定める資格を有する九州地区の大学図書館等（以下「大学図書館」という。）をもって組織する。

会員は大学等の機関をもって一会員とする。

本会に入会するには、所定の入会申込書を提出し、総会の議決を経るものとする。

(目 的)

第 3 条 本会は会員の緊密な連絡と協力によって、大学図書館の施設、管理及び運営等の健全な進歩発達をはかり、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は前条の目的を達するためにつぎの事業を行う。

1. 図書館の研究・調査に関する事項
2. 研究会・講習会等の開催に関する事項
3. 日本図書館協会等の連絡提携に関する事項
4. 学術図書文献の調査及び総合目録の調整に関する事項
5. 学術図書文献の収集、保存及び活用に関する事項
6. その他必要とする事項

(役 員)

第 5 条 本会に幹事館、副幹事館及び監査館を置く。

幹事館は会務を総括し、本会を代表する。

副幹事館は、幹事館とともに会務を処理する。

監査館は、会計を監査する。

第 6 条 幹事館は、総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

副幹事館は、国立大学、公立大学、私立大学及び私立短期大学の各部会からそれぞれ1館を総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

監査館は、総会で互選し、その任期は1年とする。但し、再選できない。

(事務所)

第 7 条 本会の事務所は幹事館内におく。

(会議)

第 8 条 本会は毎年 1 回総会を開催する。但し必要に応じ会員の 3 分の 1 以上から請求があった場合は、臨時総会を開くことができる。

第 9 条 総会の運営は、輪番に定められた当番館が幹事館と協議してこれに当たる。

第 10 条 総会は次の事項を行う。

1. 事業計画
2. 決算の承認
3. 予算の決定
4. 幹事館、副幹事館及び監査館の選任及び当番館の決定
5. その他必要なる事項の決定

第 11 条 総会の票決権は 1 大学等の機関につき 1 票とし、議決は多数決による。可否同数の時は幹事館の決するところによる。

(会計)

第 12 条 本会の経費は会費その他をもってあてる。

第 13 条 会費は年額 6,000 円とし、毎会計年度始めに幹事館に納入するものとする。

第 14 条 本会の予算は毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受け次の総会において承認を得なければならぬ。

第 15 条 本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

(会則変更)

第 16 条 本会則の変更は総会にはからなければならない。その決定には出席会員の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則

昭和32年 9 月12日 決定
昭和37年10月 2 日 改正
昭和48年 5 月11日 改正
昭和53年 5 月12日 改正
平成11年 4 月23日 改正

1. 本協議会総会の運営は簡素を尊重し、輪番に当番を引受け易くするためにこの細則を定める。
2. 総会の議長は当番館の館長とする。
3. 議長は副議長を指名することができる。
4. 当番館は幹事館及び副幹事館と協議の上、2ヶ月前に会員宛日程・場所等を通知し、出席者の職氏名及び協議事項・承合事項の提出を求める招請状を送ること。
但し、緊急を要する臨時総会等の場合はこの限りでない。

5. 当番館は協議事項をまとめ、議題として提案理由、又は簡単な説明を付して、出席者に配付し、調査研究の余地を充分与えるように努めること。
6. 当番館は総会の議事録を作成し、会員に配付するものとする。
7. 幹事館及び副幹事館は当番館と協力して、総会で決議された要求事項を貫徹するよう努力する。
8. 総会と同時に研修会を開催し、研究発表者は九州地区内の大学図書館職員とし3年位に1回の割合で、文部省・国会図書館或は他地区の大学より最適任者を招聘する。
9. 会員以外の出席を許すことがある。但し票決権はない。
10. 当番館は加盟館の所属県を次の三地区に分け、地区ごとに等しく持ち廻る。

福岡地区	福岡県
中部地区	長崎県、佐賀県、熊本県、大分県
南部地区	鹿児島県、宮崎県、沖縄県
11. 総会の経費は主として会費及び出席者から徴収する金員より支出し、総会の議決を経た予算案によって実行するものとする。
12. 研修会の講師招聘に要する旅費、謝礼等の費用は、毎年会費の内から積立てて支弁する。

九州地区大学図書館協議会入会に関する細則

昭和32年9月1日施行
平成9年4月25日改正
平成20年4月18日改正

1. 本協議会へ入会を希望する大学図書館（以下「入会申込館」という。）は、最寄りの本協議会 会員の紹介書（別記様式1）により、入会申込書（別記様式2）を、総会の3ヶ月前までに幹事館に提出する。
2. 紹介を依頼された会員は、総会において入会申込館の概略を説明する。
3. 入会資格の基準は下記のとおりとする。
 - (1) 大学、短期大学又はこれに準じる教育研究機関の図書館施設であること。
 - (2) 本協議会の目的及び事業に賛同し、熱意が十分認められること。
4. 入会申込館は、総会当日は、入会承認まではオブザーバーとして出席することができる。

別記様式 1

九州地区大学図書館協議会入会紹介書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大学名

図書館名

図書館長名

公印

下記の図書館は、本協議会の目的及び事業に賛同され、また熱意が十分認められますので、本協議会への入会を紹介します。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 図 書 館 名：
4. 図 書 館 長 名：
5. 所 在 地：

別記様式2

九州地区大学図書館協議会入会申込書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大学名

図書館名

図書館長名

公印

貴協議会の趣旨に賛同し、平成 年度からの入会を申し込みます。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 大 学 設 置 年：
4. 学 生 数：
5. 図 書 館 名：
6. 所 在 地：
(電話、FAX 番号)
7. 図 書 館 長 名：
8. 図 書 館 の 概 要：(別紙)
9. 紹 介 館 名：

別紙

図 書 館 の 概 要

図 書 館 名			
事務責任者職・氏名	(電話番号)		
図 書 館 職 員 数	人 (内、司書数 人)		
図 書 館 延 床 面 積	m ²	閲覧座席数	席
蔵 書 冊 数	冊 (内 和書 冊、洋書 冊)		
年間受入図書冊数	冊	年間受入雑誌種数	種
年 間 開 館 日 数	日	通常開館時間	時 分～ 時 分
土 曜 開 館	1 実施 2 未実施		
日 曜 祝 日 開 館	1 実施 2 一部実施 3 未実施		
奉 仕 対 象 学 生 数	人	奉仕対象教職員数	人
年 間 貸 出 冊 数	冊		
図 書 館 相 互 協 力	図書貸借	1 実施 2 未実施	
	文献複写	1 実施 2 未実施	
学外者へのサービス	1 実施 2 未実施		
コンピュータの導入	1 導入済 2 未導入		
コンピュータの適用業務	1 貸出 2 図書受入 3 図書整理 4 雑誌管理 5 OPAC		
ネットワーク環境	1 学内 LAN 接続済 2 インターネット接続済		
国立情報学研究所との接続	1 接続 (1 NACSIS-CAT/ILL 2 NACSIS-IR 3 その他) 2 未接続		

九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規

平成2年4月20日施行

平成5年4月23日改正

平成11年4月23日改正

1. (1) 本協議会誌は、総会記事のほか各部会報告、ニュース等を掲載し、九州地区大学図書館間の情報誌としての機能を果たすこととする。
(2) 本協議会誌編集のために編集委員会を設ける。
2. (1) 編集委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された編集委員館で構成する。
(2) 幹事館及び総会当番館は、業務上の必要から編集委員館として参加することとし、上記2-(1)の編集委員館を兼ねることができる。
(3) 各部会の編集委員館は、幹事館の近隣地区から選出されることが望ましい。
(4) 編集委員館の任期は1年とし再任を妨げない。
3. (1) 編集委員館は、それぞれの所属する各部会の記事の提出を担当する。
(2) 総会当番館は、総会記事を担当する。
(3) 幹事館は、編集に関する事務を担当する。
4. 本協議会誌発行のため、印刷代、送料、編集会議費、原稿執筆等謝礼は、毎年会費の内から支弁する。
5. 本協議会誌に掲載された論文・記事は、九州地区大学図書館協議会ホームページに掲載することとする。

九州地区大学図書館協議会表彰規程

(目 的)

第1条 この規程は、九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に加盟の大学図書館職員を表彰するため、必要な事項を定めることを目的とする。

(表彰を受ける者)

第2条 表彰は、次の各号の1に該当し、かつ勤務成績が良好である者について行う。

- (1) 勤務期間20年に達した者
- (2) 勤務期間20年以上の者で退職または転職した者
- (3) 図書館学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者

(表彰状の授与)

第3条 表彰は、協議会が別紙様式による表彰状を授与することによって行う。

2 第2条に該当する者については、前項の表彰状にあわせて記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の選考)

第4条 表彰をうける者は、所属図書館長の推薦（別紙様式による）に基づき、表彰委員会が選考し、協議会の総会の承認を経て決定する。

(表彰委員会)

第5条 表彰委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された表彰委員館各1館で構成し、任期は1年として再任を妨げない。

(表彰の日)

第6条 表彰は、協議会の総会において行う。

(勤務期間の計算)

第7条 第2条第1号および第2号の勤務期間は、国公立大学図書館およびその他の図書館等に在職した期間とし、10年以上を加盟の大学図書館等に勤務したものでなければならない。

2 次の各号に掲げる期間は、勤務期間から除算する。

(1) 休職の期間（公傷病の期間は除く）

(2) 懲戒処分により停職された期間

(雑 則)

第8条 この規程に定めるもののほか、表彰の実施に関する必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月25日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月18日から施行する。

文書番号

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会幹事館

〇〇大学附属図書館長 殿

〇〇大学（附属）図書館長

〇 〇 〇 〇

平成 年度表彰者の推薦について

下記の者を本年度の総会における被表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。
なお、別紙のとおり表彰者調書を提出します。

表彰者調書

〇〇大学（附属）図書館

職名		ふりがな 氏名		生年月日	年 月 日
表彰の区分	第2条第1号 第2条第2号 第2条第3号				
勤務成績					
第7条第2項第2号該当の有無 有 ・ 無					
履 歴 事 項					
年 月 日	勤 務 内 容 等	勤 務 期 間			
		加盟館での勤務期間	その他の図書館等 での勤務期間		
～		年 月 日	年 月 日		
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
計					
		合 計 年 月 日			

- 注 (1) 勤務期間の計算は暦日数によるものとし日を月に換算するときは30日をもって1月とすること。
- (2) 第7条第2項各号の除算期間は朱書すること。
- (3) 第2条第3号に該当する場合は、「勤務成績」欄は「業績」と書きかえて記入し、参考となる資料等を添付すること。

表彰状様式（1）第2条第1号および第2号該当者

表 彰 状

殿

あなたは 年のながい間大学図書館関係の業務に精励されその功労はまことに大きいものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

表彰状様式（2）第2条第3号該当者

表 彰 状

殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

研修会の補助に関する申合せ

平成6年9月20日決定
平成7年9月1日改正
平成8年4月24日改正
平成9年4月25日改正
平成10年4月25日改正
平成15年4月25日改正
平成24年4月20日改正
九州地区大学図書館協議会

地区の大学図書館活動を発展させるため、研修会、講演会等（以下「研修会」という。）の経費を補助する申合せ事項を次のとおり定める。

1. 研修会経費を補助する対象は、九州地区大学図書館協議会に加盟している大学図書館が主体となって構成する県又は地区単位の組織とし、別紙のとおりとする。
2. 補助する経費の金額は、年間1組織に対して2万円を限度とする。
3. 研修会に要する経費の補助を受けようとするときは、別記様式による申請書を幹事館に提出するものとする。
4. 経費の補助を受けた組織は、本協議会誌に活動報告を掲載するものとする。
5. 経費の支出は、積立金会計を適用する。
6. 新たな組織から経費の補助の申し出があったときは、総会において承認を得るものとする。
7. これに関する事務は、幹事館で行う。

別 紙

経費を補助する県又は地区単位の組織

1. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（北部地区）
2. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（福岡地区）
3. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（南部地区）
4. 長崎県大学図書館協議会
5. 熊本県大学図書館協議会
6. 大分県大学図書館協議会
7. 宮崎県大学図書館協議会
8. 鹿児島県大学図書館協議会
9. 沖縄県大学図書館協議会

別記様式

平成 年度九州地区大学図書館協議会・研修会経費補助申請書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

幹事館 殿

組織名
代表者
(所属大学)

九州地区大学図書館協議会の研修会経費の補助を受けたく、下記のとおり申請します。

記

研 修 会 名 及 び 内 容	
開 催 期 間	自 平成 年 月 日 () 時 分 至 平成 年 月 日 () 時 分
開 催 場 所	
参 加 機 関 数	
参 加 人 数	
必 要 経 費 (具体的に)	ア. 講 師 謝 金 _____ イ. 資 料 代 金 _____ ウ. 会 場 借 上 費 _____ エ. そ の 他 _____ 合 計 _____
連 絡 担 当 者	氏名 職 電話

* 研修内容は、大学図書館活動を促進させるテーマであること。

副幹事館の役割

平成10年 8 月31日
幹事館・副幹事館会議

- 1 通常時
 1. 年度の事業・活動についての立案・協議
 2. 所属部会との連絡調整と情報の提供
 3. 入会の勧誘等、協議会の広報（特に所属部会の各大学に対して）
 4. ホームページ充実のための提言案、意見具申
- 2 会誌発行時
各部会から編集委員館は選出されているため、特に役割はないと思うが
・所属部会の情報（研究発表等、原稿情報）の提供等
- 3 総会時
 1. 副議長職に館長を選出等、当番館及び幹事館と協力しての総会運営
 2. 前日決定された各部会における役員館の事務局への連絡
 3. 総会終了後、当番館作成の議事録の確認
- 4 その他
別段ある場合は、適宜副幹事館から提案

九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について

平成10年 8 月31日
平成20年 1 月30日改正
幹事館・副幹事館会議

1. 九州地区大学図書館協議会ホームページ（以下、「ホームページ」という。）は、九州大学附属図書館のサーバに置く。
(URL <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>)
2. ホームページの管理、維持（デザイン・構成を含む）は、九州地区大学図書館協議会事務局（以下、「事務局」という。）が行う。
3. ホームページに掲載する事項は当面以下のものを中心に構成するものとし、それぞれ以下の館が作成する。
 - ・トピックス&NEWS
加盟館、各設置部会毎協議会、各県毎協議会等からの原稿に基づき事務局が作成
総会議事録は総会当番館が原稿を作成

- ・加盟館一覧 事務局が作成
 - ・役員館一覧 事務局が作成
 - ・当番館一覧 事務局が作成
 - ・九州地区大学図書館協議会誌
事務局が作成（論文等執筆者に対しては原稿依頼時にホームページ掲載方の承諾を得るものとする。）
 - ・地区内の図書館活動
各設置部会毎の図書館協議会等及び各県毎協議会が作成
 - ・各種関連資料集 事務局が作成
 - ・関連サイトへのリンク集 事務局が作成
 - ・地区内各館の相互利用案内 各加盟館からの原稿に基づき事務局が作成
 - ・フォーラムページ
協議会が設定するテーマに対する加盟館からの自由な意見・回答のページで、投稿は直接電子メールによる
4. 「3.」のほか、ホームページに文書・記事等の掲載を希望する副幹事館及び加盟館は、HTML形式等で原稿を作成し、事務局に送付するものとする。
事務局は内容を確認のうえ、ホームページに掲載する。

九州地区大学図書館協議会加盟館一覧

25.1.1 現在

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
国 立	九州工業大学 附属図書館 (館長 鶴田隆治, 図書館・情報推進課長 酒見史博)	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1の1	093-884-3072 (093-884-3075)
	福岡教育大学 学術情報センター図書館 (センター長 大坪靖直, 学術情報課長 林田宏三)	811-4192	宗像市赤間文教町1番5号	0940-35-1257 (0940-35-1705)
	九州大学 附属図書館 (館長 川本芳昭, 事務部長 益森治巳)	812-8581	福岡市東区箱崎6丁目10の1	092-642-2325 (092-642-2330)
	佐賀大学 附属図書館 (館長 稲岡 司, 学術研究協力部長 川上敏彦)	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8902 (0952-28-8909)
	長崎大学 附属図書館 (館長 姫野順一, 学術情報部長 菅原親雄)	852-8521	長崎市文教町1の14	095-819-2193 (095-819-2196)
	熊本大学 附属図書館 (館長 森 正人, 教育研究推進部長 島田正俊)	860-8555	熊本市中央区黒髪2丁目40の1	096-342-2213 (096-342-2210)
	大分大学 学術情報拠点 (拠点長 佐藤誠治, 研究・社会連携部長 石川幸秀)	870-1192	大分市大字旦野原700	097-554-7482 (097-554-7488)
	宮崎大学 附属図書館 (館長 岩本俊孝, 情報図書部長 上村茂樹)	889-2192	宮崎市学園木花台西1丁目1	0985-58-7759 (0985-58-2896)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 野呂忠秀, 学術情報部長 飯田昇平)	890-0065	鹿児島市郡元1丁目21の35	099-285-7415 (099-285-7413)
	鹿屋体育大学 附属図書館 (館長 西菌秀嗣, 学術図書情報課長 森 規昭)	891-2393	鹿屋市白水町1	0994-46-4874 (0994-46-4157)
	琉球大学 附属図書館 (館長 伊澤雅子, 事務部長 大城清隆)	903-0214	中頭郡西原町字千原1	098-895-8153 (098-895-8154)
	公 立	北九州市立大学 図書館 (館長 八百啓介, 学術情報課長 江上照明)	802-8577	北九州市小倉南区北方4丁目2の1
九州歯科大学 附属図書館 (館長 柿木保明, 学務部長 川原利三)		803-8580	北九州市小倉北区真鶴2丁目6の1	093-582-1131 (093-583-7388)
北九州学術研究都市 学術情報センター (学術情報担当部長 都築信男, 学術情報担当課長 平野富士男)		808-0135	北九州市若松区ひびきの1番3号	093-695-3150 (093-695-3152)
福岡女子大学 学術情報センター(図書館) (館長 森 邦昭, 経営管理部長 今田 今朝仁)		813-8529	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1の1	092-661-2411 (092-661-2416)
福岡県立大学 附属図書館 (館長 佐藤香代, 学務部長 平井 孝)		825-8585	田川市伊田4395	0947-42-1760 (0947-42-9457)
長崎県立大学 附属図書館 (館長 大塚一徳, 佐世保校館長 阿部律子, 佐世保校図書館課長 柴田昌造, シーボルト校図書館課長 濱口 孝)		858-8580	佐世保市川下町123	0956-47-5958 (0956-26-2100)
熊本県立大学 学術情報メディアセンター (センター長 津曲 隆, 事務長 田中 彰)		862-8502	熊本市月出3丁目1番100号	096-321-6614 (096-383-2999)
大分県立芸術文化短期大学 附属図書館 (館長 根之木英二, 図書管理グループ 伊達和男)		870-0833	大分市上野丘東1の11	097-545-4235 (097-545-4235)
大分県立看護科学大学 附属図書館 (館長 市瀬孝道, 総務グループリーダー 朝倉泰三)		870-1201	大分市大字廻栖野2944-9	097-586-4330 (097-586-4373)
宮崎公立大学 附属図書館 (館長 田中宏明, 事務長 永井淳生)		880-8520	宮崎市船塚1丁目1番地2	0985-20-4814 (0985-20-4806)
宮崎県立看護大学 附属図書館 (館長 布施裕二, 総務課長 岡村義隆)		880-0929	宮崎市まなび野3-5-1	0985-59-7756 (0985-59-7773)
鹿児島県立短期大学 附属図書館 (館長 岡村俊彦, 副館長 畠野秀之)		890-0005	鹿児島市下伊敷1丁目52番1号	099-220-1111 (099-220-1115)

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
公立	沖縄県立看護大学 附属図書館 (館長 大湾明美, 主査 幸地 哲)	902-0076	那覇市与儀1-24-1	098-833-8806 (098-833-5134)
	沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館 (館長 ルバース・吟子, 主任 小川浩幸)	903-8602	那覇市首里当蔵町1-4	098-882-5038 (098-882-5068)
	名桜大学 附属図書館 (館長 住江淳司, 図書課長 比嘉辰己)	905-8585	沖縄県名護市字為又1220-1	0980-51-1062 (0980-51-1065)
私立	西日本工業大学 図書館 (館長 池森 寛, 課長 黒岩 壽)	800-0394	福岡県京都郡荏田町新津1-11	0930-23-7729 (0930-24-7900)
	西南女学院大学 図書館 (館長 谷川弘治, 課長 渡橋英子)	803-0835	北九州市小倉北区井堀1丁目3の5	093-583-5959 (093-592-1885)
	九州国際大学 図書館 (館長 島浦一博, 事務室長 松尾史雄)	805-8512	北九州市八幡東区平野1丁目6の1	093-671-8919 (093-671-8920)
	九州共立大学 附属図書館 (館長 森川壽人, 業務課長 小中倫子)	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3036 (093-603-2260)
	九州女子大学・短期大学 附属図書館 (館長 屋代彰子, 業務課長 松尾伸二)	807-8586	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	093-693-3124 (093-603-0494)
	福岡工業大学 附属図書館 (館長 赤木文男, 事務長 江口典明)	811-0295	福岡市東区和白東3-30-1	092-606-0691 (092-606-7389)
	福岡女学院大学 図書館 (館長 二階堂 整, 課長 鶴 典子)	811-1313	福岡市南区曰佐3丁目42の1	092-575-6402 (092-575-4605)
	九州産業大学 図書館 (館長 横山秀司, 事務部長 川上祐二)	813-8503	福岡市東区松香台2丁目3の1	092-673-5382 (092-673-5999)
	福岡大学 図書館 (館長 則松彰文, 事務部長 浦 昌平)	814-0180	福岡市城南区七隈8丁目19の1	092-871-6631 (092-865-3794)
	中村学園大学 図書館 (館長 青峰正裕, 図書課長 辻原陽一)	814-0198	福岡市城南区別府5丁目7の1	092-851-2573 (092-841-7762)
	西南学院大学 図書館 (館長 尾上修悟, 事務部長 岩佐俊司)	814-8511	福岡市早良区西新6丁目2の92	092-823-3426 (092-823-3480)
	第一薬科大学 図書館 (館長 原口浩一, 事務職員 原 直好)	815-8511	福岡市南区玉川町22の1	092-541-0161 (092-542-9776)
	九州情報大学 附属図書館 (館長 南 俊朗, 図書司書 藤 理恵子)	818-0117	太宰府市宰府6丁目3番1号	092-928-4000 (092-928-3200)
	筑紫女学園大学・短期大学部 附属図書館 (館長 大津忠彦, 課長 福田 千代子)	818-0192	太宰府市石坂2丁目12の1	092-925-9910 (092-925-3318)
	福岡国際大学・福岡女子短期大学 図書館 (館長 宇賀田克子, 主査 大橋祐子)	818-0193	太宰府市五条4丁目16-1	092-922-3604 (092-922-3596)
	久留米工業大学 図書館 (館長 立花 均, 事務室長 萩尾文子)	830-0052	久留米市上津町2228-66	0942-22-2345 (0942-22-2385)
	聖マリア学院大学 図書館 (館長 鷺尾昌一, 司書 山口真由美)	830-8558	久留米市津福本町422番地	0942-37-1138 (0942-37-1138)
	久留米大学 附属図書館 (館長 石川捷治, 課長 熊谷まゆみ)	839-8502	久留米市御井町1635	0942-44-4015 (0942-43-0348)
	保健医療経営大学 情報メディアセンター図書館 (センター長 川島秀樹, 図書係 古澤亜紀)	835-0018	みやま市瀬高町高柳960-5	0944-67-7007 (0944-63-3003)
	国際医療福祉大学 九州地区キャンパス図書館 (館長 藤城直二, 馬場智也)	831-8501	大川市榎津137-1	0944-89-2143 (0944-86-6000)
西九州大学 附属図書館 (館長 酒井 出, 課長 中島哲男)	842-8585	神崎市神崎町尾崎4490-9	0952-37-9299 (0952-53-7869)	
活水女子大学 図書館 (館長 徳永幸子, 課長 森 茂樹)	850-8515	長崎市東山手町1の50	095-822-4107 (095-823-3701)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
私	長崎総合科学大学 附属図書館 (館長 横山正人, 図書課長 吉田政則)	851-0193	長崎市網場町536	095-838-5140 (095-838-2072)
	長崎外国語大学 教育研究メディアセンター (センター長 川島浩勝, センター事務室長 福田隆明)	851-2196	長崎市横尾3-15-1	095-840-2005 (095-840-2205)
	長崎純心大学 早坂記念図書館 (館長 岩下康夫, 事務室長 岩崎由希子)	852-8558	長崎市三ツ山町235	095-846-0084 (095-845-4279)
	長崎ウエスレヤン大学 附属図書館 (館長 亙 明志, 司書 植松久子)	854-0082	諫早市西栄田町1212-1	0957-26-8203 (0957-26-0244)
	長崎国際大学 図書館 (館長 正山征洋, 図書課長 飯島芳典)	859-3298	佐世保市ハウステンボス町2825-7	0956-20-5560 (0956-39-4894)
	崇城大学 図書館 (館長 井芹浩文, 課長 原 みゆき)	860-0082	熊本市西区池田4丁目22の1	096-326-3419 (096-359-3002)
	九州ルーテル学院大学 図書館 (館長 百武玉恵, 図書館課長 水谷江美子)	860-8520	熊本市黒髪3丁目12-16	096-343-2494 (096-343-0354)
	熊本学園大学 付属図書館 (館長 掘 正広, 事務部長 宮原由美子)	862-8680	熊本市中央区大江2丁目5の1	096-364-5161 (096-362-5967)
	東海大学 付属図書館 熊本・阿蘇図書館 (館長 西崎信男(熊本), 梶田聖孝(阿蘇))	862-8652	熊本市東区渡鹿9-1-1	096-386-2634(熊本) 0967-67-3907(阿蘇)
	熊本保健科学大学 附属図書館 (館長 岡部由紀子, 司書 山崎栄子)	861-5591	熊本市北区和泉町325	096-275-2264 (096-275-2265)
	九州看護福祉大学 附属図書館 (館長 佐藤林正, 主任 福本直子)	865-0062	玉名市富尾888	0968-75-1840 (0968-75-1873)
	日本文理大学 図書館 (館長 石田孝一, 課長補佐 小平正典)	870-0397	大分市大字一木1727	097-524-2711 (097-593-5166)
	立命館アジア太平洋大学 ライブラリー (センター長 ROSE John A. アカデミックオフィス課長 大嶋名生)	874-8577	別府市十文字原1-1	0977-78-1140 (0977-78-1141)
	別府大学 附属図書館 (館長 佐藤瑠威, 事務長 吉岡義信)	874-8501	別府市大字北石垣82	0977-66-9633 (0977-66-9632)
	九州保健福祉大学 附属図書館 (館長 園田 徹, 主任 内田ゆかり)	882-8508	延岡市吉野町1714-1	0982-23-5562 (0982-23-5560)
	宮崎産業経営大学 附属図書館 (館長 田代裕子, 課長 宮下猛美)	880-0931	宮崎市古城町丸尾100	0985-52-3205 (0985-50-4699)
	南九州大学・南九州短期大学 図書館 (館長 中根忠洋, 学務部長 中村 稔)	880-0032	宮崎市霧島5-1-2	0985-83-3430 (0985-83-3431)
	立 宮崎学園 図書館 宮崎国際大学・宮崎学園短期大学 (館長 米良栄州, 図書課長 小橋智子)	889-1605	宮崎市清武町加納丙1415	0985-85-1410 (0985-85-8189)
	鹿児島国際大学 附属図書館 (館長 種村エイ子, 図書館次長 相良長宣)	891-0197	鹿児島市坂之上8-34-1	099-263-0732 (099-261-1198)
	鹿児島純心女子大学 附属図書館 (館長 坂井恵子, 図書課長 森山 学)	895-0011	薩摩川内市天辰町2365	0996-23-5311 (0996-23-5030)
志学館大学 図書館 (館長 河原晶子, 課長 田上 豊)	890-8504	鹿児島市紫原一丁目59-1	099-812-8509 (099-257-0308)	
沖縄国際大学 図書館 (館長 原田優也, 課長 垣花 聡)	901-2701	宜野湾市宜野湾2丁目6番1号	098-892-1111 (098-893-3274)	
沖縄大学 図書館 (館長 桜井国俊, 事務長 垣花留美子)	902-8521	那覇市字国場555	098-832-5577 (098-834-1127)	
沖縄キリスト教学院 図書館 (館長 内間清晴, 課長 多根宏治)	903-0207	沖縄県中頭郡西原町字翁長777	098-946-1236 (098-946-1237)	
沖縄科学技術大学院大学 図書館 (館長 ロバート・バックマン, 司書 上原藤子)	904-0495	沖縄県国頭郡恩納村字茶谷1919-1	098-966-8436 (098-966-8817)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
私立 短大	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 図書館 (館長 山田千秋, 図書課長 小林由憲)	803-8511	北九州市小倉北区下到津5の1の1	093-561-3541 (093-592-6184)
	九州大谷短期大学 図書館 (館長 坂川和彦, 司書 梅野智美, 光永良美)	833-0054	筑後市蔵敷495-1	0942-53-9893 (0942-53-9893)
	中九州短期大学 附属図書館 (館長 百原敏弥, 事務職 段原佳子)	866-8502	八代市平山新町4438	0965-34-7651 (0965-43-7117)
	東九州短期大学 図書館 (館長 有吉英樹, 司書 釘丸知子)	871-0014	中津市大字一ツ松211	0979-22-2425 (0979-25-3935)
	鹿児島女子短期大学 附属図書館 (館長 古川恵子, 課長 南谷 久)	890-8565	鹿児島市高麗町6-9	099-254-9195 (099-254-5914)
	鹿児島純心女子短期大学 図書館 (館長 三浦嘉久, 課長 西 眞知子)	890-8525	鹿児島市唐湊4丁目22の1	099-253-2677 (099-254-5247)

九州地区大学図書館協議会役員館一覧

年次 (回数)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和48年度 (24)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	福岡教育大学 長崎国際経済大学 福岡大学	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	
昭和49年度 (25)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	九州工業大学 長崎国際経済大学 西南大学	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 福岡大学	
昭和50年度 (26)	九州大学	西南大学	国 公 私	佐賀大学 北九州大学 久留米大学	長崎大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和51年度 (27)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 九州歯科大学 久留米大学	大分大学 長崎国際経済大学 西南大学	
昭和52年度 (28)	九州大学	福岡大学	国 公 私	福岡教育大学 福岡女子大学 西南大学	鹿児島大学 熊本女子大学 九州産業大学	
昭和53年度 (29)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	九州芸術工科大学 長崎国際経済大学 久留米大学	
昭和54年度 (30)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 北九州大学 九州産業大学	佐賀大学 九州歯科大学 久留米大学	
昭和55年度 (31)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎大学 福岡社会保育短大 西南大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和56年度 (32)	九州大学	西南大学	国 公 私	福岡教育大学 熊本女子大学 九州産業大学	熊本大学 鹿児島県立短大 福岡大学	
昭和57年度 (33)	九州大学	福岡大学	国 公 私	長崎大学 北九州大学 八幡大学	鹿児島大学 福岡女子大学 熊本商科大学	
昭和58年度 (34)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	琉球大学 福岡社会保育短大 鹿児島経済大学	宮崎医科大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
昭和59年度 (35)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 中村学園大学	大分医科大学 長崎県立女子短大 西日本工業大学	
昭和60年度 (36)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	宮崎大学 熊本女子大学 鹿児島経済大	九州工業大学 大分県立芸術短大 西日本工業大学	
昭和61年度 (37)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	熊本大学 北九州大学 長崎総合科学大学	大分大学 福岡社会保育短大 第一薬科大学	
昭和62年度 (38)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	宮崎医科大学 福岡女子大学 九州東海大学	大分医科大学 九州歯科大学 沖縄国際大学	

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和63年度 (39)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 福岡大学	琉球大学 鹿児島県立短期大学 八幡大学	
平成元年度 (40)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 長崎県立女子短期大学 西南大学	佐賀大学 熊本女子大学 中村学園大学	
平成2年度 (41)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	福岡教育大学 北九州大学 九州産業大学	長崎大学 大分県立芸術文化短期大学 熊本商科大学	九州大学 大分医科大学 福岡女子大学 福岡大学 福岡女子短期大学
平成3年度 (42)	九州大学	福岡大学	国 公 私	九州工業大学 福岡県社会保育短期大学 久留米大学	鹿児島大学 長崎県立大学 西日本工業大学	九州大学 鹿屋体育大学 九州歯科大学 中村学園大学 筑紫女学園短期大学
平成4年度 (43)	九州大学	福岡女子短期大学	国 公 私	宮崎大学 福岡女子大学 鹿児島経済大学	大分大学 九州歯科大学 活水女子大学	九州大学 福岡教育大学 北九州大学 九州国際大学 東筑紫短期大学
平成5年度 (44)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎医科大学 熊本女子大学 活水女子大学	大分医科大学 鹿児島県立短期大学 鹿児島経済大学	九州大学 熊本大学 福岡女子大学 西南学院大学 筑紫女学園短期大学
平成6年度 (45)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	熊本大学 大分県立芸術文化短期大学 活水女子大学	佐賀医科大学 宮崎公立大学 鹿児島経済大学	九州大学 宮崎大学 福岡県立大学 九州産業大学 筑紫女学園短期大学
平成7年度 (46)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	鹿屋体育大学 北九州大学 第一薬科大学	琉球大学 長崎県立大学 南九州大学	九州大学 九州工業大学 九州歯科大学 久留米大学 筑紫女学園短期大学
平成8年度 (47)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州東海大学	佐賀大学 九州歯科大学 熊本学園大学	九州大学 大分大学 北九州大学 九州共立大学 西南女学院短期大学
平成9年度 (48)	九州大学	福岡教育大学	国 公 私	九州工業大学 熊本県立大学 九州女子大学	宮崎大学 鹿児島県立短期大学 久留米工業大学	九州大学 佐賀大学 九州歯科大学 福岡大学 西南女学院短期大学

年次 (回次)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表彰委員館	編集委員館
平成10年度 (49)	九州大学	国 公 私 短	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州国際大学 中九州短期大学	中村学園大学	福岡教育大学 長崎大学 福岡県立大学 長崎県立女子短期大学 西日本工業大学 筑紫女学園大学	九州大学 佐賀医科大学 福岡女子大学 第一薬科大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成11年度 (50)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島経済大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 別府大学 中九州短期大学	九州大学 佐賀大学 長崎大学 福岡県立大学 熊本工業大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成12年度 (51)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島国際大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡女子大学	大分大学 宮崎県立大学 宮崎国際大学 中九州短期大学	九州大学 沖縄国際大学 宮崎医科大学 北九州大学 西南女学院大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成13年度 (52)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡教育大学	宮崎医科大学 北九州市立大学 筑紫女学園大学 沖縄キリスト教短期大学	鹿児島大学 九州歯科大学 西九州大学 活水女子短期大学 九州大学 九州女子大学
平成14年度 (53)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡工業大学	大分医科大学 熊本県立大学 九州情報大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡県立大学 鹿児島純心女子大学 活水女子短期大学 九州大学 大分大学
平成15年度 (54)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	筑紫女学園大学・短期大学	鹿屋体育大学 宮崎県立看護大学 九州ルーテル学院大学 筑紫女学園大学・短期大学	九州工業大学 福岡女子大学 九州看護福祉大学 西南女学院大学・短期大学 九州大学 宮崎大学
平成16年度 (55)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	西南学院大学	熊本大学 福岡女子大学 志學館大学 東九州女子短期大学	福岡教育大学 九州歯科大学 南九州大学・南九州短期大学 西南女学院大学・短期大学
平成17年度 (56)	九州大学	国 公 私 短	長崎大学 熊本県立大学 九州東海大学 鹿児島純心女子短期大学	九州産業大学	琉球大学 沖縄県立看護大学 西南女学院大学 鹿児島純心女子短期大学	熊本大学 北九州市立大学 西日本工業大学 鹿児島純心女子短期大学
平成18年度 (57)	九州大学	国 公 私 短	長崎大学 熊本県立大学 九州東海大学 鹿児島純心女子短期大学	福岡国際大学・ 福岡女子短期大学	佐賀大学 鹿児島県立短期大学 福岡女学院大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	鹿屋体育大学 福岡県立大学 筑紫女学園大学・短期大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

年次 (回次)	幹事館	副幹事館	監査館	表彰委員館	編集委員館
平成19年度 (58)	九州大学	国 公 私 短 熊 本 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 福 岡 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	中村学園大学	九州工業大学 九州歯科大学 久留米工業大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	福岡教育大学 福岡女子大学・短期大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
平成20年度 (59)	九州大学	国 公 私 短 熊 本 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 福 岡 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	福岡教育大学	宮崎大学 大分県立看護科学大学 別府大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	長崎大学 九州歯科大学 鹿児島国際大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
平成21年度 (60)	九州大学	国 公 私 短 大 分 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 産 業 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学	福岡女子大学	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡国際大学・福岡女子短期大学 鹿児島女子短期大学	鹿児島大学 北九州市立大学 西南女学院大学 中九州短期大学
平成22年度 (61)	九州大学	国 公 私 短 大 分 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 産 業 大 学 九 州 大 谷 短 期 大 学	福岡大学	長崎大学 福岡女子大学 鹿児島純心女子大学 鹿児島女子短期大学	九州工業大学 北九州学術研究都市学術情報センター 活水女子大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
平成23年度 (62)	九州大学	国 公 私 短 宮 崎 大 学 長 崎 県 立 大 学 熊 本 学 園 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	福岡工業大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 福岡女学院大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	佐賀大学 福岡県立大学 九州国際大学 九州大谷短期大学
平成24年度 (63)	九州大学	国 公 私 短 宮 崎 大 学 長 崎 県 立 大 学 熊 本 学 園 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	筑紫女学園大学・短期大学	大分大学 沖縄県立看護大学 九州東海大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡女子大学 沖縄国際大学 鹿児島女子短期大学
平成25年度 (64)	九州大学	国 公 私 短			

九州地区大学図書館協議会総会当番館一覧

回次	年度	県別	大 学
1	25	福岡	九州大学
2	26	熊本	熊本大学
3	27	長崎	長崎大学
4	28	佐賀	佐賀大学
5	29	鹿児島	鹿児島大学
6	30	宮崎	宮崎大学
7	31	大分	大分大学
8	32	福岡	西南学院大学
9	33	福岡	九州大学
10	34	熊本	熊本大学
11	35	福岡	九州工業大学
12	36	長崎	長崎大学
13	37	福岡	福岡大学
14	38	佐賀	佐賀大学
15	39	福岡	福岡教育大学
16	40	宮崎	宮崎大学
17	41	福岡	八幡大学
18	42	鹿児島	鹿児島大学
19	43	福岡	九州大学
20	44	熊本	熊本商科大学
21	45	福岡	久留米大学
22	46	大分	大分大学
23	47	福岡	北九州大学
24	48	長崎	長崎大学
25	49	福岡	九州産業大学
26	50	佐賀	佐賀大学
		〃	佐賀龍谷短期大学
27	51	沖縄	琉球大学
28	52	福岡	九州大学
29	53	大分	大分大学
30	54	宮崎	宮崎大学
31	55	福岡	九州歯科大学
		〃	福岡女子大学
		〃	福岡県社会保険短期大学
32	56	熊本	熊本女子大学
33	57	鹿児島	鹿児島大学
		〃	鹿児島県立短期大学
		〃	鹿児島経済大学

回次	年度	県別	大 学
34	58	福岡	西日本工業大学
35	59	長崎	長崎大学
36	60	宮崎	宮崎医科大学
		大分	大分県立芸術短期大学
		宮崎	南九州大学
		長崎	純真女子短期大学
37	61	福岡	九州芸術工科大学
38	62	佐賀	佐賀医科大学
39	63	沖縄	琉球大学
40	平成元	福岡	北九州大学
41	2	大分	大分医科大学
42	3	鹿児島	鹿屋体育大学
43	4	福岡	西南学院大学
44	5	熊本	九州東海大学
45	6	宮崎	宮崎産業経営大学
46	7	福岡	九州工業大学
47	8	長崎	長崎大学
48	9	鹿児島	鹿児島経済大学
49	10	福岡	福岡女子大学
50	11	佐賀	佐賀大学
51	12	沖縄	沖縄国際大学
52	13	福岡	九州女子大学
53	14	大分	大分大学
54	15	宮崎	宮崎大学
55	16	福岡	福岡教育大学
56	17	熊本	熊本大学
57	18	鹿児島	鹿屋体育大学
58	19	福岡	九州大学
59	20	長崎	長崎大学
60	21	沖縄	琉球大学
61	22	福岡	福岡県立大学
		〃	九州歯科大学
		〃	北九州学術研究都市(学術情報センター)
62	23	佐賀	佐賀大学
63	24	鹿児島	鹿児島大学
64	25	福岡	福岡教育大学

ラクーナ[®]

閲覧テーブル



4人用閲覧テーブル+LED照明ユニット

このテーブルは、ユニット式閲覧テーブルです。
フラットな天板からLED照明にスクリーンなど、
用途に応じて機能を容易に変える事が出来ます。

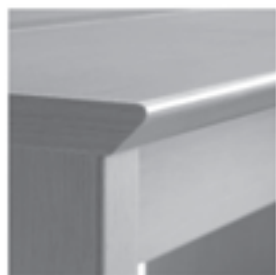


標準ユニット

サイズ (mm)

- | | |
|--------|------------------------|
| 1. 4人用 | W1800 × D 980 × H 700 |
| 2. | W1600 × D 1200 × H 700 |
| 3. | W1800 × D 1200 × H 700 |
| 4. 6人用 | W2100 × D 1200 × H 700 |
| 5. | W2400 × D 1200 × H 700 |

天板ポストフォーム



パネル脚ポストフォーム

材質

本体：ポストフォーム
オレフィンシート合板
メラミン化粧板

価格

閲覧テーブル本体

- | | | |
|--------|---------------------|---------|
| 1. 4人用 | ¥207,900 (¥198,000) | RT-0189 |
| 2. | ¥220,500 (¥210,000) | RT-0162 |
| 3. | ¥223,650 (¥213,000) | RT-0182 |
| 4. 6人用 | ¥267,750 (¥255,000) | RT-0112 |
| 5. | ¥276,150 (¥263,000) | RT-0142 |

スクリーンユニット

- | | | |
|--------|---------------------|---------|
| W1600用 | ¥ 69,300 (¥ 66,000) | RT-0360 |
| W1800用 | ¥ 71,400 (¥ 68,000) | RT-0380 |
| W2100用 | ¥ 89,250 (¥ 85,000) | RT-0310 |
| W2400用 | ¥100,800 (¥ 96,000) | RT-0340 |

LED照明ユニット (スクリーン付)

- | | | |
|--------|---------------------|---------|
| W1600用 | ¥262,500 (¥250,000) | RT-0460 |
| W1800用 | ¥280,350 (¥267,000) | RT-0480 |
| W2100用 | ¥357,000 (¥340,000) | RT-0410 |
| W2400用 | ¥393,750 (¥375,000) | RT-0440 |

九州・山口地区 (L・キスト)

〒814-0162 福岡市早良区星の原団地20-403
TEL: 092-863-0128 FAX: 092-863-0127



株式会社 伊藤伊

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-10
TEL (03)5689-6230(代) FAX (03)5689-6232

伊藤伊 検索

http://www.itin.jp
E-mail info@itin.jp

知的創造性を高め、感性を刺激する空間。
ライブラリーは知の集積から双方向コミュニケーションの場へ。



図書ラウンジ

ユビキタスネットワーク社会における新しいライブラリーの創造に向け、
イトーキは知的好奇心や感性を刺激する先進空間づくりを総合的に提案します。

シンプルで機能的な構成で、進化する図書館
ニーズにフレキシブルに対応するライブラリー家
具。さまざまな空間にマッチする質の高い意匠
性と拡張性で、先進の図書館をサポートします。



閲覧テーブル



書架



サービスカウンター



LANシート

通信の電波をシート内に封じ込め、シート上に置いたPCのみ
ネットワーク通信が可能となる新しいLANシステム。「コネク
トレス」「セキュリティ」「簡単導入」を同時に実現します。

株式会社イトーキ

福岡支店 福岡市博多区店屋町6-17 〒812-0025 Telephone 092 281-4061
お客様相談センター ☎0120-164177 URL <http://www.itoki.jp/>

NALIS

図書館の全業務をカバーする

「図書館総合システム」

規模や運用に応じて、

柔軟かつ拡張性に優れた構成が可能です。

NTT DATA
変える力を、ともに生み出す。

利用者の資料入手を強力にサポート



次世代 OPAC

ファセット検索、書影表示、類似資料表示などにより利用者の検索オペレーションをサポートします。

統合連携による
情報

OPAC から CiNii 検索などの外部サイトへの連携が可能です。また、OpenURL を使ってその他の外部サイトと連携することも可能です。

発見

図書館
業務情報

新着情報や貸出ランキングを公開することが可能です。

利用者
教員が発信する
情報

利用者からのブックレビュー情報、教員お薦めの本情報を活用して利用者の資料発見をサポートします。また、論文・紀要等の学術情報を電子データとして収集・公開する機関リポジトリシステムを構築することも可能です。

お問い合わせ・ご相談は下記までどうぞ

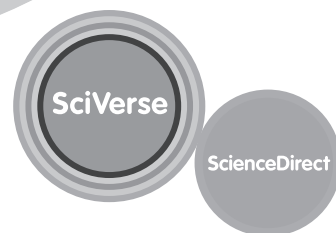
株式会社 NTT データ九州

第一ビジネス事業部 公共ビジネス部 営業担当

Tel : 092-475-5129 Fax:092-475-5152

<http://www.nttdata-kyushu.co.jp/nalis/index.html>

ScienceDirect 電子ブック



ライフサイエンスなど11分野のレファレンスワーク
約120タイトルを収録。
2013年は新たに13タイトルを搭載予定。

2013年搭載予定タイトル例

ジャーナルとの
統合検索

ePUB形式で
ダウンロードできて
iBooksでも楽々

図検索

多彩なリンク



www.sciencedirect.com

レファレンスワークの他にもブックシリーズや単行本等、
多数のタイトルを取り揃えております。

詳しくは弊社ホームページで。

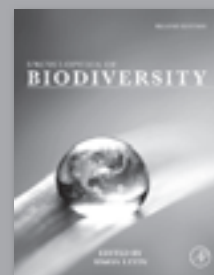
<http://japan.elsevier.com/products/sd/books.html>



Encyclopedia of
Biological Chemistry, 2E
生物化学百科事典 第2版



Encyclopedia of
Human Nutrition, 3E
人間栄養学百科事典 第3版



Encyclopedia of
Biodiversity, 2E
生物多様性百科事典 第2版



エルゼビア・ジャパン株式会社

サイエンス&テクノロジー・ディビジョン
106-0044 東京都港区東麻布1-9-15東麻布一丁目ビル4階
TEL: 03-5561-5034 jinfo@elsevier.com
<http://japan.elsevier.com/>

INSET TAPE

—図書館セキュリティ用品—

図書無断持ち出し防止のための磁気テープ

ハードカバーの本に (片面 12 cm・16 cm)
本体と背表紙の間に隙間のあるハードカバータイプはその隙間に片面タグを貼り付ける



ペーパーバックの本に (両面 12 cm・16 cm)
単行本や文庫本・雑誌に貼り付ける



CD・DVD に



INSET TAPE には
帯出資料用 (消去・再生可) と禁帯出資料用 (消去不可) の
2種類があります。

スピーディーな信号消去・再生・磁気の確認
で、カウンター業務をよりスムーズに

インセットテープ用 磁気の消去・再生・確認器

Book Checker

コンパクトな1台3役

磁気の消去 (貸出時)、再生 (返却時) がスイッチの切り替えだけで簡単にできます。
装着済みインセットテープの磁気の有効・無効の確認、および装着そのものの確認が簡単にできます。



磁気再生器 (260g)

グリッピン

書籍を並べたままで一度に再生

超軽量 260g! 充電式で大量の磁気の再生作業でも手がだるくなったりしません。
重い本を手にとらず本棚やブックトラックに並べた状態で磁気再生作業が一度に行えます。



図書消毒機

BOOK MASTER

強力な紫外線殺菌・天然ハーブ抗菌機能

- ・紫外線の中で、最も殺菌効果の優れた 253.7nm の波長を持つ殺菌ランプを使用した紫外線殺菌、人体に影響がない天然ハーブ抗菌剤による殺菌抗菌の二重効果で、各種細菌、真菌及びウイルスを 99.9% 除去することが可能です。
- ・抗菌効果の検証を受けたニュージーランド産の天然ハーブ抗菌剤を使用しています。

360度回転送風装置で
隅々まで届く!

- ・送風によりページを開き、埃や嫌な臭いを除去。殺菌・抗菌効果が隅々まで届きます。
- ・微細なフィルターで埃を集じんし、二次汚染を防ぎます。

簡単なワンタッチ方式

- ・ボタンを押すだけで作動し、短時間で消毒します。(1分)

安全機能

- ・強力なガラスを素材にしたフロント窓は耐久性に優れ、紫外線を吸収するため安心です。
- ・作動中ドアが開くと自動的に止まり事故を防止します。



EGS-S5 M (5冊用)

OKURA
INFO SERVICE

オークラ情報サービス株式会社

〒135-0021 東京都江東区白河2-2-9 馬場ビル1階
TEL 03-3643-8738 FAX 03-3643-8739 e-mail: okura-info@e-okura.co.jp

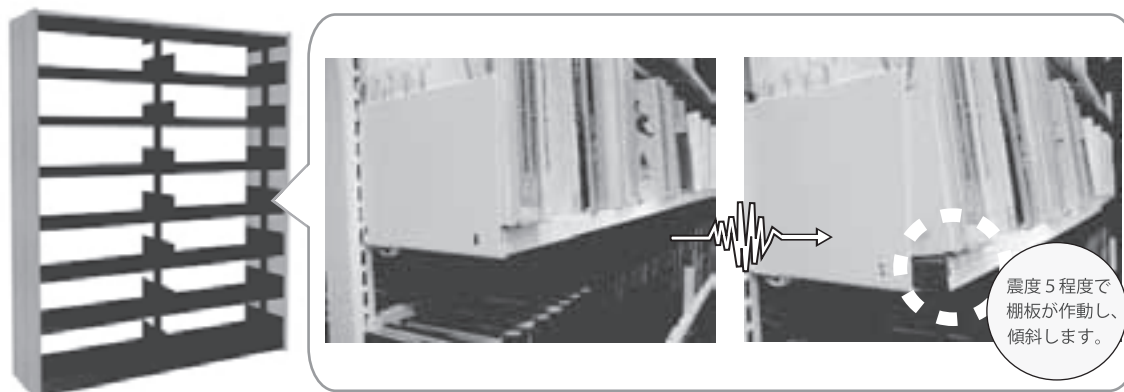
<http://www.e-okura.co.jp/>

Japanes e& Korean Books
Database・Micro film
Book Master・Inset tape

金剛は、使う人にとっても、収納物にとっても快適な環境をご提案します。

地震
対策

傾斜スライド棚

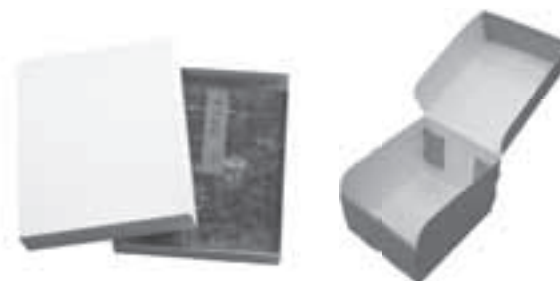


- 地震の揺れで棚板をスライド・傾斜させ、図書資料の落下を軽減します。
- 傾斜後、女性の力でも簡単に復旧できます。
- 既存の書架にも設置できます。ただし、既存書架の強度や床・壁固定等の確認が必要です。ご相談下さい。

環境
対策

中性紙保存箱

収蔵資料を収納する際に、保護するための中性紙箱です。光や水分・ホコリ・汚染ガス、虫菌害等から資料を守ります。



防塵・防黴作業

ホコリや汚れは虫・カビの温床となります。金剛では、専門スタッフによる防塵防黴作業も支援しています。実施プランの作成・お見積もりなどお気軽にご相談下さい。

空間をデザインする
KONGO
www.kongo-corp.co.jp

ホームページにて、傾斜スライド棚の動画も公開中です！

金剛株式会社 福岡支店

福岡市東区名島3-2-10 TEL(092)681-6286 (代)

本社・工場/ 熊本市西区上熊本3-8-1 TEL(096)355-1111 (大代)

営業拠点/ 仙台・東京・静岡・名古屋・金沢・大阪・岡山・広島・高松
福岡・大分・長崎・佐賀・熊本・八代・天草・宮崎・鹿児島・沖縄

製本

創業以来の豊富なノウハウと高い技術力で、学術雑誌、行政文書、新聞などあらゆる製本から貴重な資料の修理製本まで、小ロットから大量発注まで柔軟に対応します。

- 雑誌合冊製本 論文製本 新聞製本 カルテ製本 簡易製本 図書改装製本
- 貴重書・古書修理製本 行政文書製本 和綴じ製本 帙・四方帙

資料保存

資料の劣化状況、目的、ご要望に合わせて適切な保存処置をご提案しています。大切な蔵書を虫やカビなどから守るための環境整備も行っています。

- 中性紙保存用品 脱酸性化処理 裏打ち・すきはめ 軸装・額装の再仕立て
- 環境整備用品 環境調査・除塵防黴施工

アウトソーシング

ライブラリーソリューションセンターを中心に人材、ノウハウを整え、図書館業務の運用・利用者サービスの向上、システムの効率的な運用をバックアップします。

- 雑誌受入整理 雑誌遡及入力 製本準備・受入 図書受入整理 図書遡及入力
- 装備作業 カウンター業務 書籍移動

デジタル・ソリューション

情報資産の有効活用に欠かせないデジタル化に対し、効率のよいコンテンツづくりから、公開・運用までワンストップでサポートします。

- イメージデータ作成 テキストデータ作成 公開システムの構築
- デジタル・アーカイブ向けコンテンツ製作 研究成果物公開・機関リポジトリ構築支援

図書館システム・サプライ

図書館の運用・利用者サービスに欠かせないシステム・アイテムを数多く揃え、ハードの面からもよりよい図書館づくりに取り組んでいます。

- 図書館システム 自動貸出返却装置 (ABC) 無断持出防止装置 (BDS)
- タトルテープ™ RFID システム 書架 スチールボックス ラベル印刷
- カード作成 オンデマンド印刷 別注ファイル

120427

お問い合わせは

ナカバヤシ株式会社 図書館ソリューション営業部

東京本社	〒174-8602	東京都板橋区東坂下 2 丁目 5-1	TEL:03-3558-1251	FAX:03-3558-1260
大阪支社	〒536-0005	大阪市城東区中央 2 丁目 1-23	TEL:06-6930-6668	FAX:06-6935-2667
名古屋支店	〒456-0053	名古屋市熱田区一番 2 丁目 2-6	TEL:052-661-3771	FAX:052-661-3775
福岡支店	〒812-0051	福岡市東区箱崎ふ頭 5 丁目 7-11	TEL:092-641-3661	FAX:092-641-3699

札幌営業所	TEL:011-846-7884	仙台営業所	TEL:022-284-3045	水戸営業所	TEL:029-254-1534
横浜営業所	TEL:045-952-0501	広島営業所	TEL:082-270-3141	高松出張所	TEL:087-831-5825

<http://www.nakabayashi.co.jp/> toshokan@nakabayashi.co.jp

JQA-1733の登録活動範囲:製本関連(図書館製本、軸装)の設計・開発及び製造
JQM-EM1197の登録活動範囲:ナカバヤシで製造されている各種事務用品、事務機器に係る企画、管理、開発、販売、配送及び事務運営



電子ジャーナルホスティングサイト

PierOnline ピアオンライン

PierOnlineは国内の学術出版社が発行する医学・薬学・看護系の学術誌を電子ジャーナルとして提供するホスティングサイトです。ご利用は、提供される電子ジャーナル1誌ごとに年間ご契約が可能です。冊子体（本誌）の非購読者は論文単位でのPayPerViewご購入が可能です。

「CORE Journal 循環器」が追加されました！



「CORE Journal 循環器」は、日常診療におけるさまざまな疑問（CQ）に対して、専門家が現時点における最良のエビデンスを検証し、実践的指針を呈示する新しい形のオピニオン・ジャーナルです。

「整形外科サージカルテクニック」が追加されました！



整形外科領域の「手術」を徹底して取り上げる新しい専門誌です。教科書には載っていない手術のコツ、ピットフォール、リカバリー法などが満載です。

「癌と化学療法」が電子ジャーナルのみでご契約できます



PierOnlineでは、通常冊子体の年間購読がご契約の条件となっておりますが、「癌と化学療法」は、冊子体のご購読は必要なく、PierOnlineで電子ジャーナルのみのご契約が可能です。

ご希望のタイトルを一誌単位で購読できます



PierOnline はパッケージ商品ではありませんので、必要な雑誌だけを一誌単位でご購読いただけます。また、お得なパッケージ価格もございます。

インターフェースが新しくなりました！

アクセスはこちらから ↓
<http://www.pieronline.jp/>



メディカ出版全誌パッケージのお得な価格もご用意しております

現場の看護師さんの悩みにも分かりやすくお答えしています。試験対策ページも掲載していますので、スキルアップにお役立て頂けます。

UniBioPress

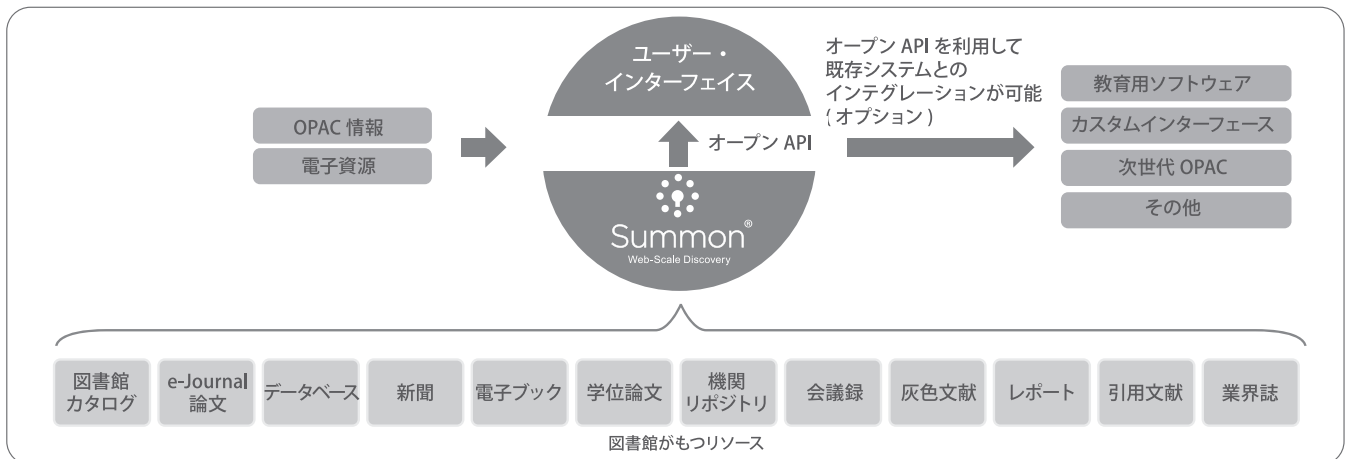
- Current Herpetology
- Mammal Study
- Paleontological Research
- Journal of Mammalian Ova Research
- Ornithological Science
- Zoological Science

価値ある45誌を収録！

まるで Google のように、 図書館がもつさまざまなリソースを検索します

Summon は統合検索や次世代 OPAC を越える全く新しい検索サービスです。グーグルのようなシンプルなインターフェイスから図書館独自の広範囲で信頼性の高い情報へすばやくアクセスすることができます。

図書館の所蔵資料や契約データベース・電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセス誌といった図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせる手法でこれまでにない検索スピードを実現しました。



POINT 1

すべてのリソースを一度に検索

すべてのリソースをたったひとつの検索窓から見つけることができます。現在のインターネットユーザーのニーズを満たす新しい学術情報の検索スタイルを提供します。

POINT 2

信頼のおけるコンテンツだけを検索

検索対象はすべて図書館のコンテンツです。信頼性が高く、しかも入手可能なコンテンツにのみアクセスすることができます。

POINT 3

瞬時に検索結果を表示

図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせるので、Google などの検索スピードを実現します。

これまで見つけることが困難だった資料でも たった1つの検索窓から瞬時に見つかります！



図書館システムと連携して 所蔵・貸出情報を リアルタイムで表示

冊子の検索結果には現在の貸出し状況や保管場所が表示されます。検索結果をクリックすると図書館 OPAC のライブリンクになっています。

availability: 貸出中、中央図書館所蔵

SaaS 型サービスなので 導入・メンテナンスの 手間がかかりません

Software as a Service(SaaS) で提供されるため、サーバーの設置やアップデート、メンテナンスといった作業に人員を割く必要はありません。常に最新で最適な状態でサービスを利用することが出来ます。

目的の資料への確にナビゲートします

ファセット機能によりフォーマット、主題、出版年などによる絞り込み検索を効率的に実行できます。また、360Link などのリンクリゾルバと連携して該当の資料に確実にたどり着くことができます。

360 360 LINK

お問い合わせ先

Content Solutions Company
SUNMEDIA

株式会社サンメディア e-Port カンパニー

e-mail: e-port@sunmedia.co.jp

東京本社 〒164-0012 東京都中野区本町 3-10-3 PORT ビル
Tel: 03-3299-1575 Fax: 03-3374-1410

大阪オフィス 〒550-0003 大阪市西区京町堀 1-3-3 肥後橋パークビル 4F
Tel: 06-6444-7720 Fax: 06-6444-7730



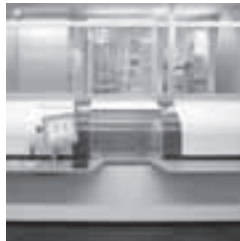
Media Runner

自動書庫システム【メディア ランナー】

図書館施設の24時間利用を可能にする、新発想の閉架書庫。

閉架書庫は、一般的には蔵書の管理保管スペースとして設置されています。しかし、最近の動向として、図書館施設の24時間利用を前提に、自動書庫化する大学が増えています。オカムラでは、物流市場におけるノウハウを活かし、図書館施設に特化した自動書庫システムの「メディアランナー」を開発。収蔵される書籍は、ICタグによる自動検出機能で、迅速かつ確実なピックアップと再格納を可能にします。

無人貸し出し



ICタグ管理とタッチパネル操作



自動棚卸し



【西日本支社】

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-3-3 明治安田渡辺ビル TEL: 092(482)8822 FAX: 092(482)8824

<http://www.okamura.co.jp/> お客様サービスセンター ☎0120-81-9060 受付時間 9:00~17:20(土・日・祝日を除く)

よい品は結局おトクです

オカムラ
株式会社 岡村製作所

機関向け電子書籍サービス

NetLibrary

<http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/netlibrary/>

- フルテキスト検索、コンテンツ間横断検索を実現!
- 搭載件数 31 万点以上、世界最大級のコレクション! (2012 年 11 月現在)
- 豊富な導入実績! 全世界 26,000 以上の図書館が利用! (2012 年 11 月現在)
- 紙の本と同じ、1冊からの買切り方式!
- いつでもどこからでも…リモートアクセスが可能!
- NACSIS 形式の MARC レコードを標準無償提供!
- 書架スペースの確保に最適!



お問合せ先 ■ 紀伊國屋書店 福岡営業所

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街 2-1 博多バスターミナル 9F Tel:(092)437-5353 Fax:(092)437-5356

ジュンク堂書店

淳久堂書店

お店で選書ツアーができます

☆学生・先生・司書の皆さんで学校企画としていかがですか？
各階専門書・地下一階に1万5000冊の洋書売場も充実！
B1～4階フロア・140万冊の店舗で選書が可能です(要予約)

お問い合わせ先 E-mail fk-gai@junkudo.co.jp

福岡市中央区天神 1-10-13 天神 MMT ビル

電話・092-738-3405 FAX・092-738-3230

広げます あなたの未来 政府刊行物

探したい本はここで見つかる。

政府刊行物のホームページ

<http://www.gov-book.or.jp/>

政府刊行物サービス・ステーション

天神:福岡市中央区天神 4-5-10(チサン天神 1F)

市役所:福岡市中央区天神 1-8-1(福岡市役所 B1F)

TEL(092)721-4846

TEL(092)722-4861

県庁:福岡市博多区東公園 7-7(福岡県庁 B1F)

TEL(092)641-7838

政府刊行物普及株式会社・福岡県官報販売所

福岡市中央区天神 4-5-17

TEL(092)761-1151 FAX(092)751-0385

Auto Lib.

自動化書庫・オートライブ

導入成果の確かさで ご好評をいただいています

オートライブの最大の特徴は、膨大な図書・資料を効率的に保管し合理的な検索・出納システムによって利用者が求めた情報を迅速に、的確に提供できることです。入出庫の速さとともに、図書のサイズ別フリーロケーションとダブルコンテナ格納方式の採用により高密度保管と高速出納を両立させました。

オートライブの特長

- ▶利用者へのサービスが大幅に向上します。
- ▶すべての自動化により、大幅な省力効果が得られます。
- ▶保管密度が極めて高く、大きなスペースセービング効果が得られます。
- ▶コンピュータによる蔵書点検など管理レベルが飛躍的に向上します。
- ▶蔵書データとの照合・確認を簡単に行うことができます。



よりよい保管システムを提供する



日本ファイリング

本社/〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2(新御茶ノ水アーバンビル) 支店/大阪・名古屋 営業所/札幌・仙台・広島・福岡

資料請求・お問い合わせは▶<http://www.nipponfiling.co.jp> ☎0120-808-977 電話受付/月~金(土・日・祝日を除く)9:00~17:00

FUKUOKA KAIGAI LIMITED

洋書・洋雑誌・バックナンバー輸入販売



福岡海外株式会社

福岡市中央区天神4-1-18 〒810-0001

Tel: 092-741-2685 Fax: 092-741-8418

e-mail: fkaigai@lime.ocn.ne.jp

九州大学基幹教育院

検索

QREC

検索

九州大学大学院芸術工学研究院

検索

九州大学大学院数理学府

検索

学校法人中村学園女子中学校

検索

Fusic Co.,Ltd.

検索

edubase

検索

matchask

検索

九州大学大学院統合新領域学府

検索

QIR 九州大学学術情報リポジトリ

検索



Fusic Co., Ltd.

WEB システム・HP 開発実績



知を求める全ての人々に。

丸善は大学・図書館・企業など、あらゆる分野の方々へ学習情報と課題解決に向けたソリューションのご提供により、教育・研究を支援するベストパートナーを目指します。

書籍・学術資料の提供、大学キャンパス・学校施設・公共施設・図書館等各種施設のデザイン・設計・施工、図書館運営、アウトソーシング

M MARUZEN

丸善株式会社 福岡支店

〒815-0031 福岡市南区清水 2-15-11

Tel : 092-561-1831 Fax : 092-561-1854

URL <http://www.maruzen.co.jp/top/>

札幌 / 仙台 / 関東 / 名古屋 / 金沢 / 京都 / 大阪 / 神戸 / 岡山 / 広島 / 福岡

貴重資料のデジタル化・オンライン配信をサポート

J-DAC 人社系歴史資料に特化した学術情報ポータルサイト

Japan Digital Archives Center

ジャパン デジタル アーカイブズ センター

J-DACはこのようなお悩みに対するソリューションを提案いたします。

所蔵
資料を

- デジタル化したいがその費用が確保できない。
- デジタル化したが、利活用につながらない。
- デジタル化しデータベースを構築したが、維持・運営に困っている。

所蔵資料および書誌情報等

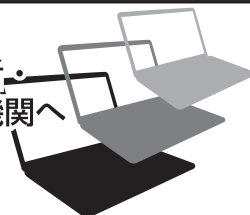


所蔵資料利用料

J-DAC
Japan Digital Archives Center®

- ★メタデータの整備
- ★原資料・マイクロからデジタル化
- ★資料に応じた検索方法を構築

利用希望者・
利用希望機関へ
有料公開



【所蔵資料のデジタル化・オンライン配信までの流れ】

研究者のニーズに
合わせて資料を選定

ご所蔵の貴重資料をデジタル化、
資料の特徴に合ったメタデータを付与し、
それを基にデータベースを構築

オンラインにて有償提供し、
所蔵資料利用料を支払う

お気軽に
お問い合わせ
ください

株式会社 **雄松堂書店**

詳細は WEB サイトにて掲載中

j-dac.jp

本社：〒160-0002 東京都新宿区坂町27 Tel: 03-3357-1449 Fax: 03-4335-9419 E-mail: arcaives@yushodo.co.jp

九州地区大学図書館協議会誌 第55号

平成25年2月発行

発行 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学附属図書館内
九州地区大学図書館協議会

T E L (092) 642-2324

F A X (092) 642-2330

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>